

かつた。本年度の主要仕向地は上海である。

爪哇市場概観 年明の砂糖市況は不振状態にあつた。二一—二二年の世界收穫が前年の收穫よりも少なかる可き見込はあつたが、反面に於て明白なストックが、特に爪哇に於て年度初め前年度の同時期よりも少なからず多大だつたのである。

又特に爪哇糖に取つて好ましかる要素はその主要販路の一なる英領印度に於ける政情が不安だつた事で、それに又英印では玖馬糖の競争を蒙らねばならなかつた。

聯合爪哇砂糖生産者組合は二一年に於て二二年收穫から一、九四六、〇〇〇ビクルを賣捌き得たに過ぎなかつたが、本年度一月初めにも尙未だ買手の提供した白双及び中双十六番以上に對するビクル九盾五十仙の値では賣進まず、その指値を白双十一盾、中双十盾、黄双九盾七十五仙で押通し、一月下半には約八百萬ビクルを此値段で賣却し得た。中五百萬ビクル強は白双であつた。之を動機として白双の指値は五十仙の引上を見た。二月初め二弗仙八分の一乃至二弗仙に引下げられた玖馬相場と英印及び支

那に於ける玖馬糖の提供は爪哇の市況を著しく弱化し爲めに一月中に十九盾五十仙に昂騰した。専らセコンドハンド及びサードハンドに在る二一年收穫の白双も十七盾五十仙迄低落した。同時に二二年糖の白双も六月—七月渡し十一盾即ちトラストの指値よりも五十仙以下でセコンドハンドに依つて取引された。それでも此値段は諸消費國から電信される相場の等價以上で其結果諸外國は爪哇で買付けた船積未済の輸出向砂糖を逆賣す可きオーダーを發しカルカッタからは逆賣の爲め爪哇に向け砂糖の返送を見た程であつた。

斯の如き状態に影響されてトラストの二月に於ける販賣は云ふに足らず玖馬相場が二月下半は二弗仙四分の一に昂騰した際も何等市況を復活せしむるに足らなかつた。三月初め英印の砂糖輸入税は一五パーセントから二五パーセントへ引上られた。當時二弗仙八分の一乃至二弗仙四分の一間を上下した玖馬相場は殆んど爪哇市場へ影響を與へず三月第二週に至つて初めて紐育並に倫敦の高値に依り若干市況の改善を見た。

需要は初め黄双に集中しトラストは前記の指値で八萬二千ヒクル強を日本筋へ賣付たが其後は多量の白双を十一盾五十仙で賣込むに成功した。セコンドハンドでは三月中頃七月渡し白双が十二盾八分の一で取引されたが二一年收穫の白双即時渡は十六盾七十五仙で取引を見た。

三月中頃發表された爪哇の二月船積高三六、七〇〇噸は豫期よりも著しく多量で、一月船積と同じく大部分委託販賣積込であつたが、兎も角ストックの減少は爪哇の市況を若干強氣化した。三月下半に玖馬相場が二弗仙十六分の五乃至二弗仙十六分の七に昂騰した際歐人の大輸出商は再び市場に現れ爲めにトラストは前記の指値で多量の砂糖を賣却し同月末の賣却高合計は一二、〇四二、五六九ヒクルに上つた。其内譯は下の如くである。

白 双	七、四〇八、四七七ヒクル	黄 双	二、七三八、九六一
車 白 糖	二八一、一一〇	赤 双	一五〇、五二六
中双十六番以上	一、四五〇、二〇一	セントリ袋糖	一三、二九四

當時トラスト加入園の二二年收穫見積は二四、一六三、九九四ヒクルに達してゐた。

セコンドハンドの取引は再び主として白双に限られ同月末の實價は六一七月渡十一盾八分の七、六一八月渡十一盾七十五仙に上つた。三月末に至つて二一—二二年の世界收穫は再び下の如く見積變更を見た。二〇—二二年の數字も併記する。(單位噸)

二〇—二一年	二一—二二年見積	二〇—二一年	二一—二二年見積
甜菜糖 四、六七五、五九四	五、〇一〇、五〇〇	甘蔗糖 一一、九一七、九一一	一一、五九七、〇六〇
計 一六、五九三、五〇五	一六、六〇七、五六〇		

即ち前年度よりも一四、〇五五噸の増加である。四月初めの爪哇市場は買氣弱く二一年收穫のストックが賣盡された事に關連して殆んど全く新收穫の初物に限られ六一七月渡は十二盾乃至十一盾七十五仙、月末には十一盾八分の三で取引を見た。トラストは頗る先物の砂糖のみを手持してゐたが四月には先物の需要は殆んど起らなかつた。玖馬相場が五月初め二弗仙四分の一から二弗仙二分の一に昂騰した事も爪哇市場には云ふ可き程の好影響を與へなかつた。蓋し爪哇の市況は日本勘定で買付られた黄双

の逆賣に壓迫されてゐたのである。其他の諸消費國からの云値は頗る低かつた爲め取引はローカルな性質を帯び主として白双に限られ五月渡十三盾四分の一、七月渡十一盾四分の一乃至十一盾八分の三の相場だつた。五月中頃の市價は更に低落し白双は五月渡十二盾八分の七、七月八月渡十一盾八分の一の相場で中双十六番以上は六月渡九盾八分の五、七月渡九盾二分の一で取引された。雨期が永延いた爲め爪哇の五月産額は豫想以下だと見られ若干の輸出商は五月船積で賣約した數量を買慌て、爲めに白双の五月渡相場は十三盾八分の五に昂騰した。其後五月渡は十三盾に低落したが間もなく英領印度からの大注文に依り十三盾八分の三に回復した。此等の注文に依つて先物の相場も昂騰し、白双は六月八月渡十二盾八分の三乃至十二盾二分の一となり九月渡は十二盾八分の三に上つた。

トラストは四月及び五月に於て當時の低値で賣放すを躊躇したが五月末に至つて大量の黄双を八月十月渡九盾四分の三で賣却するに成功し其後も同價で賣續き中双十六

番以上も十盾、白双は九月十月渡十二盾二分の一で賣拂つた。六月初め世界の明白なストックは一年前の三、一七九、八〇六噸に對して二、三二七、六八〇噸と見積られ市況の改善に與る事多く此ストックの減少は世界收穫の増加に依つて相殺され得ない程度のものであつた。従つて玖馬相場が高まつて六月末三弗仙四分の一に達し輸出向の注文が増大するに連れ市況は活潑となり、トラストは六月中に、六、八〇〇、〇〇ピクルを賣渡した。中三、三〇〇、〇〇〇ピクルは前記の舊指値で賣られたが六月中頃指値は白双十二盾四分の三、中双十六番以上十盾四分の一、黄双十盾となり更に月末には白双十三盾、中双十六番以上十盾二分の一、黄双十盾四分の一に引上られた。セコンドハンド及びサイドハンドの價格も同じく昂騰し六月末には白双六一七月渡十三盾四分の一乃至十三盾八分の三に達した。トラスト加入國の六月末賣却高は下記に上つた。

白	双	一〇、一四八、二七三ピクル	中双十六番以上	四、二六五、一四六		
車	白	糖	二八六、三五三	黄	双	四、七〇五、八四九

赤 双 一五〇、五二六ピクル
セントリ袋糖 一三、二九四

計

一九、五六九、四四一

六月末の見積に依ればトラスト加入園の收穫は最初の期待よりも著しく増加すべき形勢にあつたがトラストは注文續來に刺戟されて白双及び中双十六番以上の指値を八月初め更に十三盾四分の一及び十一盾四分の一に引上げ間も無く新指値で多量の取引に成功した。七月下半初め白双の需要強く指値は十三盾二分の一となり新値で約卅五萬ピクルの取引を見たが同時に多量の黄双も十一盾で日本商館に賣渡された。臺灣の收穫が當初の四十萬噸見積から廿五萬噸の見積に引下らるゝに至つて日本側の黄双需要は激増しトラストは指値を十一盾八分の五を経て十一盾四分の三に引上げ多量の黄双を賣拂つた。七月中頃に至て市況は玖馬の低相場と輸出注文の缺乏で弱氣化した玖馬相場が七月下半に至つて三弗仙四分の三に昂騰するや市況再び強氣に變じトラストは同月末約百廿萬ピクルを白双十三盾二分の一、中双十六番以上十二盾、黄双十一

盾四分三で賣却し其後白双の指値は十三盾四分の三迄引上を見た。

此等の販賣高には二二年收穫の中双十六番以上及び黄双殘額も含まれてゐた此種類の取引は其後セコンド及びサードハンドに限られ特に中双十六番以上の輸出向需要存続した爲め八月初めには十二盾四分の一乃至十二盾二分の一の値が支拂はるゝに至つた。市況強氣と需要續存に依りトラストは八月第一週に於て白双の指値を十四盾に引上げ今迄白双と同價で賣られてゐた車白糖の如きは十四盾四分の一の賣値を見せた。同時に二三年收穫に對する需要も起りトラストは白双十三盾四分の一、中双十六番以上十二値の指盾で賣出すに決定したが八月九日に至つて初めて九十八萬ピクルの取引に成功し其後廿四萬ピクルも同價で賣放つた。二二年收穫の白双殘額もトラストは八月上旬に於て一部分十四盾で賣却し赤双は十盾四分の一乃至十盾三分の三セントリ袋糖は十盾の値で賣却された。

セコンドハンドの取引は殆んど全ての黄双と車白糖が輸出商の手中にあつた爲め八

月上旬には主として白双及び中双十六番以上に限られた。白双の値段は八月中頃八―九月渡十三盾八分の五、九―十月渡十三盾四分の三乃至十三盾八分の七、十一―十二月渡十四盾に上り中双十六番以上は九―十月渡十二盾八分の五其後の先物は十二盾四分の三乃至十二盾八分の七で取引された。八月中頃を過ぎて間もなく爪哇市場は甚だしい反動に悩んだ。それは一部分米國上院が砂糖の新輸入税率を採用し、爲めで、玖馬糖に對する輸入税は糖度九十六で一弗仙八四なるに反し玖馬以外の砂糖は二弗仙三〇となつたのである。新税率の實施を見越して玖馬糖の買付は頗る盛んに行はれた。それは玖馬の七月末迄の輸出額が二一―二二年に於て二〇―二一年の一、六〇二、八九七噸（中北米宛一、〇八五、六五二噸）に對して二、八五一、三九一屯（中北米宛一、六一九、一四三噸）に上つたに見ても明かである。北米の砂糖消費は頗る激増したには相違ないが輸入が多だつた爲めストックは増大し、新税率の結果として起る高値は消費を減退せしむ可しと期待され一般の市況は弱氣となり玖馬相場は九月に至つて、三弗仙八

分の五から三弗仙に後退した。爪哇の相場も之れに呼應して低落し九月末セコンドハンドの取引は白双十一―十一月渡十二盾四分の一、十一―十二月渡十二盾二分の一、十二月―一月渡十二盾八分の七乃至十三盾、一―二月渡十三盾乃至十三盾八分の一で行はれ中双は十一―十一月渡十一盾乃至十一盾八分の一、十一―十二月渡十一盾四分の一乃至十一盾八分の三、十二月―一月渡十一盾二分の一の値を擧ぐるに過ぎなかつた。十月初めに至つて市況は玖馬の相場高に連れて強氣化しトラストは二日間に二二年收穫の白双百七十萬ピクル強を十二盾四分の三乃至十三盾で賣拂つた。十月上旬に於てトラストは更に二三年收穫から一、九三二、〇〇〇ピクルを白双十二盾四分の三、中双十六番以上十一盾四分の一、黄双十一盾で賣渡した。十月中頃セコンド及サードバンドの取引實値は十月渡十二盾四分の三、十一―十二月渡十二盾八分の七、十二―一月渡十三盾八分の一乃至十三盾二分の一、二―三月渡十三盾八分の三乃至十三盾二分の一に上つた。然し取引は主として先物に限られ玖馬が三弗仙四分の三の相場を傳ふ

るに至つてさへ爪哇市場は即時渡及び近物に對しては何等の反響を示さなかつた。原因は未賣却のストックが尙爪哇やモリシアスに大數量殘存しそれに對して英印や英國が何等の買氣を示さなかつた爲めである。其結果二二年糖の相場は十月下半に於て玖馬が三弗仙四分の三に昂騰したに拘らず八分の一乃至四分の一盾を低落した。然し二三年糖に對しては特に中双十六番以上及び黄双に對する需要強くトラストは前記の指値で絶へず賣續け若干の白双に對しては十三盾の値さへ獲得し得た。十月末のトラスト二三年糖販賣高は六、〇九五、〇〇〇ピクルに達した。十一月上旬の市場は閑散を極め取引は専らセコンド及びサードハンドに限られ、白双は十一月十二月渡十二盾八分の三、十二月渡十二盾二分の一、一月渡十二盾四分の三、中双十六番以上は十一月十二月渡十一盾二分の一と云ふ低値を見せた。英領印度が十一月中頃多大の注文を送るに至つて市況は初めて活潑となり、其後同國及び歐洲からの注文續來で價格は昂騰傾向を辿つた。トラストは此好況を利用して二二年糖の最後の殘額を賣盡した。從

て十一月末の二二年糖賣上高は下記に上つた。

白	双	一四、二四五、五七九ピクル	赤	双	三四八、七三四ピクル
車	白	糖	セントリ	袋糖	二二、二九四
中双十六番以上	双	六、五四七、六九八	計		二六、〇八四、九八七
黄	双	四、五六四、三二二			

二二年糖の買手は左記の如くである。

歐人商館	七、五七七、五一三ピクル	英領印度人	七六九、四〇〇ピクル
日本人同	九、九九二、二三三	アラビヤ人	二〇五、八七五
支那人同	五、二五〇、〇六六		

二二年糖の數字は下の如くであつた。

歐人商館	八、六三二、九七七ピクル	英領印度人	四八二、〇四七ピクル
日本人同	七、一四六、六一八	アラビヤ人	二三〇、五八〇
支那人同	五、五七六、八〇六		

上記に依つて數年前から活動し初めた日本商館が益々歐人商館及び支那人を凌駕し爪哇砂糖貿易の大部分を掌握しつゝある事が分る。然し之れは驚くに足らない事で日

本は爪哇糖に取つて最大の消費者たると同時に最大の分配者なのである。東洋の諸國は殆んど全て日本の顧客であつて、唯香港方面のみが今尙歐人及支那人の勢力圏外にあるが然し同地方でも日本人の競争は激甚化しつゝある。日本人商館が又褐色糖の大部分即ち五百八十萬ピクルを買付た事は注目に値する。トラストは十一月下半にも二三年糖を賣續け需要増大の結果同月末には白双十三盾、中双十六番以上十一盾四分の三、黄双十一盾四分の三の成績を示し又赤双も十盾乃至十盾二分の一で多量を賣放した。同時に二二年收穫の白双に對しても輸出向の需要強く十一月末の値段は十二月渡十三盾四分の一、一月渡十三盾八分の三、二月渡十三盾二分の一に上つた。二二年糖の爪哇ストックは十一月末前年同期の九、三一五、〇〇〇ピクルに對し一一、〇五〇、〇〇〇ピクルの見積であつた。十二月初めには委託積送諸國からの需要が充されると共に市況は軟弱となつた。尤もトラストは二三年收穫の黄双約廿七萬五千ピクルを其後引上られた十二盾の指値で賣り、又赤双も十盾乃至十盾二分の一で賣放すに成功した

が其後は此指値での買手は絶無だつた。セコンドハンドでは十二月上旬に於て二二年收穫の白双十二月渡十三盾八分の三乃至十三盾十六分の三、一月渡十二月十二盾四分の一、二―三月渡十三盾二分の一で取引され二三年收穫の白双は七―八月渡十二盾八分の七乃至十三盾で取引を見た。其後此等の相場は八分の一乃至四分の一盾の昂騰を示したが、十二月下半に至つて玖馬の收穫が四、一九四、〇〇〇噸に上る可き新豫想に依り八分の一乃至四分の一の低落を來すと共に爪哇の市況も軟弱となり白双に對する前記の値段は八分の一盾乃至四分の一盾を低落した。十二月終りに近く玖馬糖に對する需要増大の報が傳はり即時船積の相場が三弗仙八分の七に昂騰した爲め爪哇市況も引張りセコンドハンドでは一―二月渡十三盾二分の一で多量の白双取引があつた。トラストは十二月末若干の二三年收穫の黄双を十二盾で賣るに成功し、年末の二三年糖販賣高は下記に上つた。

白

双

五、九九八、六〇〇ピクル

車

白

糖

二三七、九〇〇ピクル

蘭領東印度貿易大観

一九八

中双十六番以上	三、二七一、七〇〇	セントリ袋糖	一〇、〇〇〇
黄	双 四、一七五、五〇〇	計	一三、八六五、四〇〇
赤	双 一七一、七〇〇		

糖蜜 本年度の糖蜜取引は相變らず固體糖蜜に限られたが其取引はビクル當り七十
二仙乃至一盾の値を示し數量に於ては前行年に比し微々たるものだつた。蓋し此等の
低値では諸工場では採算不引合だつたのである。年度末には一盾の値で英領印度への
輸出が若干あつた。二二年の輸出總額は二〇年の一七八、一五三噸、二二年の一七七、
九一一噸に對して九七、〇三三噸に過ぎなかつた。諸仕向先は前行年と同様である。

一八、煙 草

爪哇煙草

二二年に於ける爪哇及マヅラの葉煙草輸出は二〇年の二三、六一〇噸、二二年の七、
四二一噸に對して、一五、六九七噸に達した。輸出は常に大部分和蘭に向けられる。ク
ロソツク煙草の二二年輸出高は二〇、四〇六噸で主要仕向地は和蘭(一七、四一一噸)及

び伊太利(二、〇八一噸)である。二〇年及二一年の輸出高は各々七八、三九二噸、二三、
九〇九噸に上つた。爪哇の刻煙草輸出は同じく微々たるもので主として新嘉坡に向け
られる。デリーの二二年葉煙草輸出は二〇年の二〇、五四四噸、二一年の一四、一四二噸
に對して一五、〇六二噸に上り同じく主として和蘭に向つた。デリー以外にも外領で
はパリーとロンボックから葉煙草の船積がある。其數量は二〇年八六九噸で主として
和蘭に向ひ、二一年は皆無、二二年は六〇二噸で新嘉坡に向つた。又外領ではバダン
からの刻煙草輸出が爪哇と比較して稍々重大である。二二年の輸出高は六〇二噸で主
要仕向地は卑南と新嘉坡であつた。二〇年及び二一年の輸出高は各々七一六噸及び六
三六噸である。

土人産煙草

年初三ヶ月間の爪哇市場は殆んど取引なく四月乃至六月に於ても市況不振であつた
レムバンク、ロソツクは、ノミナル十二盾の相場でベスキクロソツクの後收穫は十七盾

五十仙の値を見せた。優良なクロソツクに對しては暫らく和蘭の高値に關連して興味の増大を見たが長くは續かず六月初めに至つて尙可成大數量の二〇年收穫からの煙草が賣残つてゐる事が傳へられると共に市況は軟弱化した。此等の惡材料に迫られて多數の支那商賣手は其煙草を銀行の仲介で直接に委託積送した。従つてクロソツクの輸出高は大した減少を見せず、葉煙草の輸出高は前年度よりも著しく多かつた。即ち二一年及二二年に於ける上半期の輸出は葉煙草四、八九〇噸及び一〇、五三二噸、クロソツク一六、八四一噸及び一四、九七五噸に達した。

七月乃至九月の市況も軟弱で其後も市價は低落傾向にあつたが年末に至つて突然興味の増大を見た。年度を通じて十二盾臺にあつた普通クロソツクは十三盾五十仙となり優良品は十五盾でさへ買手を見出した。然し現物の供給は甚だ僅少であつた。薄色のペスキ及びマヅラクロソツクが若干二四盾及び二六盾で取引されたに過ぎぬ。年は輸出商側からの需要増大に暮れた。

土人王領地煙草

二一—二二年收穫は其量に於て期待に反せず船積高は相當多かつたが、質に於ては稍劣惡化した。年初の入札に齎らされた煙草は米國側買手の需要に合したので良好な値段を擧げたが米國の市場に適しない其後の煙草は買手少く概ね生活費以下で賣拂はれねばならなかつた。下半期の入札には持越高の莫大なことが多く従つて二一—二二年收穫は今尙賣盡されてゐない。多くの土人王領地煙草園は本年度も亦少なからず損失を蒙つた事と思はれる。中には既に甘蔗栽培に鞍替した農園もある。二二—二三年收穫は更に又量質共に前年の收穫よりも劣惡な模様である。歐洲の經濟状態が改善しない限り二二—二三年收穫も煙草園に取つては過去四ヶ年に於けるが如く再び失望を與へるであらう。

ペスキ煙草

土人は低値に恐れて早物は前年度よりも少く植付た。だが品質は稍良好であつた。後

收穫も同じく少なかつた。數量の僅少なことは土人間に於ても農園に於ても同様だつた。中等のシガー煙草に對する二二年の市場は甚だ軟弱だつたが艶の良いカパー煙草は良好な値段で賣れた。又透明な刻み煙草の市場も頗る活潑だつた。此品質に對する需要は産額僅少な爲め益々増大する一方である。

スマトラ煙草

二二年に於ける販賣高と半斤當り平均價は二一年の一四五、五〇七梱、二八四仙に對して一六三、六八一梱、一九四仙に上つた。賣上總計は二一年の約六千四百廿五萬盾に對して四千九百五十萬盾である。従つて本年度は數量の増大に拘らず其販賣成績に於ては二一年よりも甚だ悪かつた譯である。

米國は諸スマトラ煙草會社の二二年收穫に對して満足に價する値段を提供した。然し大輸入商等は競賣制度の存續を希望し公然その意嚮を發表したから内輪の取引は到底成立し得ない様である。米國が早目にオツプアーした理由は前收穫の米國向カパー

煙草が既に消費されそのストックが激減してゐた爲めである。

一九、タバコカ粉

タバコカ粉

爪哇にのみ産出せられる本品の輸出は二二年に於て若干増大したが未だ二〇年の高臺には達しない。下表に明かな如く和蘭英國及び佛蘭西への直接輸出は著しく減少し米國及び日本へのそれは頗る増加した。

仕向先	一九二〇 千疋			一九二一 千疋			一九二二 千疋		
	一九二〇	一九二一	一九二二	一九二〇	一九二一	一九二二	一九二〇	一九二一	一九二二
和蘭	六、六〇〇	八、六六六	三、八〇五	一、九二〇	一、九二一	一、九二二	三〇	一五四	九
英國	一八、八四四	一七、〇六四	一三、三四三	一、九二〇	一、九二一	一、九二二	一五四	一五四	四、七五五
獨逸	二九	六、九三三	一	一、九二〇	一、九二一	一、九二二	一五四	一五四	二、六〇八
佛蘭西	—	四、九三三	—	一、九二〇	一、九二一	一、九二二	一五四	一五四	七、六三三
白耳義	—	四、九三三	—	一、九二〇	一、九二一	一、九二二	一五四	一五四	三、八七〇
伊太利	九七	一、九二一	—	一、九二〇	一、九二一	一、九二二	一五四	一五四	二四
加奈陀	—	—	—	一、九二〇	一、九二一	一、九二二	一五四	一五四	一七
米國	三〇、三三四	一八、〇七七	三、〇一八	一、九二〇	一、九二一	一、九二二	一五四	一五四	三
英領印度	—	—	—	一、九二〇	一、九二一	一、九二二	一五四	一五四	—
新嘉坡	—	—	—	一、九二〇	一、九二一	一、九二二	一五四	一五四	—
香港	—	—	—	一、九二〇	一、九二一	一、九二二	一五四	一五四	—
支那	—	—	—	一、九二〇	一、九二一	一、九二二	一五四	一五四	—
日本	—	—	—	一、九二〇	一、九二一	一、九二二	一五四	一五四	—
日支	—	—	—	一、九二〇	一、九二一	一、九二二	一五四	一五四	—
臺灣	—	—	—	一、九二〇	一、九二一	一、九二二	一五四	一五四	—
比律賓	—	—	—	一、九二〇	一、九二一	一、九二二	一五四	一五四	—
其他	—	—	—	一、九二〇	一、九二一	一、九二二	一五四	一五四	—

タビオカ粒

二二年の輸出高は二〇年の七、三五四噸、二一年の一〇、四七七噸に對して八、八九三噸に上つた。主要な買手は英米で前者は四、六七五噸、後者は三、〇三四噸を引取つた。二一年に二、一五三噸に達した對濠輸出は二二年に至り四八五噸に減退した。對蘭及對獨輸出も同様な減少を示してゐる。

タビオカ片

過去三ヶ年間タビオカ片輸出は隣接諸國に於ける産額減退等の原因に依り増加の一方で即ち本年度の輸出は二〇年の三、八八九噸、二一年の六、三八九噸に對して七、九〇八噸に達した。此中英國は四、一二三噸、佛蘭西は一、八一七噸、和蘭は一、〇〇七噸を引取つた。新らしい仕向地として特記すべきは瑞典、西班牙、及び日本である。

タビオカ屑

輸出は二一年の六五二噸から九三〇噸に増大した。主要仕向地は英國と白耳義である。

タビオカ根

本年度は二一年の一、一〇四噸に對して九、三〇一噸の船積を見た。主要買手の中英國は四、一一二噸を引取り和蘭、日本、佛蘭西及び白耳義は各々千噸強を引取つた。タビオカ産物に對する爪哇市場は下の如き経過を示した。前年末の軟弱な市況は本年度の三月迄存続した。唯二月初めシード、パール及び工場製粉が暫時の活氣を見せ、三月初めフレークの市價が稍昂騰したのみである。品質の優良を以て名高いガルハン園はアムステルダム商事會社の所有となつた。爲めにガルハン品の賣行頗る良好な米國では消費者間に今後同品の入手が困難となる可く杞憂され、他の優良品生産者と連絡を計り初めた買手も少くない。四月乃至六月には市況も強氣化したがストツクは少

く持主等は特にバンドン方面が高値を唱へた。それでも取引は圓滑に行はれたが七月乃至九月には需要の僅少に伴ひ市況も弱氣となり買手は持主の云値以下でオツプアーし續けた。當時米國は充分ストックを有したし、それに又同國で直接販賣を行ふ爪哇の一大工場の競争が頗る市場を壓迫したのである。十月以後のタビオカ市場は益々閑弱となり、バンドンの生産者連が高値を唱へ續けた爲め取引は殆んど成立しなかつた。タビオカ主要三品の市價は下の如き動搖を示した。

工場製粉

第一期 (一月乃至三月)	ク	レ	ベ	ツ	ト	I	九盾乃至十一盾
	ガ	ロ	ワ	ン		I	十一盾
	ア	ミ	ヤ	ユ		I	十一盾廿五仙
	バ	ン	ド	ン	粉	III	六盾乃至九盾
	ク					II	七盾五十仙乃至十二盾
第二期 (四月乃至六月)	ク					I	九盾七十五仙乃至十二盾五十仙

第三期 (七月乃至九月)	ク	レ	ベ	ツ	ト	I	一〇盾二五仙—一四盾五〇仙
	ク					II	一〇盾—一三盾五〇仙
	バ	ン	ド	ン	粉、中等	I	一〇盾—九盾
					上等	I	一九盾—一三盾

第四期 (十月乃至十二月)	ク	レ	ベ	ツ	ト	I	一三盾—一三盾五〇仙
	ク					II	一二盾五〇仙—一三盾三五仙
	ア	ミ	ア	ユ		I	一四盾
	バ	ン	ド	ン	粉、中等	I	一〇盾五〇仙—一〇盾七五仙
					上等	I	一三盾—一四盾

B III 粉	第一期—三盾	—二盾七五仙—三盾
第二期—三盾二五仙—三盾三〇仙—三盾		

第四章 輸出入貿易

第三期 — 三盾三〇仙 — 三盾五〇仙 — 四盾 — 三盾二五仙 — 三盾四〇仙
 第四期 — 三盾三〇仙 — 三盾四〇仙
 パール及シード

第一期 — Aシード — 一二盾 — 一三盾 — 一三盾 — 一二盾五〇仙 — 一二盾 — 一二盾 — 一二盾 — 一二盾 — 一二盾
 Bシード — 一二盾二五仙 — 一二盾

第二期 — Aシード — 一二盾五〇仙 — 一三盾五〇仙 — 一二盾五〇仙 — 一二盾五〇仙 — 一三盾 — 一四盾五〇仙
 Bシード — 一二盾 — 一四盾 — 一七盾 — 一六盾五〇仙

第三期 — Aシード — 一五盾二五仙 — 一六盾 — 一五盾五〇仙 — 一四盾五〇仙
 Bシード — 一五盾 — 一三盾 — 一二盾九七仙 — 一三盾
 Aパール — 一五盾五〇仙 — 一七盾二五仙 — 一五盾五〇仙 — 一四盾五〇仙 — 一四盾
 Bパール — 一六盾

第四期 — Aシード — 一五盾二五仙
 Aパール — 一五盾

ガブレツクの本年度に於ける取引は僅少だったが其値段はタビオカ産物の高値に従

ひ九月には買手倉庫渡しヒクル一盾九〇仙だったが十一月には二盾五五仙を唱へられ
 其後二盾四〇仙に低落したが年末には再び二盾五〇仙に反騰した。

二〇、茶

市況の改善に依り輸出は頗る増大した。唯爪哇及マヅラのみを論ずれば未だ二〇年
 の數字に達しない、爪哇の對蘭輸出は更に減退したが濠洲、英國、米國等への輸出は
 増加した、尙加奈陀、白耳義、英領南亞及び英領印度へ向け直接輸送が行はれた事は
 特筆に値する。

粉茶の輸出は二一年の七〇二噸に對して二九六噸に上り、其主要仕向地は和蘭及び
 英領印度であつた。二一年に最大の買手だつた米國へは何等の輸出も見なかつた。ス
 マトラ東海岸の茶輸出は頗る増大し二〇年の五、〇〇八噸、二一年の四、五一五噸に
 對して六、七五一噸に達した。主要な仕向地は相變らず和蘭(二、三八九噸)及び英
 國(三、四五八噸)である。又今迄直接船積を見なかつた瑞西、濠洲及び南亞が各々

二三五噸、二三五噸及び八四噸を引取つた事は注目しに價する。スマトラ西海岸の輸出は二一年の四二噸から一四噸へ激減した。爪哇に於ける茶の輸入は二一年の二、八〇一噸に對して二、七五一噸に上つた。此中各々二、五二九噸及び二、四二〇噸は日本からの輸入である。爪哇及マヅラの輸出明細を擧ぐれば下の如くである。(單位噸)

仕向地	一九一〇	一九一一年	一九一二年
和 蘭	一五、三九	二一、二〇七	九、六六二
英 國	二、七二六	六、五五五	一〇、三三四
獨 逸	—	一〇三	七五
佛 蘭 西	二五	一八	二四
白 耳 義	—	—	三六
伊 太 利	八	四	二四
米 國	三、二四	二、五七	四、一八七
加 奈 陀	七五	三元	四三
南 米	一六	—	三六
計			四〇、六七〇
英領南亞			三、六〇五
英領印度			三六、六八八
ポルトサイド			—
新嘉坡			—
日本			—
日 本			—
其 他			—

一九二二年度倫敦茶市場 本年度の蘭印茶取引高は二〇〇、四二七箱で中一五七、

七四七箱は爪哇茶四二、六八〇箱はスマトラ茶であつた。二一年に對する此等數字は各々一一八、五六一箱九二、一四九箱及び二六、四一二箱である。年は低値に明け若干の動搖を除けば九月迄軟弱な市況だつた。唯葉茶は碎茶よりも手堅い値段を見せた。最低の平均相場は七月中頃に達せられた。九月末に至つて市價突然奔騰し一ヶ月の間に英封度當り碎茶は四片葉茶は三片の値上を見た。本年度の市價を過去三ヶ年に於ける最高相場を見せた一九一〇年十月卅日のそれと併記對照すれば下の如くである。

種 類	二二年一月五日	二二年七月十三日	二二年十二月十四日	一九一〇年十月卅日
普通ダスト	五片二分の一	三片八分の七	三片八分の五	三分の一
最低相場、B・T	七ク四分の三	六ク	二分の一	四分の一
P・F	七ク二分の一	七ク四分の一	二分の一	四分の一
P・S	八ク	八ク二分の一	二分の一	四分の一
B・P	八ク四分の三	九ク二分の一	三分の一	四分の一
普通中等、P・S	九ク二分の一	九ク二分の一	三分の一	四分の一
P	一一ク	一〇ク二分の一	四分の一	五分の一
B・P	一一ク	九ク四分の一	四分の一	六分の二

普通中等、O・P 一一片二分の一 一一

五分の一 二分の一 五分の一 二分の一

古倫母の競賣 古倫母の競賣では本年度中に平均價格八六仙四七で六二、七六七、三九〇英封度の賣却を見た。二一年の當該數字は七一仙一八及び五八、一〇九、八九四英封度であつた。年初めの市場は高値で強氣を示し平均九六仙に上つた。然し不良な天候に禍されて品質は頗る劣等化し七月に至つて封度當り六八仙の平均價を示した。其後十一月七日にはレコードの平均價一留比一〇仙の支拂を見た。

カルカツタの競賣 カルカツタの競賣に於ける提供高は二〇年及び二一年の四八三、二三五箱及び五三六、八二五箱に對して六六一、二九七箱に達した。

和蘭の茶市場 アムステルダム茶販賣事務所の資料に依れば二二年には爪哇茶一六八、〇八六箱及びスマトラ茶四七、六四一箱の輸入があり和蘭内地への引渡高は一五〇、五三九箱、外國への輸出は一三二、九二二箱に上つた。十二月卅一日現在のファーストハンド在荷は一二、九六五箱に上つた。全體のストックは三四、三一〇箱の見積であつた。二二年の引渡高を種類別にすれば粉茶及び碎茶一八、一三〇箱、スーチ

オン及びベコスーチオン三六、一九五箱ブローレンクンベコ及びブロークンオレンヂベコ一三一、五九四箱、ベコ及びオレンヂベコ一〇六、九四六箱、フラワリー及びホワイトポイントベコ五九六箱である。

アムステルダム市場 此の茶市場は碎茶に對しては殆ど倫敦に於けると同様の経過を示し、唯後者よりも若干低値だつたのみである。葉茶の値段は一月及び二月中は倫敦よりも低く三―四月には殆んど同臺に達した。五月乃至八月のアムステルダム市場は倫敦よりも高かつたが九月には形勢再び逆轉し年末のアムステルダムは倫敦よりも低値に暮れた。年初年末の相場は下の如くである。

種 類	二二年一月 十二日仙	二二年十二月 月十四日仙	種 類	二二年一月 十二日仙	二二年十二月 月十四日仙
最低相場 B・T	四〇	八〇	普通中等 P・S	四五	八三
ク T・S	四一	七八	ク P	四七	八八
ク P	四二	八〇	ク O・P	五四	八九

ク	B・P	五三	八五	ク	B・O・P	八二	九九
優	頁 O・P	七六	九三				

本年度の提供茶は品質一般に良好で和蘭内地の消費のみならず再輸出に對しても需要は甚だ活潑であつた。二二年の引渡高は二九〇、八九〇箱で中一五四、八一五箱は和蘭内國消費、一三六、〇七五箱は再輸出である。二一年の當該數字は三二四、一四五箱、一五六、二四六箱及び一六七、八九九箱であつた。二二年十二月末のファーストハンド在荷は二二年末の二一二、四九〇箱に對して三三三、八九七箱に達した。

バタビヤ市場 バタビヤ市場では二一年下半年に濠洲勘定で多大な買付が行はれた爲め本年度一月初めには碎茶類に對しては殆んど需要がなかつた。提供された數量は甚だ多かつたが品質はウエストモンスーンの影響で餘り優良でなかつた。唯若干のプロクンオレンヂペコは賣行良好で米國向のオレンヂペコも多少の高値を見せたのみである然し一月十二日倫敦で行はれた競賣の價格が昂騰し次の倫敦競賣も高値を持続す

るに至つてバタビヤ市場も引張り亞米利加向の葉茶のみならず碎茶類にも多大の取引を見た。當時の市價は品質に従ひ下の如き形勢を示した。

プロクンオレンヂペコ	四五―七五仙	メコスーチヨン	三〇―四〇
オレンヂペコ	四四―七五仙	プロクンヂペ	二二―四〇
プロクンペコ	三六―五〇仙	ファンニンダ	一六―三八
メコ	三八―五五		

英領印度及錫倫からの茶輸出が一月下半に於て著しく増大したと云ふ報道は倫敦市場を悪化し之と呼應してバタビヤの市況も二月初めには不規則で軟弱となつた。唯供給の少なかつたプロクンオレンヂペコや良質のオレンヂ及びペコは高値を持続した。二月下半に至つて市況再び引張り三月上旬は更に諸消費國からの注文増大を見てバタビヤ市場は第一に米國向の葉茶に於て高値を現はした。又碎茶及びファンニンダに對しても需要強く、永らく中絶してゐたダストにも買氣起り若干數量は半疋十二仙乃至廿仙で取引された。三月十六日アムステルダムで競賣が突然な高値を示した事に

關連してタバピヤの賣手は特にアムステルダム市場向葉茶に對する指値を半冠以上上げた。供給量が割合に少なかつた爲め、此高値も喜んで支拂はれ三月末には四―五月渡の先物賣買さへ此値段で行はれた位であつた。

然し四月に行はれたアムステルダム及び倫敦の競賣が低値に終つた爲め、タバピヤ市場の取引も僅少に過ぎなかつた。五月上旬タバピヤでの需要は主として米國が買付を續行した葉茶及び優良な碎茶類に限られたが、其供給高は先物賣買の結果僅少に過ぎなかつた。反對に濠洲向碎茶類の値段は同國からの注文缺乏の爲め低落を餘儀なくされた。六月中頃に至つて碎茶類に對する需要は増大し其後濠洲からの注文が規則的に行はれた爲め値段は同月下旬に至つて若干昂騰した。同時に先物賣買も可成り行はれた。米國は葉茶の買付を續行してゐたが賣手は一般にオツファア―された値段では折合はなかつた。

七月に於ける倫敦とアムステルダムとの市場は大體に低値を唱へたがタバピヤの市

況は之に反して引緊つてゐた。七月上旬の需要は主として安物の碎茶に限られたが同月中頃には濠洲の注文増大に依り、オツファア―は全ての碎茶類に亘つて行はれ、現物のみならず續く數ヶ月の先物も良好な値段で賣拂はれた。又茶に對するオツファア―も賣手の指値に近づき規則的な取引が成立するに至つた。唯ファンニングとダストに對しては需要皆無でノミナル六仙乃至十五仙の値を唱ふるに過ぎなかつた。

八月初め英領印度の茶業組合は七月末迄の收穫が前年同期の九千一百万英封度に對して一億八百万英封度に達した事を發表したが、それは特に二〇年收穫が七月末迄に一億三千三百五十萬英封度に達した事に顧りみて市況改善の好材料だつた。それに又二一年に對する二二年の増産千七百萬英封度に對しては六月末の英國に於けるストツク一億七千萬英封度が七月末に至つて一億五千一百万英封度に減少した相殺的事實があり、市場は假令收穫が増加する共頗る容易に消化さる可しと云ふ期待に満ちた。

從て八月に於ては孰れの市場も可成り引緊つた市況を見せた。尤も同月の倫敦相場

は云ふ可き程の昂騰を見せなかつたが然しバタバヤでは特に碎茶類の市價が頗る昂騰した。提供された現物が漸次高まり行く値段で賣拂はれると共に濠洲側からの増加一方の需要は續く二、三ヶ月の先物に集中され其取引實値は倫敦相場及び最終のアムステルダム競賣價の等價以上にあつた。活潑な市況は九月にも續き、劣等なファンニングやダストを除けば提供された數量は何れも高値で賣拂はれ、碎茶類のみならず葉茶に於ても茶園の多くは十二月末迄の先物賣買を行つた。

主要消費諸國からの需要は十月に至つて頗る増大しバタバヤの市價は全ての種類に對して倫敦及アムステルダム相場の等價以上に出で以前賣込不可能だつた劣等のファンニングやダストにも取引を見た。多數の茶園では此高値に影響されて専らアムステルダム及び倫敦にその産物を送つて賣買する舊慣を捨て同じくバタバヤで賣出すに至つた爲めバタバヤの取引高は未曾有の數量に達した。十月十二日のアムステルダム競賣は若干品種に對しては前回よりも著しく高かつたがそれでも昂騰の度はバタバヤ市

場のそれと一致しなかつた。特に十月の倫敦競賣が高値に終ると共にバタバヤの市價も急騰し年度内に引渡得可き數量が賣盡されるに従つて買氣は益々二三年收穫の茶に集中され主として高地の知名な茶園の産物が買進まれた。此等の茶園は大部分一―九月渡に對してダストをも含め全ての種類に對して半斤六十仙の値で賣約したが、小規模な又は餘り優良でない茶園の産額は半斤五十五仙乃至五十八仙の平均價で賣約された。當時一―九月の産額を賣拂つたのは十六園に上り其他三月迄の收穫を取引した茶園も多數あつた。

然しバタバヤは十月に於て倫敦の市況に先走つた爲め倫敦及びカルカッタ市場が軟弱化すると共に十一月初めには反動を來し濠洲からの注文思はしく續來しない爲め市況を悪化した。唯當時提供された僅少の現物は殆んど十月末と同價で賣られたが先物取引は閑弱を極め十一月上旬に成立した若干の賣買も二月迄に限られてゐた。十一月中頃即時渡の價格も亦低落した後數日の中に市況は再び引緊り十一月廿三日倫敦競賣

が爪哇茶及びスマトラ茶に對して高値を傳ふると共にバタバヤでも先物取引が復活し二三年收穫の全部を賣約する者もあり値段はダストを含め全ての種類に對して平均五七仙乃至六七仙を往來した。

英國に於ける十二月一日の保税倉庫ストックが前月初めの數量よりも七十萬英封度多く又英領印度の茶收穫が十二月初め發表された見積に依れば前年の收穫よりも三千七百萬英封度の増加を期待せしめたにも拘らず十二月の市場は何れも頗る手堅かつた。倫敦とアムステルダムとの競賣で支拂はれた高値に呼應してバタバヤの相場も昂騰し提供された現物は喜んで買取られ一―三月渡の取引も多數に成立した。十二月末には三月以後の先物に對する興味は僅少であつた。年末の市況は手堅く下の如き相場を見せて終つた。

B・O・P
O・P
B・P

六八―九五仙
七〇―九八
六二―六八

P
P・S
B・T

六八―七五仙
六四―七三
五六―六八

F

五〇―七〇

尙本年度にバタバヤで茶買入業者組合が設立された事は特記を要する。新組合は疑もなくバタバヤ市場に好影響を與へるであらう。

二一、纖維類

ゴモトウ

此纖維はアレンガ、サツカリフエラ(砂糖椰子)から取られるが簡単な梳り方法に依つて、刷毛に頗る適した長目の纖維が作られる。

工務局は砂糖椰子の頗る多いチェリボンの奥地で粗原料から刷毛纖維を引放すと共にその殘物たる短い纖維で綱を編む試験を行つた。

刷子纖維は廿七吋、廿吋及び十二吋の種類に分たれ濠洲に賣込まれたが、値段はCiremelポーンで初めは〇.50當り六三片、次回は五六片に上つた。爪哇纖維は英領印度産よりも優良だと見へ販賣に困難はないが五六片の値段では未だ充分の利益を餘

さない。之は又短い纖維の利用が困難な事にも關係してゐる。試験的に濠洲に送られた品物は纖維が餘りに鋭く又取扱が困難だと云はれ被裝纖維としては不成績に終つた尤も實際は此用途に適して居り又歐洲では現に使用されてゐる。二二年の粗原料價格はビクル當り五盾五〇仙に上つたが今少しく低落を見ねば本業の經營は上述の刷毛纖維引放しに關連して餘り有望だとは云はれない。ゴモトウの二二年輸出は二七噸で中一四噸は白耳義九噸は濠洲へ船積された。今迄はブリオクが主たる輸出港であつたが二二年にはスマランが最も多量に輸出した。二〇年及び二一年のゴモトウ輸出は八五噸及び八噸であつた。

カボツク

二二年の爪哇輸出は二〇年の一二、一九四噸及び二一年の一七、五八六噸に對して一五、一二八噸に上つた。仕向先は下の如くである。(單位千疋)

和	仕向地	二、五三八	四、四三七	二、七五〇	英	仕向地	二、九三〇	一、九二一	一、九三三
	關					國	一、八	三三	四八

佛	蘭	西	佛	日	本	三三	三三一	六九
西	班	牙	五、五四五	濠洲及新西蘭	三、四二五	一、六六六	三、二八八	
米	國	一〇、〇七八	其	他	一一〇	五九	二二	
加	奈	陀	二二	計	二二、一九四	一七、五六六	一五、二三八	
新	嘉	坡	二六七					

外領の輸出は頗る僅少で二〇年は四七二噸、二一年は二九一噸だつたに過ぎぬ。輸出は主として和蘭へ向けられる。主要な輸出港であるマカツサの二二年に於ける船積は二一年の九五噸に對して約五〇〇噸に上つた。スマラン商業會議所は塵埃及び核の含有率を高める事に依つて内地取引に於けるカボツクの標準品質種類を減少すべく提案したが他の商業會議所は之に反對だつた爲めスマランのみカボツク標準を変更した此變更は濠洲に於て誤解を醸し爲めに濠洲の輸入商等は頗る困惑した。彼等は所謂濠洲物の減少に依り、又亞米利加に對しブライムスマランの名稱が與へられた結果として、特に濠洲向のカボツクを得る事難く、又今迄その買付けたカボツクをブライムスマランと呼んでゐた關係上、將來頗る不愉快な誤解が續出することを恐れた。然し此等

の苦情には何等の理由なく、變改されたカボック標準は専ら爪哇の内地取引にのみ適用されるので、輸出業者は充分仕向先の要求に鑑み特に各別な注意を拂ふ事を怠らぬのである。スラバヤ商業會議所は年度中にカボック取引に對する新仲裁規定を作成した。

バタビヤ市場 一月には二―三月渡のA・L・Sが五七盾迄で若干提供された。二月中頃には五七盾五〇仙で取引があつた。三月及び四月には取引無く相場はノミナルに昂騰した。五月下半には六六盾で若干の取引が行はれた。六月は更に市價昂騰しA・L・S九―十一月渡は七〇盾で賣買された。其後A・L・Sは十一月初め迄取引を見ず價格はノミナル七〇盾であつた。十一月末に至つてA・L・S十二―二月渡八四盾の取引が若干あつた。十二月中のA・L・S相場は八二盾であつたが實際の取引は見なかつた。

スマラン市場 一月の市場に持出されたカボックは、品質悪く屢々不合格品を出し

た。其關係で賣手は良質の一度壓搾現物に對してヒクル當り買手倉庫渡五九盾乃至六〇盾を拂つて代納せねばならなかつた。二月の市價は六五盾迄漸騰した。中部爪哇のカボック即ち最高十六立方呎に約五十八斤を含む第三コントラクトの如きは六三盾五〇仙で取引された。同時に多數の農園は其新收穫を九―四月渡でファーストコスト單壓物五四盾乃至五五盾、重壓物五八盾で賣出した。三月第一週のスマラン市場は閑弱を極め殆んど取引を見なかつた。月末には亞米利加向單壓物が七五盾で取引された。此値段での賣手は多かつたが其後需要は七一盾以上には出でなかつた。四月初め爪哇カボック新收穫九―十一月渡はAコントラクト六〇盾、Bコントラクト五八盾及びCコントラクト五三盾五〇仙で取引された。Bコントラクトの現物は當時七三盾五〇仙の値を擧げた。其後同月の市價は昂騰を續け月末に至つてアムステルダムがヒクル一〇二盾の値を傳ふると共に新收穫九―十一月渡はAコントラクト六八盾乃至六七盾五〇仙、Bコントラクト六四盾乃至六五盾五〇仙で取引を見た。五月初めには舊收穫殘

物が未壓搾で八五盾の取引を見せたが、其後も高値を續け五月末には新收穫十二月渡に對して約一六立方呎五七斤單壓物でAコントラクト七一盾五〇仙、Bコントラクト七〇盾及びCコントラクト六五盾五〇仙で買手があつた。然し其後市況は漸次軟弱化し買手はBコントラクトに對しては六五盾以上を支拂はず、Cコントラクトは十一月十二月渡需要六二盾、供給六四盾と云ふ状態だつた。

此の軟弱な景氣は七月末迄續いたが最後の週に至つてBコントラクトに對しては六八盾、Cコントラクトは六四盾で需要起り市況若干改善した。八月中には更に絶へず値段の昂騰を見て同月中頃にはBコントラクト七一盾を唱へたが買手は一般に先待ち態度に出た。反面に於て新收穫が頗る増大すべき見込が傳はり空賣買も盛んに行はれた。値段の釣上は九月中頃迄繼續され、當時の提供價は二三年一月迄の引渡でBコントラクト七四盾及びCコントラクト六八盾であつた。其後相場は急落してAコントラクト七〇盾Bコントラクト六八盾及びCコントラクト六五盾となつたが間もなく再び

各々七二盾、七〇盾及六八盾臺に回復した。十月及び十一月中には多少の變動はあつたが大體此値段で若干の先物賣買を見た。然し十一月下半には空賣買の多かつた結果として現物に對する需要激増し持主は著しくその云値を釣上た。月末の現物はBコントラクト未壓搾八二盾で取引され、Cコントラクトは未壓搾十一一月渡で七八盾迄の買手があつた。十二月の市況は若干軟弱化したがそれでも現物の相場はAコントラクト八四盾、Bコントラクト八三盾、Cコントラクト八一盾乃至八二盾臺に踏止つた。

スラバヤ市場 年は閑弱な市況に明けたが米國側の興味増大で漸次引緊り一月末の相場は下記に上つた。

I A マゾテ 六二一—六三盾

I A 東爪哇

五七一—五八盾

同 ボロン 六〇—六一同

市價の昂騰は二月にも續き米國及び濠洲の買付は絶へず行はれた。然し其取引高は内地からの供給が僅少だつた關係上餘り大量には上らなかつた。二月の相場は下記に上つた。

I A マヅラ 六七盾
同 ボロン 六五同

I A 東爪哇 六〇―六五盾

三月には爪哇のストック激減に驚いて外國側からの注文多く一等品の残額は七五盾で賣られたが、一般の相場はマヅラ物七四盾、ボロン七一盾乃至七二盾、東爪哇六五盾乃至六八盾に上つた。四月の市況も手堅く最後のマヅラ残額は八七盾で取引された五月には舊收穫の取引殆んどなく新收穫は反對に盛んな賣買を見せ五月末には新收穫三分の一は賣盡されたと傳へられた。六月の取引は僅少で賣手は市價の釣上に躊躇し買手も買進むを恐がつたのである。七月は初期の先物が大部分賣盡されてゐた爲め閑弱な市況だつた。精選された東爪哇物は二月末迄の引渡條件で六五盾乃至六七盾の買手を見出した。マヅラは七二盾の云値だつたが買手は殆んどなかつた。

八月の初旬には良質の現物ものが九二盾と云ふレコードの價格で賣買された。市況は頗る引張り和蘭も絶へず買進んだ爲め現物及び早物は賣行良好であつた。然し月末に至つて興味は漸次減退した。蓋し新收穫が豊作で又期待以上に早く市場に持出する

可き事が明瞭となつたからである。ボロン物十二月末渡は七一盾五〇仙で取引され、東爪哇物は七三盾で提供されたが買手は七〇盾以上は出し澁つた。九月上旬には新收穫の初物が到來した爲め現物相場は急落し先物相場と接近するに至つた。更に又歐洲に於ける買手の態度が冷淡だつた爲め取引量は僅少で月末の値段はマヅラ七〇盾乃至七一盾、ボロン六九盾、東爪哇六八盾臺にあつた。十月の市場は米國側からの興味で手堅かつたが爪哇の云値が高い爲め取引は成立せずマヅラ七一盾乃至七二盾、ボロン六九盾、東爪哇六七盾乃至六八盾の相場に終つた。

棉

二二年に於ける爪哇の原棉(木綿繰り)輸出は再びスマランのみから行はれその數量七三九噸は全部日本に向つた。二〇及び二一年の輸出は各々六一四噸及び一〇七噸であつた。繰綿の輸出は二〇年の七九噸及び二一年の四九八噸に對して四四二噸に上つた。仕向地は同じく日本(三二二噸)が第一で其他和蘭、獨逸及び白耳義へも若干の船

積を見た。スマラン市場では取引は僅少だったが相場は世界市場に呼應して絶へず昂騰し、一月乃至三月には原棉ピクル九盾五〇仙繰綿は四四盾で賣買された。四月のデマツク品に對する値段は原棉一盾二五仙に昂騰し、繰綿は四六盾で買手を見出した然し持主は五〇盾を唱へて譲らなかつた。六月にはデマツク品原棉は一二盾五〇仙で需要され此値段は大體年末迄存続した。外領の二二年原綿輸出は二〇年の一、七二一噸及び二一年の二、八七九噸に對して一、六七六噸に上り其中一、四〇四噸はバレムバンから輸出され他はバリー及びロンボックから船積された。輸出は主として新嘉坡に向ひ同地から更に日本に行く。繰綿の輸出は割合に僅少でバレムバンは二〇年の四四九噸及び二一年の一、一五噸に對して二五一噸を輸出した。

バレムバン 二一年の低値に恐れて本年度の土民植付面積は頗る僅少だった。然し価格は特に上半期に於て高く漸次一三盾二五仙から七月のピクル一九盾五〇仙迄昂騰した。九月末に市場に持出された新收穫は九盾五〇仙臺に初まり日本側からは劣等品

に對する需要があつた。優良品は年度終り數ヶ月に於て十三盾乃至十四盾の値を擧げ繰綿の値段はピクル三五盾乃至五八盾間を上下した。

籐

外領の直接輸出が激増する爲め爪哇からの船積は減少の一方で、二二年の輸出は二〇年の一、六二三噸及び二一年の九四〇噸に對して二〇〇噸に上り主として獨逸に向つた。外領の二二年輸出總額は未だ不明である。二〇年の輸出は五三、七〇〇噸に達し中二九、九一九噸は新嘉坡に向ひ二一年には三三、八五四噸の輸出を見中二一、七一三噸は新嘉坡四、三二〇噸は香港、二、二五一噸は和蘭及び二、〇九七噸は獨逸に向つた。外領の主要市場は下の如き形勢を示した。

パンチャルマシン 値段は二一年程高くなかつたが輸出額は増大した。仕向地は新嘉坡、米國及び歐洲が主で爪哇へ移された數量も若干ある。最高最低價は下記に達した。

	最高 盾仙	最低 盾仙		最高 盾仙	最低 盾仙
藤、タマンウルウ	四・五〇	九・二五	藤、ウンダン	八・一	五・五〇
同 アユン	二二	七・一	同 ルフン	五・一	三・一
同 タマンクアン	二二	一三	同 サムリ	六・五〇	五・一
同 タバアンテイ	一〇・五〇	八・一	同 ランギリ	七・五〇	五・五〇
同 イソツト	一〇	七・五〇	セナンアウ洋杖	百本	五・一

總輸出高は二一年の三、九九〇、〇〇〇に對して五、一九一、〇〇〇に達した。

パタン 二二年の輸出は二一年の約八、〇〇〇ビクルに對して二〇、〇〇〇ビクルに上り頗る増大した、値段は年度を通じて大體變動なく輸出向の主要品であるピラデ及サブツトロタンはビクル當り十三盾五十仙乃至十四盾五十仙の間にあつた。然し年末近くに至り此等の種類はビクル十一盾乃至十二盾臺に低落した。バゲロタンは年度を通じて未精製品ビクル約十四盾臺にあつた。薄物のロタンは品質に従ひビクル四盾乃至十盾五十仙の値を擧げた。ロタン洋杖の輸出は本年度は未だ不明であるが二〇年及び二一年には各々一、八四九噸及び八二七噸に上つた。二〇年の主要仕向地は新嘉

坡で全體の約九割即ち一、五四七噸の船積があり、二一年には和蘭が最大の買手で五一三噸を引取つた。

マカツサ 本年度のマカツサに於ける藤移入及び輸出高は各々一五一、二五〇ビクル及び一四五、三八四ビクルに上つた。二一年の輸出高は一二九、〇五七ビクルであつた。主要品の相場は下の如くである。

アンブール、ウナス	一二盾乃至二〇盾	ケンダリ、アトトン	一四盾乃至二五
ト ヒ チ	七同 一六	ケンダリ、ゼルマシン	六同 一〇
リ タ	七・五〇同 一一	サアタン	五同 八・五〇
ダ ト ウ	一八同 二五		

一月の取引は僅少で需要は特別なサイズと種類に限られてゐたが市況は漸次改善し特に五月に於ては歐洲と多數の取引が成立した。香港からは下等品に對する需要が多かつた。八月迄は歐洲との取引も順調に進んだが其後は政治状態の悪化に依り市況は九月末に至つて軟弱化しダトウ及びケンダリの相場は低落した。年度の終り數ヶ月に

はトヒチは若干改善したがダトウ及びケンダリブートンは更に暴落した。歐洲の注文は活潑を欲いたが唯米國側の興味強く又支那日本及び濠洲も若干の興味を示した。

ホンチヤナツク 二一年及び二二年の輸出は下記に上つた。(單位斤)

仕向先	一九二二	仕向先	一九二二
新嘉坡	二、一三二、二〇八	濠洲	二〇、七〇八
和蘭	三、三六七	日本	六、四四八
英國	三、一〇〇		—

上表にも明かな如く本年度の輸出は殆んど全部新嘉坡に船積された。値段はビクル六盾乃至九盾の間を上下し年末は約六盾臺に暮れた。

ゴロンタロ 籐は今迄トミニー灣の最も主要な輸出品だったが近年頗る減少し二二年の數量は一八、〇〇〇ビクルに過ぎなかつた。需要は大體軟質の籐に集中されたが下半期には軟質籐の價格も低落し取引は絶へず困難となつた。硬質種に對しては年度を通じて需要皆無に近かつた。買手は以前獨乙が主であつたが馬克の暴落と購買力の

減退とで同國への輸出は殆んどない。當業者は又運賃の異常に高い事を啣つてゐる。七口貯當り四〇盾だつた運賃は一九二二年に至つて四六盾五〇仙となり、現在では九盾に暴騰してゐる。従つて運賃が低落すれば輸出も復活し得べしと期待される。

メナド メナド經由のトミニー灣籐輸出は二二年に於て僅かに一五〇噸に過ぎなかつた。

アツチエ及屬領 本年度の輸出は二一の約一、六七。噸に對して約一、四四〇噸である。

タルナテ 輸出は更に減少し二一年の一六五噸に對して五〇噸だつたに過ぎぬ。

スマトラ東海岸 主としてブラウムダから約二、四四一噸の輸出を見た。二一年と殆んど同量である。

サイザル麻

本年度は二〇年の一六、一四二噸及び二一年の二二、五三七噸に對して一一、四三

八噸の輸出を見た。主要な買手は米國で四、一三五噸を取引り、和蘭へは三、〇三三噸の輸出があつた。過去三ヶ年間の仕向先別輸出高は下の如くである。(單位千斤)。

仕向先	一九二〇	一九二一	一九二二	仕向先	一九二一	一九二二	一九二三
和蘭	三,七三六	三,三三九	三,〇五五	米國	二,一〇一	七,七七〇	四,一三三
英國	四四	二三八	五二	日本	一〇八	一〇八	一〇六
獨逸	三	五〇	一,三三七	濠洲	三七	六〇	一,七九
白耳義	一	七	二八	其他	三三	五	五
瑞典	九八	一五	五	計	一六,一四二	二二,五七	二二,四八
丁抹	七	六	三				

外領ではデリーのサイザル麻輸出が激増して二一年の八五三噸に對して七、六五一噸に上つた。和蘭への輸出は兩年共略同様であるが米國は二二年に於て五、五八五噸を引取り最大の買手となつた。

二二、生果

生果及び馬鈴薯は爪哇諸港、バレムバン、デリー等から新嘉坡及卑南へ向け盛んに

輸出されるが近年は又バンジュワングから濠洲へのバナナ輸出が頗る重大となつた。最近ではバナナ以外に椰子やアナナスも濠洲へ輸出され將來益増加の傾向にある。濠洲が提供された數量を全て滞りなく消化する爲めバンジュワング地方の輸出向バナナ栽培は絶へず擴大され、二二年には一九年の一〇三、六三九房、二〇年の一〇七、〇五二房及び二一年の一二五、二五七房に對し一三〇、二〇八房の輸出を見た。濠洲への椰子輸出は二〇年の二、二六八個、二一年の二二、二四〇個から二四、七六五個に増加した。輸出向のアナナス栽培も激増しつつあり、主に輸入品種「Reply Queen」及び「Smooth Cayenne」が植付られてゐる。此等の輸出と相並んで主として濠洲からの生果輸入も増大しつつあり本年度の爪哇輸入は二〇年の一六六、〇〇八盾及び二一年の三二一、〇三三盾に對して四六七、一二二盾に上つた。此中濠洲は三八一、三五一盾、和蘭は二二、九〇二盾及び佛蘭西は七、六一一盾を供給した。スマトラ東海岸の輸入高は二一年の三一九噸に對し二七三噸に上つた。

二十三、蜂 蜜

本品の主要市場はマカツサであるが、同地の市場は年初め爪哇からの需要少くビクル當り百盾乃至百十盾の相場だったが、二月には百五盾乃至百七盾五十仙で爪哇との取引があり、三月には百盾の最低相場と百七盾五十仙の最高相場を持續し、爪哇は此相場で買進んでゐたが更に七月には歐洲からの注文も到來した。然し其後九月は百盾乃至百五盾の低相場を見せ、十月中は爪哇及び歐洲筋の需要少く爲めに年末には八十盾乃至九十盾に下落した。本年度の輸出高は一四ビクルである。

二四、含油種子

落花生

爪哇の未脱穀品輸出は二〇年の九、九三四噸及び二一年の七、一五七噸に對して四八四七噸に上り、中一、四四六噸は和蘭一、六六六噸は新嘉坡に依つて引取られた。外領からは二〇年の八六一噸及び二一年の七六七噸に對し一六八噸の輸出を見た。

主要な仕向先は佛蘭西と新嘉坡で主要輸出港はバダンであつた。

スラバヤ市場 スラバヤは未脱穀トウバン落花生に對する中心市場である。二一年末の名目相場は三〇ビクルのコーヤン當り四百盾であつた。一月中頃に至つて興味は稍増大したが和蘭が低相場を傳へた爲市場は弱氣を免れず舊收穫は三百廿盾乃至三百卅盾で取引された。新收穫に對する需要は活潑で値段も絶えず高まり一月の三百盾乃至三百廿五盾から二月及び三月初には三百五十盾乃至三百六十五盾となつたが實際の取引は少なかつた。四月には輸出高に依つて若干數量が三百廿盾で引取られ供給は三百卅盾で存続した。五月には内地の支那商等がその高買したストックを三百卅盾で賣込に勉め五百コーヤンの賣買を見た爲め其後は市價の低落を來し、六月初めには三百盾で數千ビクルの取引を見たが、其後は二百六十五盾となり七月は二百七十五盾の相場を見せ、八月は更に二百六十盾に低落し、買手は二百十盾臺に止まつた。九月下半には少量の取引が二百二十盾で行はれ市場は軟弱を續けて十月十一月を閑散に送り十

二月中頃に至つて初めて興味増大に依り二百四十盾の値を見せ、年末は供給二百五十盾の買手絶無に終つた。二二年に於ける爪哇の脱殻落花生輸出は二〇年の八、六二五噸及び二一年の四、二五五噸に對して五、四八二噸に上り、新嘉坡と英國に仕向られた。本年度の外領輸出は五四噸で主としてスマトラ西海岸及びアツチエからの船積である。

バタビヤ市場 バイテンゾルグは、殆んど取引を見なかつた。雨期に關連して年初めの數ヶ月は、輸出業者が脱殻落花生の船積を手控へた爲め、賣買も成立せず、相場はチェリボン倉庫渡十六盾廿五仙乃至十六盾五十仙臺にあつた。持主は五月に至つて十八盾の値を唱へたが六月に至つて五十仙を引下げねばならなかつた。七月及び八月の市價は更に十七盾廿五仙に低落し九月の小動搖を経て十月及び十一月には遂に十三盾七十五仙に暴落した。年末に至つて景氣は改善せずチェリボン落花生に對する最後のオツアフーは同じく十三盾七十五仙であつた。

スラバヤ市場 脱殻トウバン落花生に對しては相變らず興味薄く、年初めには舊收穫の若干數量がビクル廿盾で取引されたが、其後は八月に十六盾乃至十六盾五十仙及び九月に十五盾五十仙で少量の賣買があつたのみで、其後は年末迄閑散を極めた市況だつた。

バラム及ステイビット
二二年の輸出數字は未だ不明である。外領の二〇年及び二一年輸出は各々一四噸及び二六四噸に上り新嘉坡に仕向られた。

コブラ
二二年の爪哇輸出は二〇年よりも多かつたが未だ二二年の數字には達しない。即ち下の如くである。(單位千噸)

仕向先	1910	1911	1912	仕向先	1910	1911	1912
和蘭及和蘭 <small>（イ）</small>	二六、八八〇	六三、四六九	四三、五〇五	獨逸	八、二五七	一三、二九〇	三、二四九
英 國	五、三四九	三、五五一	一、九八八	佛 蘭 西	二、二八三	一、二九八	九

關領東印度貿易大鑑

伊太利	五〇九	四、七九	四九	新嘉坡	—	七	五〇
白耳義	—	—	一、五〇〇	日本	—	七二〇	—
丁抹	二〇	四九〇	一、三三六	其他	二二五	六五一	一〇五
米國	四、九八〇	五、九二	一、〇八九	計	四九、七三五	九三、〇五四	五三、三三三
ポルトサイド	一、三五四	四七	—				

外領の輸出は下の如くである。但し本年度輸出は主要七港に關する數字のみが入手されて其他は尙不明である。従つて下表に於る二二年の數字は完全を缺く。(單位千盾)

仕向先	二六〇	一九二	一九三	仕向先	一九〇	一九二	一九二
和蘭	六、三三九	六九、〇三三	七〇、九八二	葡萄牙	—	九四八	—
英國	二、〇七八	五五四	一、五〇四	米國	八四	一、九三八	—
獨逸	四、七九六	一八、五九一	二五、六七五	埃及	三八	五〇三	—
佛蘭西	二、九六一	二四、〇五七	三三、七三三	卑南	七、八四九	七、三三二	一、〇八一
伊太利	六、一一〇	三、二九一	五、六二六	新嘉坡	三三、八四六	六、六七六	一八、五八九
諸威	六八八	—	—	日本	三三	二、〇〇四	六三
丁抹	二、九九五	二二、五五五	一三、二六六	日資	三〇八	—	—
奧太利	—	一三五	—	其他	二	六八	一七六
西班牙	—	二、九九六	—	計	一三三、三八三	二七、五五八	一六九、八四五

爪哇市場 前年度末の弱氣は本年度にも存續し、アムステルダム市場が更に〇・十

二—一月渡百盾當り二十七盾五十仙及び二—四月渡二十八盾廿五仙に低落するに至つて爪哇の相場も一月渡ビクル當り十四盾五十仙及び二—四月渡十四盾七十五仙となつた。賣手の云値は平均して七十五仙高にあつた。インスリンデ製油工場は一月中頃其ストックを投出して市況を悪化した。然しアムステルダムが運送中のコブラに對して多大の興味を寄せ又パタビヤ運賃協議會とK・P・Mが著しい運賃引下を行つた爲め取引活潑となり相場は輸出向乾燥物 *Job, nugs* 三—四月渡十六盾及び三—四月現物渡十四盾五十仙となつたがそれも暫らくに過ぎず馬克相場の低落に影響されて市況は再び軟弱となり若干の動搖はあつたが大體四月乃至六月は弱氣の中に送られ、相場は輸出向乾燥物 *Job, nugs* *fins* 爪哇十五盾五十仙乃至十五盾七十五仙の間を往來しモロッカスミツクスドは *Job, nugs* 十四盾五十仙乃至十四盾八分の七を唱へた。スラバヤ市場では爪哇コブラ *fins* *Job, nugs* に對し六月末可成り良好な値段を見せ最高十六盾八分の一に上

つた。下半期に引緊つた市況に明けたがそれも亦永くは續かず馬克相場の續落に悪影響を蒙つた。七月中頃にも尙閑散だつた市場は同月下半に至つて若干改善したが八月に入るや再び低落傾向を辿り更に十月乃至十二月に於けるコブラの輸出税が引上られパタビヤ運賃協議會とK・P・Mがその運賃を著しく引上た爲め取引は一時全然終絶の姿となつた。パタビヤ市場の七月乃至九月に於ける値段は輸出向爪哇乾燥物 *Java rice* 七―八月渡十五盾七十五仙乃至十六盾、九―十月渡十四盾八分の三乃至十四盾五十仙に低落し、スラバヤでは九月末に至つて舊運賃に基くコブラは十四盾五十仙及び新運賃物は十三盾八十仙で取引された。十月乃至十二月は徐々として市況の改善を見せた。歐洲からの報道は強氣を期待させ引緊つた市況は年末迄存続した。十月初め爪哇 *Java rice* 舊運賃物に對して廿五仙乃至十六分の三盾を低落した。値段は既に同月第二週に至つて十六分の一の改善を見せ第三週には十四盾五十仙乃至十四盾七十五仙で多量の取引があり其後賣手は十五盾を唱へ十一月下半には十五盾乃至十五盾八分

の三の相場となつた。然し十二月に至つて買手は十四盾七十五仙でオツプアーし賣手との鞘開き多大な爲め取引は僅少だつた。

マカツサ 二一年末の弱氣は年初にも續き相場はサンドライビクル十三盾乃至十四盾及びミックスド十二盾乃至十三盾に明けたが需要は少なかつた。二月に至つて市況は稍々改善し各々十三盾五十仙乃至十四盾二十五仙及び十二盾五十仙乃至十三盾二十五仙で取引を見た。三月には十四盾五十仙乃至十四盾及び十三盾五十仙乃至十三盾の相場となつたがそれでも歐洲の等價よりも高く活潑な市況と盛んな取引があつた。其後七月迄の相場は下記に上つた。

	サンドライ	ミックスド
四月	一三盾四分の三―一四盾二分の一	一二盾四分の三―一三盾二分の一
五月	一四盾一〇―一三盾八〇	一三盾―一三盾九〇
六月	一三盾九〇―一四盾二分の一	一三盾―一三盾二分の一
七月	一四盾四分の一―一五盾一〇	一三盾四分の一―一四盾

八月に至つて相場は再び低落し歐洲等價を越へた事實と暴落一方の馬克相場に依り

軟弱な市況を呈した。九月末にはサンドライ十三盾五十仙乃至十二盾五十仙、ミツク
 スド十二盾五十仙乃至十二盾二十五仙で若干數量の取引を見たが、十月には更に低落
 し、マカツサの相場は歐洲等價以上にあつた。然し需要は其後漸次増大し十二月には
 市況も引緊りマカツサに於ける移入は年末近くに至つて増大した。十月乃至十二月の
 相場は下記に上つた。

	サンドライ	ミツク
十月	一二盾五〇仙—一三盾五〇仙	一二盾二五仙—一二盾七五仙
十一月	一三盾五〇仙	一二盾七五仙—一三盾
十二月	一三盾七五仙—一五盾一〇仙	一三盾 — 一四盾二五仙

本年度に於けるマカツサの移入高は八〇〇、二〇三ビクルで輸出は二一年の一、一
 一七、九九二ビクルに對し一、一三〇、八三四ビクルに上つた。

バタン 歐洲からの興味減退に依りコブラの市價は二一年九月の約十八盾から二一
 年末十二盾に低落し本年度初めの市況も頗る閑散を極め其後も大した改善を見ず年初
 の十三盾から漸次十月の十二盾へ低落し年末に至つて稍々昂騰し十三盾五十仙で年を

送つた。本州の輸出は約三二八、〇〇〇ビクルでタバヌリ及びアツチエから積替の爲
 め移入された數量は五六、〇〇〇ビクルであつた。二一年移出の二〇八、〇〇〇ビク
 ルと比較すれば六四、〇〇〇ビクルの増加である。

パンチャルマシン 本年は爪哇及び新嘉坡へ向け約一、九四八噸の移輸出があり價
 格は九盾乃至十二盾の間を上下した。

メナド 二二年の輸出は二九、六三八噸に達した。

スマトラ東海岸 歐人の植付面積は約一一、五〇〇ヘクターで其中半分は生産して
 るが栽培は尙増加傾向にある。輸出は二一年の約七、一五〇噸に對して約一〇、四
 五五噸に上つた。輸出の約五分の四は南部地方のタンヂョンケラム、タンヂョンバレ
 イ及びブラアンピリックの諸港から船積される。産額の約六割は歐人農園から出た。
 二一年には三割五分に過ぎなかつたのである。

アツチエ及屬領 輸出は二一年の約三七、〇〇〇に對して約六、〇〇〇に達し、其

半分はロウセウマウエ及びシナパンの二港から船積された。価格は九盾乃至十盾臺にあり、仕向先は海峽植民地であつた。

ホーチアナツク 本年度の市價は比較的動搖少なく一月から八月迄は和蘭等價でサンドライ廿八盾及びミツクスド二十七盾を唱へた。其後市況は軟弱となり九月に至つて和蘭等價でミツクスド廿四盾、サンドライ廿五盾の最低價格に達したが十月乃至十二月には再び漸騰を見せ年末はサンドライ卅盾五十仙及びミツクスド廿九盾八分の三の最高價格に終つた。輸出高は約三七〇、〇〇〇ヒクルである。此數量は前行諸年と比ぶれば多大の増加を示すが、然し決して充分だとは云はれない。特に下半期の輸出はプラチャルトナ病害の爲め絶へず減退した。此病害はトミニー灣のゴロンタロ平原やトギアン群島にも見出された。椰子園の手入が土人の所有者に依つて怠られた爲め此病害は絶へず蔓延した。従つて本年度下半期の收穫は平時の三分の一にしか當らぬと見られてゐる。

タルナテ 輸出は本年度に於て頗る増大し二一年の一、九五二噸に對して四、六〇〇噸のユブラが和蘭、獨逸、佛蘭西及び西班牙へ向け船積され又マカツサへは二一年の二、六四七噸に對して三、六三二噸の輸出を見た。年は十三盾乃至十四盾に明けたが早くも一月末には十一盾七十五仙乃至十二盾七十五仙の最低レコードに低落し其後市況の改善に依り十三盾乃至十四盾に回復し年末はミツクスド十四盾、サンドライ十四盾五十仙に終つた。

アムステルダム 二二年初の市況は、閑弱で爪哇 *Java* 現場渡二十八盾卅七仙五及び運送中のユブラ廿八盾七十五仙に初まつたが、市價は低落傾向を見せ輸入も減少した。然し一月末に至つて市況稍々活潑となり三月初めには爪哇 *Java* 現場渡卅盾及び航海中卅盾八分の一に昂騰した。三月中には規則的な取引が行はれ近物や航海中のユブラにも若干の取引があり後者の値段は卅盾臺を動搖した。四月は低落の兆候を見せ廿九盾廿五仙から五月中頃には廿八盾となつた。市況は需要の缺乏と倫敦の弱氣に影

響された。五月下旬には稍々需要が増加した事と提供高の減少に依り相場漸騰し六月中頃に廿八盾五十仙を唱へた航海中のコブラは一週間の間に廿九盾廿五仙となり、七月初めには廿九盾八十七仙五に昂騰した。然し其後獨逸が買付を中絶すると共に、市況は軟弱となつたが實需筋の買付續行と供給の僅少に依り再び改善し航海中のコブラは卅盾で取引さるるに至つた。倫敦の市況に呼應し八月初めの相場は廿九盾五十仙に低落し其後は廿九盾廿五仙乃至廿八盾六十二仙五の低値さへ出すに至り、取引は僅少で買手は歐洲の政情不安に恐れて買付を手控へた。當時蘭領印度の市價は歐洲等價以上にあつた。八月末には更に約二盾五十仙の低落を見たが其原因は消費諸國に於ける不景氣と政情不安にあり、倫敦市場も絶へず市價低落を傳へた爲め遂に廿六盾に低落した。九月初めは若干の改善を見せたが市場は猶輸入の増加に依り壓迫されてゐた。反面に於て爪哇の相場は低落せず又九月中頃には百庇當り七十五仙の運賃引上が傳へられた爲和蘭では倫敦からの輸入とセコンドハンドの供給に待つより外なかつた。當

時航海中のコブラは廿六盾卅七仙五で取引された。九月末には蘭領印度からの輸入も増大し、一方バウンド相場も低落し初めた爲め爪哇 *Pinis* 航海中は廿五盾七十五仙となり十月上旬には廿六盾五十仙となつた。月末には獨逸が再び買付を初め和蘭の消費も絶へず買進んだ爲め廿七盾五十仙の相場を出し十一月中も市況は手堅く航海中廿八盾十二仙五、乃至廿八盾七十五仙を唱へた。十二月初めの市況は品薄と米國がコブラのみならず椰子油の買付を行つた爲め市況は一層活潑となり獨逸の買付續行も與つて年末は爪哇 *Pinis* 卅盾卅七仙五厘と云ふ手堅い相場に終つた。

比蘇子

爪哇及マヅラの二二年輸出は一、二三四噸で主として濠洲(八〇五噸)に向つた。其他獨逸は一八九噸及び伊太利は一六二噸を引取つた。二〇年には一、〇四七噸の輸出があり主として濠洲に向ひ二一年には伊太利及び佛蘭西を主要仕向地として二、四〇六噸の輸出を見た。爪哇市場は年度を通じて軟弱であり市價はビクル當り九盾乃至一

一盾臺にあつた。

カボツク實

爪哇及マヅラの輸出は二〇年の一二、九七三噸及び二一年の一二、〇三〇噸に對して一七、八六四噸に上り多大の増加を示した。主要仕向地は相變らず英國で一六、六九三噸の船積を見た。スラバヤの市況は年初めより四盾六十仙の取引に初まり一月末消費諸國の相場は低落したが内地は殆んど賣盡されてゐた爲めスラバヤの市況には大した變動を見ず二月及び三月は品薄の爲め高値を唱へ三月末の需要は五盾十五仙供給は五盾三十仙臺であつた。四月及び五月中にも供給高は増大せず價格にも殆んど變動がなかつたが五月末に至つて四盾六十錢乃至四盾廿五錢の低値を見せた。四月初めには新收穫に對し四盾十五仙乃至四盾廿五仙迄の需要があつたが持主は四盾五十仙を唱へて止まず、六月に至つても大した取引も見なかつた。其後も市況は閑散で取引少く外國相場は絶へず低落し諸工場は九月に至り工場渡四盾で買付たがそれは

輸出價格に換算すれば三盾五十仙に過ぎなかつた。十月に至つて市況は稍改善し月末には四盾で多量の取引を見たが強氣は十一月にも存續し市價は四盾卅仙となり十二月には更に四盾五十五仙に昂騰して需要の多い年末景氣を見せた。スマランの市況は大體スラバヤと同様であつた。外領のカボツク實輸出は未だ大した數量に達しない。

棉實 二二年にはスマランから日本へ向け二一四噸の船積を見た。前行二ケ年には何等の輸出も無かつたのである。

ケミリ實

外領からの輸出は二〇年の一、〇〇六噸及び二一年の八五一噸に對して八五噸に上つた。主要な輸港はマカッサで六二噸を出し其他はボンチアナツク、バダン及びパンヂヤルマシンから船積された。二一年の主要輸出港はボンチアナツクであつた。仕向地は主として新嘉坡である。價格は二盾乃至三盾上下した。

胡 麻

爪哇は二〇年の一、二一〇噸及び二一年の一、〇六四噸に對して主として新嘉坡へ向け一、〇三五噸を輸出した。外領の輸出は二〇年の八二六噸及び二一年の三二三噸に對して四六六噸に上り、新嘉坡へは三七一噸及び香港へ八八噸の船積を見た。外領の主要輸出港はマカッサで同地からは二〇年の四七八噸及び二一年の二五三噸に對し約三七一噸の船積があつた。棉の植付面積減少に依りバレムバン土民は昔以上に胡麻を耕作するもの多く之に反し値段は二一年の十四盾乃至十五盾に對して十一盾乃至十四盾の低相場を示した。

テンカワン實

パンチャルマシンは二二年に於て五噸を輸出したに過ぎぬ。主要仕向地は新嘉坡である。外領の輸出總計は二一年の二、九一五噸に對して四二四噸である。最近數年間の收穫は不作に終つたが二三年は良好な成績を擧ぐべく期待されてゐる。値段はピクル當り十盾乃至十六盾の間を往來した。ポンチアナツクは二二年に於て新嘉坡へ向け

三一五噸を輸出した。本年度は一九一二年收穫の殘額が船積された。二二一—二三年收穫は約二〇、〇〇〇噸の見積である。

第二節 輸入貿易

外領の二二年輸入數字は本稿締切迄には入手出来なかつたが不取敢主要七港の輸入を合計して概觀に資する。此等の七港は即ちバダン、バレムバン、ペラワン、パンチャルマシン、ポンチアナツク、マカッサ及びメナドである。従つて二二年の總計は掲げぬことにした。

一、陶磁器

皿

過去三ヶ年の輸入は下記に達した。(單位千打)

爪哇及マツラ	一九二〇	一九二一
外領	七三四	一、〇七五
計	二九四	一、〇一八
	一、〇二八	二〇六
		一、三五五

大戦前殆んど何等の輸入を見なかつた日本は近年に於て最大の供給者となり、歐洲は到底日本に對して競争し得ず將來は全く市場から驅逐されるであらう。陶磁器市場は年度を通じて弱氣だつた。二一年中頃に初まつた市價の低落は本年度中頃に至つて初めて停止した。在荷過剰と資金融通難とは多くの小輸入業者をしてそのストックを市價以下で手放さしむるに至つた。輸入は絶へず増大して市況を壓迫した。然し六月及び七月を過ぎてからはストックの減少に依り相場は若干改善し年末には年内最低相場に比し五分乃至一割高にあつた。然し大體から論ずれば二二年の市價は二一年に比し一割乃至一割五分の低値だつたと云へる。直径二十センチメートルの白皿一打は日本品約二盾三十仙及び歐洲品約二盾四十仙を唱へ模様物はその約七十仙高にあつた。

小腕及小皿

輸入は下記に上つた。(單位千打)

爪哇及マツラ	一九二〇	一九二二	一九二二
	四二九	七八三	六七四

外 領

計

外 領	七〇	七二	七二
計	四九九	八五五	一

本品に於ても日本は戦時中に獲得した地盤を持續し、和蘭及び獨逸からの輸入は殆んど云ふに足らなくなつた。

洗 盤

輸入は下記に達した。(單位千打)

爪哇及マツラ	一九二〇	一九二一	一九二二
外 領	三〇	四七	二九
計	二二三	三七	九
	五三	八四	一

本年度の輸入は和蘭からの仕入激減に依り頗る僅少であつた。和蘭は常に洗盤の最大賣手で日本も未だに和蘭品を驅逐するに成功しなかつたが、然し同國からの輸入は増加傾向にあり二一年には一九、〇〇〇打に達した。

耐 火 煉 瓦

輸入高は下記に上つた。(單位千個)

爪哇及マヅラ	一九二〇	一九二一	一九二二
外	四、二二〇	二、八二五	一、一八一
計	五九〇	五〇六	二六八
	四、八一〇	三、三三一	

戦前には和蘭と英國が最大の輸入者であつたが近年は特に日本と支那からの輸入が増大し兩國は二〇年二一年及び二二年に於て輸入總額の半分以上を供給した。蘭領印で製造される耐火煉瓦の數量は割合に少ない。本年度の收入減少は従つて一般的な不景氣以外に前行諸年からのストック残が多かつた事に歸せねばならぬ。

瓦

爪哇の二〇年及び二一年輸入は單位千個で各々二、三六七及び三、一八三に達した二二年の輸入數字は尙不明である。主要な供給者は和蘭である。近年は獨逸からの輸入も著しく増大した。

二、自動車及自轉車

貨物自動車及トラクター

輸入は下記に上つた。(單位臺)

爪哇及マヅラ	一九二〇	一九二一	一九二二
外	一、四〇一	一、七二三	八一
計	一五四	二二八	八七

上表に明かな如く本年度の輸入は微々たるもので荷物自動車の市場は不景氣と税金關係で頗る振はない。

其他の自動車

輸入高 (單位臺)

爪哇及マヅラ	一九二〇	一九二一	一九二二
外	四、四四三	三、九一九	一、五〇二
計	五五六	八二一	二、九七一

二一年から始まつた本品市場不景氣は二二年に於て一層甚だしくなり二三年の期待も思はしくない。輸入高は賣行の頗る悪い特に歐洲からの高値な自動車を多數手持し

て居り、一般の需要が維持費の安い小型自動車に向ふ爲め頗る困惑してゐる。普通自動車の輸入は主として米國と加奈陀から行はれ歐洲では伊太利のみが輸入高を増大し得た。普通自動車も貨物自動車も相場は絶へず低落し強要的に行はれた清算が多かつた爲め市況は悪化する一方だつた。此不景氣に關連してセコンドハンドの自動車提供高が増加した事は云ふ迄もない。

自動車附屬品

自動車の輸入が减退した爲め附屬品のそれも下の如く激減した。(單位千盾)

爪哇及マヅラ	一九二〇	一九二一	一九二二
外 領	三、一三九	三、四七一	一、六七二
	三四四	五六四	二七九
自動車タイヤ			
輸入高 (單位千個)	一九二〇	一九二一	一九二二
爪哇及マヅラ	二四八	二二二	二四八

外 領

二七

二四

一七

タイヤの輸入は再び増加した。米國からの直接輸入は約二倍したが然し日本からの輸入は更に多かつた。和蘭からの輸入は激減し獨逸からの輸入は著しく増加した。戦時中に激増した雑多な種類が印度市場から著しくその姿を消した事は特記を要する。

自轉車

自轉車の輸入は二二年に於て下の如く再び増加した。(單位臺)

爪哇及マヅラ	一九二〇	一九二一	一九二二
外 領	二〇、二六七	二二、〇九三	二四、二三九
	七、三〇七	三、六八六	四、二三七

最も主要な供給者は矢張り和蘭であるが、然し近年は獨逸に依つて凌駕されそうな形勢にある。英國からの輸入は大體變動なく其他の諸國からの輸入は殆んど云ふに足らなくなつた。

自轉車タイヤ

本品の輸入は下の如く増加する一方である(單位千個)

爪哇及マヅラ	一九二〇	一九二一	一九二二
外 領	六三五	三三九	三九五
計	一一〇	六四	七二

日本は本年度に於ても同じく最大の供給者であつた。獨逸からの輸入は約二倍して六二、〇〇〇個となり仕出國中の第二位にある。佛蘭西からの輸入は頗る減退し新嘉坡及和蘭の供給高も激減した。

三、化學藥品

明礬

過去三ヶ年の輸入は下記に上つた。(單位千疋)

爪哇及マヅラ	一九二〇	一九二一	一九二二
外 領	八二一	四五一	六六一
計	五九四	二八四	七五一
和蘭からの輸入は激減しつゝあり現在では大部分獨逸から輸入され又香港からの輸入も増加しつゝある。然し香港は本品を支那から輸入してゐる事を忘れてはならぬ。爪哇の相場は可成手堅く日本品はビクル當り一三盾五〇仙乃至一三盾、歐洲品は一三盾五〇仙乃至一四盾五〇仙及び米國品は一三盾五〇仙乃至一四盾の間にあつた。	一、四一五	七三五	

和蘭からの輸入は激減しつゝあり現在では大部分獨逸から輸入され又香港からの輸入も増加しつゝある。然し香港は本品を支那から輸入してゐる事を忘れてはならぬ。

爪哇の相場は可成手堅く日本品はビクル當り一三盾五〇仙乃至一三盾、歐洲品は一三盾五〇仙乃至一四盾五〇仙及び米國品は一三盾五〇仙乃至一四盾の間にあつた。

液體安母尼亞

輸入高 (單位千疋)	一九二〇	一九二一
爪哇及マヅラ	一九二〇	一九二一
外 領	二二三	六六
計	一三三	一四
	三六	八〇

二二年の輸入數字は未だ不明である。

百五十疋のドラム入二八パーセントの安母尼亞は約五七盾五〇仙の相場であつた。

醋酸

輸入高 (單位千疋)	一九二〇	一九二一
爪哇及マヅラ	一九二〇	一九二一
外 領	五九九	六九

蘭領東印度貿易大観

外	四〇七	二二六
計	一、〇〇六	一九五

廿五の籠瓶入九九パーセントの醋酸相場は年初め廿五盾で九月頃迄此値段で通し其後十九盾五十仙に低落して年を送つた。

カルシウムカーバイト

輸入高 (單位千疋)

爪哇及マヅラ	一九二〇	一九二一	一九二二
外	八九一	五三九	一、〇二七
計	二、三〇〇	一、七三三	一、六六七

本品の主要供給者は和蘭、スカンヂナビヤ諸國、獨逸及び米國で、和蘭が第一位を占め次は瑞典である。

苛性曹達

輸入高 (單位千疋)

爪哇及マヅラ	一九二〇	一九二一	一九二二
外	四、二二二	六八九	二、四〇三
計	五〇八	二七九	四〇九

前年度の輸入が異常に少なかつた爲め本年度のそれは反動的に増加した。英國と米國は兩者で輸入總額の五分の四を供給する。三百疋のドラム入 H_2SO_4 。七二パーセント乃至七六パーセントの苛性曹達は年度を通じて百十盾臺の相場にあつた。

炭酸曹達

輸入高 (單位千疋)

爪哇及マヅラ	一九二〇	一九二一	一九二二
外	二、六三二	一、一九八	一、二三〇
計	二〇三	二〇六	一八三

英國は相變らず最大の供給者で百疋の樽入曹達は約三五盾の値を唱へた。

丹麥

輸入高 (單位千盾)

爪哇及マヅラ	一九二〇	一九二一	一九二二
外 領	二二九九	二二三〇	四三三三
計	二四八九	二二三五	一一二

硫酸銅の主要供給者は矢張り英國であるが獨逸からの輸入も二一年に比し二倍以上の増加を見た。六〇盾の樽入硫酸銅は日本物三八盾乃至三二盾及び歐洲物三五盾乃至三二盾の相場を唱へた。

四、屋根葺材料

アスベストブレエト、エーテルニット及びマルチニットの輸入は下記に達した。

爪哇及マヅラ	一九二〇	一九二一	一九二二
外 領	三、五四九	一、六八九	二、〇九九
計	三、八九六	二、〇二八	六二

(單位千盾)

本年度の輸入は二〇年の數字には達しないが二一年と比較すれば多少増大した。和

蘭は最大の供給者で次は白耳義である。獨逸からの輸入も増加しつつある。

五、食料及び飲料品

一九年乃至二一年の好況時代に輸入されたストック物の清算續行に依り市場は軟弱であつたがそれでも大體に取引が盛んだつたのは特記に價す。但し需要は益々下等品に推移しつつある。一般公衆の收入減退が然らしめたのである。年末にもストックは全部消化され盡したとは云へなかつたが、然し其殘額は頗る僅少で二三年は市況の改善を見るべく期待されてゐる。戰時中に初まつた米國、濠洲、日本、及び南亞からの輸入は減退し消費者が昔から買付てゐた歐洲品を好む傾向は益々顯著となつた。セコンドハンドでは期待された程の破産數は無く破産した者でもその原因は本品の損失ではなく其他の要素に影響されたのが多かつた。消費税が二二年五月一日から引上られ手持ストックも差額の支拂を餘儀なくされた爲め取引は頗る澁滞し消費税の收入は二年よりも却つて少なかつた。其後若干の改善を來したがそれも根本的ではなく特に

輸入香料の如きは永久に消費減退に悩むであらう。

アルコール飲料

瓶詰スタウト麥酒の輸入は下記に達した。(單位千立)

爪哇及マヅラ	一九二〇	一九二一	一九二二
外 領	五七六	五二二	六二八
計	四〇三	二九六	一八〇
	九七九	八一八	

主要供給者は相變らず和蘭であつたが然し英國や特に獨逸の競争が甚だしくなつたスタウト以外の瓶詰ビール輸入高は下の如くである。(單位千立)

爪哇及マヅラ	一九二〇	一九二一	一九二二
外 領	六、二二二	六、一四一	四、八三七
計	四、五〇〇	三、三四七	一、六一四
	一〇、七一一	九、四八八	

日本は戰時中供給者の中で主要な地位を占めたが其後和蘭及び獨逸に凌駕され本年度は獨逸の輸入が最大であつた。一月には獨逸から多量の輸入品が到來した爲め他國

の麥酒は不振状態を呈した。八月迄はファーストハンドのストック餘りに多大だつたが其後需要の増加と獨逸品輸入の減少に依り賣行頗る良好だつた。歐洲麥酒のファーストハンド相場は大瓶壹打當り七盾五十錢乃至六盾の間を往來し日本麥酒は六盾廿五仙乃至六盾を唱へた。樽詰麥酒の輸入は下記に上つた。(單位千立)

爪哇及マヅラ	一九二〇	一九二一	一九二二
外 領	六三	八一	六九
計	一四	三五	二二
	七七	一一六	

一三年には樽詰麥酒は専ら和蘭から輸入されたが二〇年に至つて濠洲は其半分を供給した。然し二一年及び二二年に於ては再び和蘭が主要供給者となつた。瓶詰ジン酒の輸入は下記に達した。(單位千立)

爪哇及マヅラ	一九二〇	一九二一	一九二二
外 領	八五二	七一九	五五九
計	三八二	三四五	八五
	一、二三四	一、〇六四	

輸入は専ら和蘭から行はれる。年初めには消費税引上を期待して盛んに賣拂はれた爲め値段は其後大した變動を見なかつた。消費税引上發布後の取引は頗る減少し年終り數ヶ月に至つて初めて需要の増加を見た。消費税の引上はコニヤツクに對してもジ
ンに於けると同様の悪影響を與へた。

ビスケット

輸入高 (單位千疋)	一九二〇	一九二一	一九二二
爪哇及マヅラ	二、〇五九	八六三	一、三一一
外 領	一、二八八	五九七	三二〇
計	三、三四七	一、四六〇	—

ビスケットの仕出地は主として和蘭、英國、新嘉坡及び濠洲であつた。蘭英の輸入は本年度に於て頗る増大した。二一年に於けると同じく最大の供給者は和蘭である。ブアサの初め頃需要は増大したが其後は再び市況閑散となつた。五月には支那商等に依つて大量の劣等ビスケットが新嘉坡から輸入されたがそれは豫期に反して損失を與

へた。下半期に至つても需要は大して増加せず、和蘭品の相場は若干低落した。

罐入天然牛酪

輸入高 (單位千疋)	一九二〇	一九二一	一九二二
爪哇及マヅラ	二、三一五	二、四七五	二、〇八五
外 領	五八九	四九九	三九九
計	二、九〇四	二、九七四	—

輸入は前行諸年と同じく殆んど全部濠洲から行はれ、和蘭からの輸入は激減して一五三噸となつた。本年度は濠洲品五封度罐入四盾五〇仙、和蘭品七盾五〇仙に初まつたが後者に對しては需要少く相場は低落傾向にあつたが四月に至つて濠洲が高値を傳へた爲め爪哇の市價も一割五分高となり其後更に一割増となつた。五月及び六月にも絶へず小率な引上が行はれ濠洲品は八月に至つて六盾廿五仙の相場に達した。然しセコンドハンドの手持多かつた爲め需要は減退し相場も十月から低落し初め濠洲バターは五盾五十仙の相場で年を送つた。和蘭バターの相場は大した變動なく七盾乃至七盾

廿五仙間にあつた。人造バターの輸入は蘭領印度に小規模な食料油脂工場が多い爲め大した數量に達しない。本年度の輸入人造バターは主として和蘭から來た。以前最大の供給者だつた伊太利は殆んど全く市場から驅逐されて仕舞つた。

チーヌ

輸入高 (單位千疋)	一九二〇	一九二一	一九二二
爪哇及マヅラ	四七九	五二〇	五六七
外	一二四	一〇〇	六一
計	六〇三	六二〇	—

前項二ヶ年に比し輸入は著しく増大した。本品の市場は殆んど和蘭の獨專で濠洲品は全く驅逐されたと云つて差支へない。

大豆

輸入高 (單位千疋)	一九二〇	一九二一	一九二二
爪哇及マヅラ	三二、一二八	七八、九六三	九三、七二六

外 領 二、九七七 四、九九七 二、〇一六

計 三五、一〇五 八三、九六〇 一

大豆は殆んど全く大連のみから輸入される。

麥粉

輸入高 (單位千疋)	一九二〇	一九二一	一九二二
爪哇及マヅラ	二七、三六九	二八、九〇三	二八、九五一
外	一一、九三四	一三、二五三	八、〇七六
計	三九、三〇三	四二、一五六	—

前行二ヶ年に盛んだつた新嘉坡、支那及び香港からの輸入は二二年に至つて殆んど全く濠洲麥粉に依て驅逐され濠洲は事實上蘭領印度に對する唯一の供給者となつた。

牛乳

消毒牛乳及び煉乳の輸入は下の如くである。

消毒牛乳 (單位千立)	一九二〇	一九二一	一九二二
爪哇及マヅラ	一、三二四	二、八六三	二、四九五

第四章 輸出入貿易

蘭領東印度貿易大観

二七四

外	三九二	六五七	二七一
計	一、七〇六	三、五二〇	—

最大供給者は和蘭で米國、伊太利及び瑞西からの輸入は減退した。若干品種は四月に値下りを見たが六月末に至つて相場は全線に亘つて二割乃至三割の低落を見せ需要は頗る活潑となつた。八月の小昂騰を経て市況は十一月に至り定安し安物の需要多大に年を送つた。

煉乳 (單位千瓩)

爪哇及マヅラ	一九二〇	一九二一	一九二二
外	三、三七九	四、七三七	五、〇一一
計	一、五三二	一、五二三	一、一三一
	四、九一一	六、二六〇	—

本品の輸入は二〇年及び二一年と比べて甚だ増大した。濠洲からの輸入は特に増加し又和蘭、英國及び伊太利からの輸入も可成な増大を見せた。反對に瑞西品の輸入は殆んど皆無となり米國からの輸入も減少した。

米

二一年末には一般に英領印度からの輸出が尙禁止されてゐた爲め蘭印の不足を補充するは頗る困難なるべしと恐れられた。それに又日本の收穫豫想も悪かつた爲め一般に日本の買付は頗る多大なるべく期待された。蘭印政府は此等の事情に鑑み各地で約八四、〇〇〇噸の米を買付け二月乃至四月に爪哇へ到着せしむるやう配慮した。初めは此數量以上に買付ける計畫であつたが突然英領印度政府が米輸出を解禁すると共に買付は中止されたのである。

従つて上半期の取引は政府米の輸入に影響され價格は平準を保つた。五月及び六月には特に香港に於ける大罷業の結果として東洋方面の需要激増し西貢、盤谷、及蘭貢の市價は急騰したが爪哇市場は矢張り平準を保つてゐた。二一年に於けると同じく本年度も西貢米の引渡について絶へず苦情が起つた。品質が悪いのみならず到着時の數量不足が頗る甚だしかつたので爪哇の輸入商等は監督の必要を認め西貢の一商館を指

定して品質を検査すべく努力した。其結果は未だ充分でなく他國からの同種米に比して多大の値開きが無ければ一般に西貢米は買溢られる傾向が強い。

過去三ヶ年に於ける私人の米輸入は下記に達した。(單位千疋)

脱穀暹羅米	一九二〇	一九二一	一九二二	一九二〇	一九二一	一九二二
爪哇及マゾラ	—	二〇二、八七九	九四、六〇三	爪哇及マゾラ	一〇〇	九六、三三三
外 領	一五、一六五	五八、七六〇	二九、四一八	外 領	二、三三七	三六、三三四
計	一五、一六五	一六〇、六三九	—	計	二、三三七	七六、三三七
脱穀西貢米				其他の米		
爪哇及マゾラ	—	三六四、三九七	三九、八三四	爪哇及マゾラ	九	七、〇三〇
外 領	七〇、二〇六	七八、四八八	二、九〇〇	外 領	一七、一四〇	五、三四二
計	七〇、二〇六	四四三、八八五	—	計	一七、一四九	一三、三七二
				總 計	一〇四、八八七	七五八、三三二

政府の米輸入は二〇年一一六、九六三噸及び二一年の一五、五五七噸に對し六九、〇八七噸に達した。

爪哇の米市場 一月第一週には西貢第二號爪哇物が一月十五日迄の船積 〇、爪哇北

海岸七盾一〇仙で取引され又蘭貢米ベクトは七盾乃至六盾九〇仙で賣買されたが其後後者の値段は一二月船積七盾一〇仙乃至七盾四〇仙に昂騰し西貢米も第二號爪哇物 〇、北海岸七盾廿仙となつた。外米市場は二月に至つて低落の傾向を示し政府米が市場に提供された爲め價格は稍々軟弱となつた。政府は二月下半に至つて運送中の西貢第二號約二二、〇〇〇噸を 〇、七盾七十五仙乃至七盾及び暹羅ブロークンA Iを七盾廿五仙で賣拂つた。三月及び四月の市場は爲めに政府米に依つて支配され爪哇の相場は著しく低落した。蘭貢、盤谷及び西貢の相場は爪哇相場以上の高臺にあつた。四月初め政府米が、

西貢白米第二號爪哇物フランコスハール	七盾	蘭貢シカオ爪哇物フランコスハール	八盾		
蘭貢ベクト米	同	八盾廿五仙	暹羅ガーデン第一號	同	九盾九十仙

で買られた時原産地は下の如き高値を示してゐた。
西貢第二號爪哇物 〇、爪哇港 四―五月渡 八盾二十五仙 蘭貢シカオ爪哇物 〇、爪哇港 四―五月渡 八盾四十仙
蘭貢ベクト 同 八盾六十仙 暹羅ガーデン 同 十一盾八十五仙
斯の如き事情に於て外米の取引が政府が米賣拂を續行した期間中殆んど中絶したの

は驚くに足らない。然し四月末になつて政府米の中七千噸の西貢白米第二號が香港に賣却され、又貯藏されてゐた大量の蘭貢米も同じく賣拂はれた事が分ると共に突然景氣は改善した。當時外國の相場は政府米の云値よりも一盾強の高臺にあつた。間も無く爪哇米の收穫が盛んに行はれた爲め輸入市場は外國相場の高い事も與つて閑弱となつた。然し外國相場は五月末に至つて低落し始めた。六月及び七月中はそれでも尙爪哇の買手に取つては高過ぎた爲め取引少く八月中頃に至つて再度の低落に依り漸く爪哇の相場に接近した。當時西貢の第二號爪哇物に對する相場は、九—十月及び十一月渡六盾九十仙乃至七盾に達し、蘭貢ベクトは、九—十月渡八盾十仙乃至八盾二十仙で取引を見た。市價の低落に拘らず爪哇市況は尙軟弱を免れず若干の投機商等は頗る危険な低値で空賣を行ひ初め、彼等は外國相場が其後續落しない爲め遂に九月末に至つて現物を買込んだ。十月乃至十二月の市況も活潑を缺いた。蓋し爪哇の豐作と前行拾ヶ月間の輸入残とは需要以上に多かつたのである。

魚類

魚類の輸入は下記に上つた。(單位千疋)

イ、鹽乾魚	一九二〇	一九二一	一九二二
爪哇及マヅラ	三五、四七〇	四六、二六〇	三八、三八五
外 領	六、〇八三	七、八九〇	四、〇二〇
計	四一、五五三	五、四一五〇	—
輸入は殆んど専ら新嘉坡から行はれる。			

ロ、罐詰魚	一九二〇	一九二一	一九二二
爪哇及マヅラ	一、九六〇	二、〇八五	一、六二二
外 領	一、四〇七	一、二二六	六八二
計	三、三六七	三、三一	—

本年度の輸入は頗る減退し特に英國、新嘉坡及び香港からの輸入に於て甚だしい減少を見た。然し北米と加奈陀とは前行年よりも若干多量に供給した。

生肉

輸入高 (單位千疋)

關領東印度貿易大觀

爪哇及マヅラ	一九二〇	一九二一	一九二二
外 領	九	一七四	二五三
計	一六	一七四	三
			二八〇

上表に明かな如く本年度の輸入は頗る増大した。供給者は相變らず濠洲である。

六、糸 類

麻 糸

輸入高 (單位千疋)	一九二〇	一九二一	一九二二
爪哇及マヅラ	四二八	四六七	三四八
外 領	一九八	三六三	三〇七
計	六二六	八三〇	一

本品の供給者は英領印度である。

織物用綿糸

輸入高 (單位千疋)

爪哇及マヅラ	一九二〇	一九二一	一九二二
外 領	一、五六四	一、三九三	一、二四八
計	一、二六一	九六九	七〇三
	二、八二五	二、三六二	一

輸入は國內工業不振の爲め再び減退した。英國からの輸入は絶へず増加し又日本もその販路を擴大しつつある。新嘉坡經由で孟買から輸入される英領印度の綿糸は其數量に於て激減した。英國の製品と比較すれば英印ものは纖維の短い原綿が使はれると共に加工が不親切な爲め頗る劣等である。支那商や亞刺比亞商並に又多分若干の歐人輸入商等は英領印度の製造家をして重量は普通の十封度であるが長さが八百四十碼に達しない束糸を作らしめるものゝ如くである。

七、硝子及硝子製品

硝子製屋根瓦

輸入高 (單位千個)

第四章 輸出入貿易

蘭領東印度貿易大観

	一九二〇	一九二一	一九二二
爪哇及マヅラ	七五一	一七二	一九二二
外	二〇	二	二三四
計	七七一	一七四	三
主要な供給者は相變らず白耳義であり次は和蘭で、戦前頗る多量の硝子製屋根瓦を供給した獨逸は第三位にある。本年度の輸入は二〇年とは雲泥の差であるが二一年と比較すれば著しく増加した。二〇年に於けるが如き大輸入は戦時中の輸入が極少だった爲め又日本が本品を供給しない爲めに起つた減少で到底之を以て平年の輸入標準とする事は出来ない。			
ラムフ火屋			
輸入 高 (單位千打)			
爪哇及マヅラ	一九二〇	一九二一	一九二二
外	四七一	七〇五	四三三
計	一五八	一八六	一二六
	六二九	八九一	一

二一年と比較すれば甚だしい減少で、主たる供給者は同じく日本である。日本は既に一三年に於て最大の供給者であつたが其後益々歐洲品を驅逐して其地盤を擴大しつつある。

コップ、瓶 皿等

輸入 高 (單位千盾)	一九二〇	一九二一	一九二二
爪哇及マヅラ	二、二七九	二、八五二	一、七七七
外	四〇二	四三七	一五五
計	二、六八一	三、二八九	一
和蘭及び日本は主要な供給者であるが兩國からの輸入は約五割の減退を示し増加したのは獨逸からの輸入のみである。			
詰 瓶			
輸入 高 (單位千打)			

爪哇及マヅラ	一九二〇	一九二一
外 領	三六	六一
計	一六	一一
	五二	七二

二二年の數字は不明である。本品に於ても日本は歐洲の恐るべき競争者となつた。一三年に於て獨逸と和蘭兩國からの輸入は日本以上であつたが二一年に於ては日本輸入の六分の一にも達しなくなつた。

鏡 硝 子

輸入 高 (單位千盾)	一九二〇	一九二一
爪哇及マヅラ	三八九	三六二
外 領	六二	四九
計	四五	四一

本品に就ても二二年の資料は尙不明である。最大の供給者は和蘭である。

窓 硝 子

輸 入 高 (單位千盾)

爪哇及マヅラ	一九二〇	一九二一
外 領	一、七五九	七三一
計	四六五	一一三
	二、二二四	八五四

二二年の資料は同じく不明である。主要な供給者は和蘭と白耳義で日本は戦時に獲得した地位を維持し得なかつた。年初めの市價は満足に價したが下半期に至つて法相場が低落した爲め輸入業者は餘儀なく低値で賣込まねばならなかつた。

八、麻 袋

本年度の輸入は前行二ヶ年に比して頗る減少した。即ち二〇年の一三、六三八、〇〇〇盾及び二一年の一九、四〇五、〇〇〇盾に對して僅か七、〇六四、〇〇〇盾に過ぎなかつたのである。本年度も和蘭包装用麻袋の品質に就て一般に苦情が多かつた。砂糖用の麻袋は A' twills, 44" X 26 1/2" - 2 1/2 lbs. である。以前は殆んど苦情は起らず砂糖袋の大輸入商が許容した四パーセントの不合格率は充分買手の満足を得てゐたが近年は頗

る品質劣等な袋が多い爲め到底四パーセントでは足らなくなつた。若干の砂糖工場では九〇パーセント迄不合格品が発見された實例もある。爲めにトラストのみならず諸商業會議所もカルカッタに改善策を試みたが其成績は危ぶまれてゐる。ベンゴールは世界で唯一のデユート生育地であるから爪哇はどうしても英印に依頼するより外はない。英人の一砂糖輸出商はその賣付ける麻袋に對して製糖終了迄百パーセントの保證を與へて賣込に成功した。値段は勿論普通品よりも高いが諸多の面倒を省く爲め一般に歡迎されてゐる。年初め三ヶ月間の市價は大して昂騰せず輸入數量の中大部分を占める砂糖袋は百個當り平均四十七盾臺にあつたが、四月には昂騰の傾向が見へ九月の九十九盾迄漸騰し、其後は再び五十盾迄漸落したが更に五十七盾に昂騰して手堅い市況に年を送つた。珈琲袋 (Light C's 40" X 28" — 2 lbs.) 米袋 (Heavy C's 40" X 28" — 24 lbs.) 及びロブラ袋 (E Bags 50" X 32" basis 1 1/2 lbs for 40" X 28") の相場は平均百個當り四十三盾、四十六盾及び四十八盾であつた。

九、小間物

大體に獨逸は日本の競争を物ともせず本品の市場を掌握し戦前の地位に歸つた。唯セルロイドの腕輪は専ら日本から輸入され、眞珠貝釦では同じく日本が最大の供給者でありストーンナット釦は和蘭の獨專である。市況は二一年よりも餘程良好で、輸入高が需要よりも少なかつた爲め輸入商や支那商人等は充分の利益を得た。従つて小間物商の不景氣に對する抵抗力は、一般に織物商よりも強く破産等も殆んど起らなかつた。輸入の明細は下の如くである。

種 類	單位	一九二〇	一九二一	一九二二
硝 子 釦	千クロス			
爪哇及マヅラ		四二	五七	四八
硝子製南京玉及眞珠	千盾			
爪哇及マヅラ		一一八	一四七	二一九
外 領		一七	一七	二
セルロイド腕輪	千盾			

蘭領東印度貿易大観

爪哇及マヅラ	外	領	千盾	一六九	二一	二八八
セルロイド製南京玉			千盾	一九	一五	一三
爪哇及マヅラ			千盾	八九	六八	
模造金糸			千盾	九五	六二	
爪哇及マヅラ	外	領	千盾	四四九	一九七	一三八
卑金屬製裝身具			千盾	八	三六	九
爪哇及マヅラ	外	領	千グロス	一六三	一五八	一七七
金屬製鈕			千グロス	二五	二一	八
爪哇及マヅラ	外	領	千グロス	一一三	四九五	二三五
ストーンナツト鈕			千グロス	三	八	五
爪哇及マヅラ	外	領		一	一	四
眞珠貝鈕			千グロス			

一〇、人造染料

アリザリン、アニリン及び人造藍の輸入は下記に上つた。(單位千疋)

イ、アリザリン			一九二〇	一九二一	一九二二
爪哇及マヅラ			三〇二	三〇一	二四六
ロ、アニリン			一八六	一八四	一五六
爪哇及マヅラ	外	領	四七	一〇	一
ハ、人造藍			三三七	四八三	五三五
爪哇及マヅラ	外	領	一	二	一

更紗業の不振に不拘アリザリン及びアニリンの消費は一般に増加した。天然染料は益々市場から驅逐され、又人造染料の低相場に依り戦争中に於けるが如き節約的な消費は一般に行はれず大量に使用する傾向が強い。

六十疋の樽當り二〇パーセントアリザリンは年初約三百疋だったが十二月の約三十

盾迄低落した過去三ヶ年の輸入は下記に上つた。

一一、亞麻仁油

過去三ヶ年の輸入は下記に上つた。(單位百立)

イ、罐	一九二〇	一九二一	一九二二
爪哇及マヅラ	二五、一一〇	五、六四三	九、三二四
外	二、二七一	一、二四七	二、三六八
計	二七、三八一	六、八九〇	—
ロ、樽又はドラム入			
爪哇及マヅラ	三、一四四	二、一五五	一、〇三四
外	三、四四五	二、二九三	八八二
計	六、五八九	四、四四八	—

二一年に比し罐入は増加したが樽及ドラム入は減退した。主要な仕出地は今尙和蘭である。歐洲品の市價は十七立二罐入箱當り二十一盾乃至二十六盾を動搖し年末は二十二盾に終つた。

一二、燐 寸

過去三ヶ年の輸入は下記に上つた。(單位千ヶロス磅)

爪哇及マヅラ	一九二〇	一九二一	一九二二
外	六、五八一	三、八一二	四、三二五
計	一、七七二	一、一九〇	八六四
	八、三五三	五、〇〇二	—

日本燐寸の輸入は多少瑞典品を壓倒して増加した。和蘭からの輸入は云ふに足らず支那品も亦事實上市場から驅逐された。年は瑞典燐寸二百六十盾の相場で明けたが消費税引上の爲め五月には三百盾となり、此値段は五月迄續いたが、其後漸落して年末は再び二百六十盾に終つた。

一三、機 械 類

機械器具等の販路は大體三種に區別出来る。即ち歐人栽培業、官業及び支那人の手中にある雜多な小規模事業である。機械類輸入の盛大は歐人栽培業の隆盛と負擔力並

に一般の經濟狀態と密接な關係がある。従つて機械類の取引が第一に益々深刻化した諸方面の經費節減から悪影響を受けたのは驚くに足りない。官業の買入れが以前と比較して甚だしく減少した事は周知の事實である。目下の事情に於て最も必要なのは短期の賣付であるが輸入商等は猛烈な競争に餘儀なくされて機械類や發動機に對し一、二ヶ年又はそれ以上の賦拂を許容するに至り内地の支那人間では之を利用して現存の精米所を擴張改善し又は新工場を設立した者も少くない。木材會社が事業不振に悩んだ關係上輸入商は平年ならば賣行良好な機關車を多量に手持せねばならなかつた。戰後簇生した多數の泡沫會社は今や其生存權を失ひ、實需以上の輸入や買入契約を行つた爲め、任意又は強制的な清算を爲すもの多く、價格は暴落して甚だしい軟弱な市況を呈した。然し護謨や茶の景氣が改善した爲め工場の改築、擴張されるもの多かる可く、以前からの資力強固な大輸入商は有望な將來を期待してゐる。

一四、織物

二〇年乃至二二年の輸入は下記に上つた。(單位千疋)

爪哇及マゾラ	一九二〇	一九二一	一九二二
綿織物、粗、未漂白	一一、六四一	七、五八二	八、〇四一
同、漂 白	一四、六一〇	一三、二二二	一四、三一七
同、捺染物、サロン、カイ	一、六四六	一、六八一	一、一五六
同、ンスレンダン及頭巾	一四、七三四	一一、四二四	一〇、八二六
同、其他の捺染物	一六七	一〇二	七〇
羊毛、織物	六七	五五	一六二
半羊毛、同	一四四	二九〇	一一八
絹、同	二〇	二一	一八
外 領			
綿織物、粗未漂白	二、〇五〇	一、二三五	八二四
同、漂 白	三、〇六七	二、四六二	一、七五〇
同、捺染物、サロン、カイ	一、二五一	一、二五三	五七二
同、ンスレンダン、及頭布	五、五五五	五、六八六	二、四九八
同、其他の捺染物	二七	二七	一七
羊毛、織物	一〇	七	二
半羊毛、同	三九	五九	三一
絹、同			

半絹、織物

七

七

三

和蘭、英國及び日本の蘭印織物輸入に於ける地位は下表に明かである。(單位千疋)

爪哇及マツラ	蘭 一九二〇	英 日	蘭 一九二一	英 日	蘭 一九二二	英 日
綿織物、粗、未漂白	一、三六〇	三、二三四	六、七六六	九、九三三	一、〇四一	五、二〇八
同、漂	白 六、〇〇三	五、七二〇	二、〇四五	七、一九六	四、二四四	一、二〇三
同、捺染物(全てを合)	二、二二三	四、八八一	五、八三三	一、九七六	四、四三六	三、四八七
外 領	一九二〇	英 日	一九二一	英 日	一九二二	英 日
綿織物、粗、未漂白	六、六一	五、三四	三、八九	三、五五	二、七六	一、七三
同、漂	白 八、三〇	一、〇八三	三、九一	八、〇七	七、五九	三、七
同、捺染物(全てを合)	一、三五四	一、六五六	七、四	一、二五三	一、二二二	二、六
未漂白粗布の輸入は二一年と比較すれば若干増大した。日本は相變らず市場を掌握してゐる。漂白綿布の輸入は二一年よりも多く殆んど二〇年の數字に達した。日本及び香港からの輸入が減退した反對に和蘭、英國及び伊太利からの輸入は増大した。サロン等の捺染物及び交織物の輸入は殆んど専ら歐人以外の住民に依つて消化されるが						

本年度の數量は二一年よりも約三割少なかつた。然し其他の捺染物と交織物は輸入數量に於て二一年と大差なく日本は和蘭及び英國を壓迫して頗る多量を供給した。英國側の資料に依れば雜色物の對蘭領印度輸出は下記に上つた。(單位千平方碼)

種 類	一九二一	一九二二
印刷布	五一、六〇九	二九、〇四四
染色物	三二、六一八	三〇、八八三
交織物	八、一七五	二、二八二

上表に依れば印刷布は二一年と比較して頗る減退した事が分る。織物商では特に破産者多くその蒙つた損害は甚大であつた。原因は勿論一般的な不景氣と租税の壓迫である。然し之を些細に觀察すれば破産の大部分は信用の不確かな買手に對し無暗に賣付られた結果だといふ事を認めねばならぬ其證據には僅少の除外例を除きパタピヤに於ても古くから在る支那人の店には殆んど破産は起らなかつた。然し上記の無法な信用貸與を批判するに當つて忘れてならない事は輸入の莫大な時に當つてストックの増

加を防ぐ爲め止むなく信用賣をせなければならなかつた輸入商の多い事である。それに又新設會社は販路を開拓する爲め特にセコンドハンドに對する取引を容易にせんとした傾向が強かつたのである。

キアンブリツク 年初め加工布の取引が閑散でストックが堆積する一方だつた爲めキアンブリツクの賣買は頗る僅少だつた。特に一月末に至つて實需なきに拘らず輸入商が賣急いだ爲め價格は低落した。二月にも更紗業には何等の改善なく買手は極く少量の取引に限つた爲め値段は同じく低下傾向にあつた。三月は改善を齎らし特に上半に於ける需要は活潑で取引も頗る盛んだつた。下半には需要再び減退した。蓋しセコンドハンドのストックが多だつた爲めである。四月にはアアサの間近なるに拘らず市況は尙改善せず五月中にも加工品のストック多大な爲め値下りを期待され買手は先持態度に出た。然し六月は市況の改善を見せ取引も活潑となり更紗業に對す綿布類の市價が特に昂騰した。又歐洲の強氣も好影響を與へ七月に至つても市況手堅く値段は

昂騰し取引高も満足に價した。メバランハヂに對して更紗業の生産少く加工布の値段も低落氣味だつた爲め八月の買付は實需用に限られ市況は閑弱であつたが歐洲が引緊つてゐた爲め輸入商は値段の引下を行はなかつた。然し九月に至つても更紗業の景氣改善せず、従つて需要は僅少で、月末に至り日本が突然一割乃至一割五分の低相場を傳へると共に一般的の値下が豫想され買手は新買入を手控へた。尤も歐洲は引緊つてゐたがそれも大して好影響を與へなかつた。十月も市況不振で特に月初の取引少なく月末に至つて漸く若干の需要が起つたが値段は全線に亘つて低落傾向にあつた。歐洲の市價が絶へず値上りを傳へた爲め白地綿布特にキアンブリツクの市場は年末の一、二ヶ月に於て手堅い市況を見せた。従つて値段も相當高く年は有望な期待に暮れた。

金巾 需要は主として下等品に限られ上等品に對して買氣弱かつたがそれでも値段は相當な高値にあつた。三月には需要激減の爲め價格低落し、六月には下等品に對する需要強く其値段は強かつたが、續く諸月には軟弱な市況だつた。十月は下等品の市

價暴落し、十一月も需要僅少で市場は在荷過剰の氣味だった。年末は同じく軟弱な市況に暮れた。

シューパース 下等キアンブリックの提供多大な爲め年初の市況は軟弱で、二月には歐洲物のシューパー及び粗金巾の市價低落に連れ日本品も値下を餘儀なくされた。低落は取引僅少に依り其後も存続し六月に至つて初めて市況若干改善し値段の引上を見た。然し需要は續く諸月にも僅少で唯小幅物が絶へず買進まれた。年末の諸月は軟弱な市況に送られ値段は更に低落した。

ドリル 一月は輸入不充分だったが値段の引上は行はれ得ず粗ドリルの如きは却つて低落した。縞物及び染ドリルの市場は其後改善して五月迄強氣を見せた。粗ドリルに對しては殆んど興味がなかつた。七月に至つて染及び縞ドリルの需要は再び活潑となり輸入高は需要を充し得なかつた。九月には大幅の縞ドリルのみ賣行良く其他は閑弱だった。年末は日本相場が引下られた爲め歐洲相場にも低落を見た。

プリンツ及びファンシース 一般に景氣不良で市價は絶へず低落し新買入品の賣込は何等の利益をも與へなかつた程である。残り物の商品は殆んど取引無く誓文拂の値段でなければ賣込めなかつた。一般に需要は新柄の上等品に集中された。此等の事情に依つて取引は頗る限局された。日本の競争は僅かな種類の商品に限られたが、然しそれ等の商品に於ては到底歐洲品の競争を許さない程の活動振を見せた。

毛布 上半期の需要は極少でストックは著しく堆積し、其後需要の漸増に連れ輸入商は孰れも賣急いだ爲め値段の低落を來し年は不良な成績に終つた。

一五、肥料

硫酸安母尼亞の輸入は下記に上つた。(單位千噸)

	一九二〇	一九二一	一九二二
爪哇及マツラ	一一一、五三三	五七、九八九	七〇、七四〇
外	二〇九	七三〇	一、六八九

二二年と比較して輸入が増大したのは英米が約一萬噸を昨年度以上に供給した爲め

である。日本は五、〇〇〇噸を供給したが多分一部分は米國品の再輸出であらう和蘭英領印度及び濠洲からの輸入は大した數量に達しない。本年度の輸入は生産國の一なる米國に於て坑夫罷業が勃發したに拘らず何等の困難をも醸さなかつた。値段は可成り動搖した。年初めは窒素二〇パーセント物でピクル當り平均十二盾五十仙だったが上記の坑夫罷業に影響されて十五盾迄漸騰し其後罷業終滅と共に低落傾向を示し始め平均十三盾五十仙迄漸落したが年末は引緊つた市況に終つた。

一六、金 屬

金屬の輸入は下記に上る。

爪哇及マゾラ	單位	一九二〇	一九二一	一九二二
亞鉛引、屋根鐵	千疋	一四、六四八	三、八〇五	七、四三六
同、天井鐵	同	九八〇	五八三	七五〇
鐵及鋼、棒、葉及板	同	六六、二三二	五七、一四九	二四、六〇三
線 釘	千樽	一五三	一四三	一〇八
同、(箱詰)	千疋	四八四	四八	四七

釘	同	九三三	五四二	五〇七
普通車軸	千個	一一	八	一一
特許、同	千個	四七四	三一九	六八〇
赤、銅 葉	千疋	五九二	三六三	六三〇
黃、同	同	二七七	一四二	一六一
銅 線、黃	同	一六	四六	七一
鐵力 葉	單位	一一、六二七	一三、九五二	一一、三九八
外 領	單位	一九二〇	一九二一	一九二二
亞鉛引、屋根鐵	千疋	四、三六四	二、九一五	四、〇一四
同、天井鐵	同	一六	六	一
鐵及鋼棒葉及板	同	八、五五六	一〇、九八九	三、八三七
線 釘	千樽	七二	四七	七
同、(箱詰)	千疋	三二七	一七七	一四六
釘	同	五五四	三三三	一七四
普通、車軸	千個	一、九四七	一、〇三八	七四〇
特許、同	同	一、九一九	九七七	一
赤、銅 葉	千疋	八	一一	二
黃、同	同	三八	五一	三一
銅 線、黃	同	一九	一八	四

鐵 力 業 同

一四、一七九

一九、〇四七

一三、二四〇

亞鉛引屋根鐵及び天井鐵の輸入は二一年に比し甚だ増大した。亞鉛引屋根鐵の値段は一月の十八盾五十仙から十月十六盾五十仙迄漸落し、年末は十六盾七十五仙に終つた。棒鐵葉鐵及び板鐵の輸入は、ストックの多大と不景氣に關連して激減した。本年度の鐵價は漸落傾向にあつた。上半期には動搖少なく、瑞典桿鐵上等品はビクル當り十九盾五十五仙で明け七月迄其値段を續けたが十月に至つて十七盾を唱へ十二月には再び十九盾七十五仙となつた。棒鐵及板鐵の値段は同様の傾向を示し、噸當り百廿五盾乃至百卅盾で初めの七ヶ月を通じ九月に至つて百十五盾乃至百廿五盾に低落し年末は百十五盾に終つた。

樽入線釘の輸入も二〇年及二一年よりも著しく少く、米國からの輸入は増加したが濠洲からは輸入皆無だつた。箱詰線釘の輸入は二一年と殆んど同量だつたが二〇年と比較すれば甚だ少ない。一時乃至六吋物の線釘値段は六十匁の樽當り十三盾五十仙か

ら十月の十六盾迄漸騰し十二月は十四盾の相場に暮れた。釘の輸入も激減した。供給高の増大したのは獨逸のみである。瑞典、諾威、加奈陀及び濠洲からは輸入皆無だつた。赤銅葉の輸入は著しく増加した。最大の供給者は英國であるが獨逸及び佛蘭西からの輸入も増大しつつあり、米國は益々市場から驅逐される傾向がある。黃銅葉の輸入には達しないが二一年と比較すれば増加した。本品に就ても米國は直接供給者としての地位を失ひつつある。銅の値段は歐洲相場と呼應して動搖した。一月にビクル當り八十盾を唱へた赤銅葉は十月に至つて九十盾となり十二月は七十五盾に終つた。亞鉛は百匁當り五十盾に初まつて九月の四十盾迄低落し其後四十五盾で年を送つた。亞鉛葉の輸入は再び減退した米國からの輸入が激減した反面に英國、白耳義及び獨逸からの輸入は頗る増加した。ポールト及鋸は軟弱な市況を見せて匁當り四十二仙及び卅二仙に初まり九月には各々四十仙及び廿五仙に低落して十二月は四十仙及び卅仙に終つた。

一七、紙

過去三ヶ年の輸入は下記に上つた。

イ、書寫用紙。(單位千盾)

爪哇及マヅラ	一九二〇	一九二一	一九二二
外	三、三四〇	二、三九四	六九二
領	三二六	三六七	一三七

和蘭は本年度も最大の供給者であつた。然し輸入高は獨逸を除けば全て激減した。獨逸からの輸入は二一年の一〇三、〇〇〇盾から一六九、〇〇〇盾に増加した。瑞典紙は年初め貯當り六十四仙を唱へたが九月には四十仙に低落し其後十二月に至つて再び六十仙となつた。日本紙は約五十五仙臺にあつた。

ロ、白色新聞用紙。(單位千盾)

爪哇及マヅラ	一九二〇	一九二一	一九二二
外	二、四〇五	九二七	三六六
領	一五七	一一六	二〇

米國からの輸入は殆んど皆無に近く日本からの輸入も云ふに足らなくなつた。

増加したのは獨乙及び諾威からの輸入のみである。瑞典品は年初めの貯當り二五仙から十月の廿七仙迄漸騰し年末は卅三錢に終つた。

ハ、古新聞(包装用紙)(單位千盾)

爪哇及マヅラ	一九二〇	一九二一	一九二二
外	一〇、六〇三	一、三八七	九、四五九
領	二、二一一	一、二二二	一、八八七

輸入數字の増加は主として米國の供給高が激増した爲めである。相場はピクル當り十盾五十仙に明け六月に至つて八盾五十仙に低落し其後十月の九盾を経て年は八盾七十五錢の相場に暮れた。

第五章 工業

一、更紗業及染糸業

外領からの更紗需要缺乏に依り爪哇のストックは堆積し多數の工場では操業短縮又は作業中止を行つた。

特にジョクジャ及ソロの更紗は需要少なく値段も損失を與へ勝だつた。六月や十一月には多少の改善を見せたがそれも暫らくに過ぎなかつた。ペカロンガンの市場は反對に好況を見せた。土人王領地の更紗が名産品として取扱はれると異りよりよく流行を追ひ得るが爲めである。スマランからはスレンジー、四六四コルセ及びサロン三五九コルセの輸出を見た。

二、建築材料

セメント

バダン工場は著しく擴大され二二年の産額は約四〇〇、〇〇〇樽に上つた。産額増加の爲め生産費は著しく低落し販路も之に伴つて擴大された。二三年には一月四〇、〇〇〇樽に増産の見込である。本品の市價暴落は二二年にも存続し年末の相

場は年初めに比し約三割の低値にあつた。然しK、P、Mが運賃を引下た爲め外國品との競争は可成り容易となつた。低値に影響されて外國の優良品輸入が益々減少し日本セメントも漸次市場から姿を消した。日本品の輸入は二〇及二一年に於て爪哇輸入總額の五割強に上つたが、二二年には二割五分に減退した。反對に獨逸、瑞典及び丁抹からの輸入は若干増加した。ハイホンセメントの輸入は皆無だつた。二二年の爪哇輸入は四〇八、七〇八樽で其中一〇三、二〇九樽は日本、九七、九六六樽は瑞典、七三、三五三樽は獨逸、三九、八〇六樽は和蘭及び三九、九〇四樽は丁抹からの輸入である。二〇年及び二一年の輸入は七三三、〇四八樽及び五五九、六三六樽であつた。外領の輸入は二〇年の一九一、五〇〇樽及び二一年の一五一、〇〇〇樽に對して九五、一四八樽に上り其中、和蘭は三三三、六六四樽、獨逸は二二、〇五二樽及び丁抹は一五、一七八樽を供給した。

煉瓦及び瓦

大體に年初は賣行良好だったが年末に近づくと共に景氣の悪化を見て二三年には全部又は一部分作業を中止するもの多かるべしと期待されてゐる。輸出は品質の優良なるに拘らず運賃高の爲め未だに不可能である。鐵道運賃の高い事についても同じく苦情が多い。勞働者に就ては大した問題も起らなかつた。一般に勞銀は低落され得たが然し煉瓦及び瓦の市價暴落に比較すれば尙多大の懸隔がある。

火 山 土

不景氣の爲め需要は二一年よりも更に少く又所謂ウアイルド、トラスの競争に依り企業者は多大の苦痛を感じて勞銀は低落しつつあり。近い中に一五年及び一六年の低臺に達すべく豫期されてゐる。

耐 火 煉 瓦

本業は鐵道運賃の高きと輸入品の激烈な競争に悩んだ爲め本年度の成績は一般に不良である。

三、カ ッ チ

カッチ(タンナジン、タンニン)はマンダローブの皮から蒸溜されたエクストラクトである。時としては其他の單寧(ミロバラネン)が附加される事もある。本品は約五五パーセント乃至六〇パーセントの單寧酸を含んでゐる。

ボンチアナツク近傍のテロツクアエルに於けるカッチ工場は二一年の九八一噸に對して九二八噸のタンナジンを輸出した。二二年の産額は一、一三八噸に上つた。年初めの需要は僅少だったが其後漸次増大し年末の市況は頗る活潑だった。同時に品質に對する買手の注文も高くなつた。主要な仕向先は米國である。

四、鑛 物

石油及石油製品

蘭領印度の原油産額は下記に上つた。(單位噸)

スマトラ	一九一九	一九二〇	一九二一
------	------	------	------

蘭領東印度貿易大観

三二〇

アツチエ	一四一、八八七・八	一三八、二〇〇・九	一八六、五一〇
スマトラ東海岸	二九五、八〇九・〇	五六、二三九・〇	五九、七五〇
パレンバン	三四五、三〇六・五	三五二、〇四五・二	三四九、三八三
スマトラ計	七八三、〇〇三・三	五四六、四八五・一	五九五、六四三
爪哇			
スマラン	七、二〇〇・三	三三、八一八・〇	五、二六六・〇
レムバン	一九四、三二七・五	二五九、三七〇・四	二二二、五三八・〇
スラバヤ	五六、九八七・〇	五九、二六〇・四	六二、〇一九・〇
マツラ	一四〇・四	二五・〇	〇、〇〇三・一
爪哇計	二五八、六五五・二	三五二、四七三・八	二七九、八二六・一
ボルネオ			
タラカン	六〇二、二七七・三	七一、〇〇九・〇	六九六、三一三・二
クワタイ	七六九、八六二・三	七四四、二一八・四	七四〇、四六五・八
ボルネオ計	一、三七二、一三九・六	一、四五五、二二七・四	一、四三六、七七九・〇
セーラム	七、三一〇・七	二一、一三六・四	四九、二六二・〇
總計	二、四二一、一〇八・八	二、三五四、一八六・三	二、三六一、五〇九・〇

石油及び主要石油製品の輸出は下記に上つた。

種類	単位	爪哇	外領	爪哇	外領	爪哇	外領	仕向先
石油	千立	一九二〇	一九二一	一九二二	一九二二	一九二二	一九二二	日本
燈火油	同	一、八二九	二〇六、四七〇	二〇二	一九、五八七	一九二	一九、五八七	新嘉坡、香港
アスファルト	千疋	一、一八〇	四〇〇	三六二	九五七	二七	五五、三四九	新嘉坡
ベンチン及ガソリン	千立	一、一八〇	二四五	二七	五五、三四九	二七	五五、三四九	新嘉坡
脂肪油	千疋	一、一八〇	一七	一七	一七	一七	一七	新嘉坡
蠟燭	同	一、一八〇	一七	一七	一七	一七	一七	新嘉坡
パラフィン	同	一、一八〇	一七	一七	一七	一七	一七	新嘉坡
機械油	同	一、一八〇	一七	一七	一七	一七	一七	新嘉坡
タービン	千立	一、一八〇	一七	一七	一七	一七	一七	新嘉坡
雑	同	一、一八〇	一七	一七	一七	一七	一七	新嘉坡

ブルサンブーの輸出は下記に達した。

種類	単位	一九二〇	一九二一	一九二二	一九二二年主要仕向先
アスファルト	千疋	一七	二〇五	一四七	新嘉坡
ベンチン	千立	一三六、三七九	一七二、五三四	一九九、〇八六	新嘉坡、シアラタル、日本
脂肪油	千疋	四四	一四七	八四	新嘉坡

蘭領東印度貿易大觀

三二二

燭	同	八二	—	—	—	—
燈火油	千立	九三、三〇〇	一一四、一四八	—	七七、九四七	日本、支那、印度支那暹羅
燭油	千立	八一三	一、五〇六	—	三、九三九	新嘉坡
燭油	千立	八二一	九六	—	二四六	濠洲及新西蘭
燭油	同	三〇、二二二	一八、四九九	—	二七、八六三	新嘉坡、英領南亞
雜	千立	—	—	—	四九四	新西蘭、暹羅

蘭印の主要石油輸入は下記に達した。

種類	單位	爪哇	外領	爪哇	外領	爪哇	外領	仕出地
原油	千立	九二〇	一九二一	一九二二	一九二二	—	—	波斯、英領北ボルネオ、露國
脂肪油	千立	—	—	—	—	—	—	米國、新嘉坡
燈火油	千立	—	—	—	—	—	—	米國、比律賓
燭油	千立	—	—	—	—	—	—	米國、新嘉坡
燭油	千立	—	—	—	—	—	—	英領ボルネオ、波斯
燭油	千立	—	—	—	—	—	—	英領北ボルネオ

ブルサンブーの輸入は下記に達した。

種類	單位	爪哇	外領	仕出地
燈火油	千立	一九二〇	一九二二	波斯、英領北ボルネオ
燭油	千立	—	—	新嘉坡
燭油	千立	—	—	英領北ボルネオ

金剛石

ボルネオに於ける土人の二二年採掘高は一、五三九カラット一六八、〇〇〇盾に上つた。ケーブタウンからのダイヤモンド粗鑛輸入に關する數字は不明である。

金銀

蘭領印度の金銀産額は會社別で下記に上つた。(單位千)

名稱	金	銀	金	銀	金	銀
パレレ(註一)	一九五、四六一	—	二四六、〇二八	—	—	—
トトク(註二)	—	—	—	—	—	—
ケルバヒ(ボランモンゴンドウ)	二九一、八三五	—	—	—	—	—
レポンドノツク(レヂアシレボシ)	七三五、一八三	—	—	—	—	—
シマウ及びグルンアツク	一、〇八八、三三三	—	—	—	—	—
エグエター	—	—	—	—	—	—
サリダ(註三)及サリツク	—	—	—	—	—	—

第五章 工業

三三三

註一、二二年資料の送附なし

註二、二一年限り閉鎖

註三、スアツクシカヒン鑛山は二一—二二年に於て生産せず

ペンクレーレンに於ける官營鑛山の中レボンシンパンは二一年より採掘を開始したが
タンパンサワは二三年から採掘着手の豫定である。

沃 度

蘭印の沃度は沃度ナトリウムとして諸泉源に見出される。スラバヤ、スマラン及び
チエリボン州等の大山脈北方に於ては第三期層の土地に多數の沃度源泉がありスマラ
ン及スラバヤ州に於ては沃度業の勃興を見るに至つた。沃度は約五〇パーセントの沃
度を含有する沃度銅の形に於て輸出されるが近年は又金屬性沃度及び沃度加里其他の
形に於ても輸出される。産額は一八九二年に於て二一〇噸に過ぎなかつたが其後絶
へず増大し一三年には既に沃度銅五七、九〇〇噸となつた。一八年及一九年には戦争
の爲め化學藥品を得る事難く生産は停止した。二一年及び二二年のスラバヤ輸出は下

記に上つた。(單位噸)

種類	一九二二年	一九二一年	仕向先
沃 度 銅	八、九四三	五三、四三五	和 蘭
計	一九二二年	六二、三七八	英 國
種類	一九二二年	仕向先	
沃 度	七、八九一	和 蘭	沃度加里
	一四、四〇〇	英 國	沃度銅
	二、五四〇	獨 逸	計
	六〇〇	支 那	一九二二年
計	二五、四三一		二六〇
			七五〇
			四四、九二二
			六一四
			四六、二八六
			仕向先
			支 那
			和 蘭
			英 國
			獨 逸

マンガン原鑛

マンガ原鑛は中部爪哇の二租借地で採掘されチラチャップから船積される。本年
度は二〇年の五八二五噸及び二一年の八九五噸に對して二、五五一噸の船積を見た。
二〇年及び二一年の輸出は全部和蘭に。に仕向けられ、二二年輸出の中二、四〇八噸

は和蘭 $\frac{1}{10}$ へ、一四三噸は佛蘭西 $\frac{1}{10}$ へ向つた。

天然石

ビユーニング社は諸種の採掘に就て下の如く述べてゐる。粗面岩二二年の成績は満足に價した。粗面岩は益々建築業に使用されるに至つた。又酸を防ぐ爲め床にも應用され、其他凝固盤等にも使はれる。現場では勿論苦力が働き又石切場には七十名の苦力を使用した。

安山岩 本品は主として倉庫の屋根瓦、歩道締め、街道の小石、海水防壁用等に使はれる。本年の營業成績は良好であつたが其取引高は二一年よりも減少した。苦力數は約八百名である。

玄武岩 本品は専ら道路の固め材として使はれるが販賣成績は良好で使用苦力數は約二百名に上つた。

陶土 採掘試験中であるが販路は國內工業に於て充分見出される。爪哇は二一年に

於て主として日本から一〇七噸を輸入した。

キーセルグール 採掘は年度中に初められたが成績良好である。

マリヤガラス及石膏 採掘は小規模に行はれてゐる。副業として石膏焼も初められた。販路は充分である。

アスファルト アスファルト採掘はチエリボン市と共同で行はれる。優良外國産アスファルトの輸入は二一年に於て四六七噸に上つたが仕出地は主として米國及び英領印度である。石油業の副産物としてのアスファルト輸出に就ては石油製品の項を参照せられ度い。

石炭

官營炭山の産額は下記に上つた。(單位噸)

オムピリン	一九二一	一九二二
アルラウト	五七六、二五六	五四三、九五二
	二〇八、九〇〇	一一三、二一八

アキツトアサム

一六九、二三六

不明

産額の引下に拘らず販賣は益々困難となつた。

私人經營炭坑の二〇年及び二一年に於ける産額は下記に上つた。(單位噸)

名	稱	一九二〇	一九二一
グヌンバトウアツサル		七、四八七	一五、五九五
クウバクウバン		三、〇二五	一八、三五六
クウテイ租借地		三三、八六三	六二、三九四
バラバツタン及びランタウバンヂヤン		四六、〇七三	四三、四五六
トウアヤン		二、六〇〇	七、二一二
ロアアキツト		六、〇四三	七、八五二
アキツトドウリアン		三三、六六八	二四、七二四
ヂヤンカンキチル		一二九	二五〇
ヂヤンカンオースト、ヂルウイン及ロエII		一四、〇五四	七、四一〇

爪哇の石炭市場は下の如き経過を示した。

外 國 炭

爪哇のブンケル炭市價は低落傾向にあつた。

英國炭(カチフ炭) 年初めの輸入は船會社が貨物不足で石炭をバラストとした爲め

並にカチフ炭の値段が低相場だつた爲め頗る多かつた。二月中頃迄英國炭と濠洲炭との値開きは噸當り僅か二志二分の一に過ぎなかつた。カチフ炭の 爪哇港噸當り價格は年度中下記に上つた。

一月一日乃至二月十四日	二磅 七志 六片	八月十三日乃至九月九日	二磅一二志 六片
二月十五日同	四月廿九日 二 一〇	九月十日同	九月十九日 二 一〇
四月卅日同	六月廿四日 二 一二	九月十七日同	九月廿三日 二 九
六月廿五日同	七月十五日 二 一〇	九月廿四日同	十一月四日 二 七 六
七月十六日同	七月廿九日 二 九	十一月五日同	十一月廿五日 二 八
七月卅日同	八月五日 二 一〇	十一月廿六日同	十二月二日 二 七
八月六日同	八月十二日 二 一五	十二月三日同	十二月十二日 二 六

即ちカチフ炭の 爪哇港價格は二二年中頃に噸當り二磅十五志の最高價に達した

ので其後漸次低落して年末の二磅五志となつたのである。カチフ炭が初め八ヶ月間に著しく値上りした事が原因となつてその輸入は激減し年末の市價も尙濠洲炭と比較すれば約五志の高値にある。

濠洲炭 本年度の爪哇港値段は下記に上つた。

一月一日乃至四月十五日	二磅 五志	〇片	十月十五日乃至十月廿一日	一磅一七志	〇片
四月十六日同	六月十七日	二	三	〇	〇
六月十八日同	七月八日	二	〇	〇	〇
七月九日同	七月廿九日	二	〇	〇	〇
七月卅日同	九月九日	二	〇	〇	〇
九月十日同	九月卅日	一	七	六	〇
十月一日同	十月十四日	一	八	〇	〇
				十二月十七日同	十二月末
				十二月末	十二月末

従つて十二月頃迄は二磅五志から一磅十七志迄低落し其後は十二月迄漸次二磅二志即ち噸當り五志の昂騰を見た譯である。然し此の値上りは一時的な船腹不足に依り濠洲から爪哇への運賃が引上られた爲めである。

日本炭 日本炭は爪哇港噸當り下の如き相場を示した。

一月一日乃至二月中旬	二二眉
二月中旬同	五月中旬
五月中旬同	九月末
十月同	十二月

本年度の日本炭輸入は政府筋の生産短縮に依り頗る少なかつた。爲めに日本炭の相場は比較的高く二三年にも高値を唱へ續ける事と思はれる。

二、國內炭

私人炭坑から出る内國炭の供給は政府及び一大汽船會社に對する賣買契約の結果として割合に少なかつた。政府は前行年に於けると同じくオムピリン及びブルラウト炭を各々エムマ港及びブスターゲンに於て「オープンバンカー契約」を締結した會社の諸汽船及び非定期の諸汽船に對して之を供給した。その相場は下記に上つた。

二二年 一月中	オープンバンカー	オムピリン炭	臨時船	オープンバンカー	ブルラウト炭	臨時船
二月一日乃至十二月末	二七盾	二七	二九	二〇	二〇	二二
	二五	二七	二七	二〇	二〇	二二

此の提供はオープンバンカー契約の持主に依つても亦臨時船に依つても需要されなかつた。二二年に對する相場は政府に依つて下の如く確定された。

關領東印度貿易大觀

三三二

プルラワト炭⁵⁰ スターゲン
アキツトアセム炭⁵⁰ ケルトバチ

一八・五〇

一八
二〇・五〇

二二年の爪哇に於ける石炭輸入は三一、四八一噸で中四三、五二六噸はカチフ炭一五三、五九〇噸は濠洲炭、五二、五二一噸は日本炭、五四、八七七噸は英領南亞炭であつた。二〇年及び二一年の輸入高は一七五、五三九噸及び四六四、一〇七噸に上つた。二一年數量の中濠洲は二八三、三七九噸、日本は一〇五、〇一五噸及び英國は六九、七七二噸を供給した。外領の二二年輸入は二〇年の六、八八六噸及び二一年の二五、八一八噸に對して一三、八八三噸に上り又其輸出は二〇年の二六、〇五六噸及び二一年の一八、九七九噸に對して三〇、四一四噸に上つた。主たる仕向地は新嘉坡である。尙上記以外に政府は二〇年に於て一一、九五一噸及び二一年に於て三五、二九五噸の石炭を爪哇に輸入した。

錫

バンカ、ピリトン及びシンケツブ錫鑛の産額は下記に上つた。

營業年	バンカ	ピリトン會社	シンケツブ會社
一九一九	二〇〇、七九一	一二六、八七一	一一、八一三
一九二〇	二二一、五二八	一二四、三一三	一〇、〇一三
一九二一	二四四、八四三	一八六、七四二	一一、六四八

（錫及び錫鑛を全て錫に換算、單位ピクル）
バンカの營業年度は三月一日乃至二月廿八日、ピリトン會社のそれは六月一日乃至五月卅一日及びシンケツブ會社のそれは七月一日乃至六月卅日である。周知の如くシンケツブ會社は全ての錫鑛を加工の爲め新嘉坡のストレーツ貿易會社に送る。ピリトン會社も亦既に永らく印度に於ける錫の熔鑛を中止し上記の新嘉坡に於ける會社に送つて加工販賣せしめてゐる。ピリトン錫のバタバヤに於ける二二年販賣高は四、〇七四ピクルに上つた。バタバヤ市場は下の如き形勢を示した。一月初の相場はピクル當り最高百十六盾最低百十四盾十仙に明けたが三月中旬迄は倫敦の弱氣と亞米利加側の需要僅少に影響されて低落を續け三月五日乃至十八日には年度中の最低相場を出した即ち下の如くである。

三月五日乃至十一日
同十一月同 十八日

最高 盾仙
一〇一・一

最低 盾仙
九六・二五
九七・五〇

此減退の最も主要な原因は需要の激減で、其販路は限られて居り、又錫の消費者として頗る重大な錫板工業の産額が戦前の約四割乃至四割五分に減少した事も與つてゐる。又投機的な思惑も可成り悪影響を與へた。古から錫市場を支配して來た倫敦の錫投機商は市場を壓迫するに全力を盡し、海峽植民地政府、蘭印政府及びピリトン會社が一定の數量をブロッケードした爲め投機商に取つて良好な口實を與へたのである。四月中には稍昂騰傾向を見せた市價も其後停滯氣味にあり、五月上旬の相場は百四盾五十仙を唱へた。七月初めにも云ふべき程の動搖なく過ぎたが其後は市價も漸騰し一般に買氣強く亞米利加も市場に現はれた爲め市況は七月末に至つて頗る活潑となり最高百十盾及び最低百七盾で最大の取引があつた。八月も市況手堅く買手充分だつたが月末には世界政局の不安定に依り小低落を見た。然し米國が買續けた爲め市場は値強

き空氣を見せ取引は最高百十二盾及び最低百六盾廿五仙臺で行はれた。九月初めは米國を買手として再び市況の改善を見せ月末には倫敦も買進んで百十二盾五十仙の相場を出し、十月以後は下の如き昂騰傾向を辿つた。

最高 盾仙

最低 盾仙

十月八日乃至十五日

一四・四〇

一一・七五

同廿四日同 卅日

一二・四一

一一・九一

同卅一日同十一月六日

一二・七三〇

一二・七三〇

十一月中旬には需要の存續に拘らず値段は若干低落し、十二月初めに至つて倫敦の投機者連は再び市價の暴落を計つたが不成功に終り同月下旬の市況はバタビヤも倫敦も手堅く値上り傾向が強かつた。十二月の相場は下記に上つた。

最高 盾仙

最低 盾仙

十二月五日乃至十七日

一三〇・一

一二〇・〇五

同 十八日同 卅一日

一三五・一

一三四・五〇

従つて年末の景氣は頗る有望で生産者は充分の利益を收め得た。パンカ錫の二二年に於ける販賣成績は上半期の低値に拘らず割合に満足で、政府としては良好な成績だ

つた。二二年の爪哇錫輸出は一五、四五六噸で其中五、六六四噸は英國へ、三、九〇一噸は和蘭へ及び三、六七〇噸は米國に向つた。米國への輸出は前行諸年に比較すれば甚だしく激増した。又日本は九七八噸を引取つた。二〇年及び二一年の輸出數字は各々一三、六四八噸及び一三、五三八噸である。外領の二二年錫輸出は二一、八〇四噸に上り其中新嘉坡は二一、〇七八噸、香港は四噸及び卑南は一噸を引取つた。二一年には新嘉坡へ向け一一、九一一噸の錫輸出を見た。

ウオルフラミート

ピリトン會社は未だウオルフラミートの採掘を初めない。

硫 黄

蘭領印度で採掘される硫黄の數量は極めて少く、獨立の工業としては未だ論じ難い程度である。硫黄工場は従つて輸入硫黄及び黄鐵礦としての硫黄を加工し又砂糖工場は精製硫黄を輸入してゐる。爪哇の硫黄輸入は二一年五、九二四噸及び二二年三、

六二〇噸に上つた。外領は二二年に於て一、七〇三噸を輸入したが其中一、六九七噸は米國からの輸入である。二一年には一、二五〇噸の輸入があり墨西哥は其中一、二四七噸を供給し又二〇年には日本から二、二五二噸の輸入があつた。爪哇に於ける輸入硫黄の仕出地は伊太利、日本及び米國である。爪哇の相場は精製碎品の米國及びシリ硫黄袋詰め噸當り百卅五盾日本硫黄は約百卅二盾廿五仙臺にあつた。精製樽詰硫黄もシリ及び米國物に於ては大體同様の相場を見せた。シリ硫黄は六十斤の樽詰で、米國品は二百斤の樽詰である。市價は六十斤の計算で一月の約十三盾五十仙に初り、十月迄八盾五十仙に漸落し年末も此相場で暮れた。

五、印 刷 業

大體に本年度の成績は高値仕入の紙ストックが若干減價消却されねばならなかつたに拘らず良好であつた。外國の競争も前行年間以上には甚だしくなかつたのである。金屬版は著しい値開きの爲め屢々獨逸へ注文された。ラステル版の如きは蘭印では一

平方糶米突十三仙乃至十五仙を要するが和蘭の相場は九仙乃至十二仙であり、獨逸では二仙で作られる。斯の如き値開きに於て競争が絶対に不可能なのは云ふ迄もない。輸入は尙甚だ莫大で外領は印刷物三七一、〇〇〇盾を輸入し爪哇は印刷物其他二、一一二、〇〇〇盾を輸入した。事務所用品及び書寫用品の二一年輸入は二四二、三一九疋に上つた。印刷所や其他の之に類した事業は好景氣時代に頗る増設擴大された爲め印刷注文の激増した今日相互の競争は頗る甚だしいものがある。

六、帽 子

年初めの景氣は大貿易商のみならず消費筋が尙大量のストックを有した爲め不振を免れなかつたが其後は漸次市況の改善を見て一般に帽子業の成績は餘り悪くない。

竹製帽子

上半期は軟弱な市況だつたが産額の僅少と生産者が常にストックを推積せしめなかつた爲め値段は低落せず、竹製帽子を産する地方の米收穫が良好で米價が低かつた爲

め帽子編業者は收穫後直ちに帽子製造に取掛る必要なく産額は一時中絶に近かつたが同時に輸出商側からの注文續來した爲め値段は急騰した。佛蘭西への輸出は法の急激な暴落に依つて妨げられ、又他の歐洲諸消費國に於てもストックの賣拂で實需の大部分が満足された爲め需要は少なかつた然しフェヅ帽の内層に使はるる竹製帽子に對しては絶へず需要があり莫大の船積を見た。二一年と比較すれば二二年の輸出は約二倍となつた。然し末だ二〇年の數字には達しない。新仕向地として特記すべきは土耳其濠洲及び伊太利で最大の買手は相變らず佛蘭西である。二一年に於て僅少だつた英國への報告は頗る増大した。二二年の輸出總額は二〇年の三、二四五、〇〇〇個及び二一年の一、四〇二、〇〇〇個に對して二、八二七、〇〇〇個に上つた。二一年に於て各々七〇〇〇個及び七九、〇〇〇個に達した和蘭及び英國への輸出は二二年に至り皆無となつた。

ハンダン帽子

上半期の市場は頗る軟弱で生産は殆んど取引容易な下等品に限られた。然し下半期に至つて需要は各種に亘つて活潑となり中等及び上等品は著しく値上りしたが年末には再び低落した。中等品の中未漂白で使用されるのは極小部分に過ぎぬ。漂白者の買付た商品が消費者の手に亘る迄には一、二ヶ月の時間を要するからバンドン帽子を漂白させる大商館は此期間中最大の危険を負担せねばならぬ。爲に歐洲の政情が不安化すると共に興味は急退した。殆んど専ら米國へ仕向けられる下等帽子の輸出は絶へず行はれ爲に生産は平調を保ち値段も良好だった。時としては舊來の製帽地方では需要を充し得なかつた爲めブリアンゲルに於ける下等帽子の製造が奨励さるゝに至つた。近年に於ける此種の試みはブリアンゲルのバンドン纖維が品質劣等で製造上の注意も充分でない爲失敗に終る事が多かつたのであるが其後高値に刺戟されて産額の増加に連れ品質も稍々良好となつた。それでも尙編材料の製造と帽子の仕上は未だに充分とは云へない。市價が低落する際其生産が最も早く中止されるのは矢張りブリアンゲルで

あろう。之れはバンドンチャクシから作られる上等な帽子に對しても云へる事で外國は喜んで此種の帽子を買付けるのであるが其仕上が頗る不完全な爲め輸出も圓滑に増大され得ない。二三年に對する期待も餘り思はしくない。少くとも二二年末の相場は全線に亘つて暴落した。景氣の改善は政局の安定に俟たねばなるまい。バンドン帽子もその輸出數量は増加した。主要な買手は米國である。濠洲への輸出は頗る増加し又白耳義、加奈陀及び揆及も新仕向地として多少の意義を有するに至つた。二二年の輸出總額は二〇年の七、七八七、〇〇〇個及び二一年五、九七二、〇〇〇個に對して七、四三七、〇〇〇個に上つた二一年に輸出皆無だつた和蘭へは三七、〇〇〇個の船積を見た。

七、製材業

二二年は特に甚だしい不景氣で多數の工場は閉鎖の悲運に陥り輸出も激減した。

八、規尼涅

本年度の規尼涅輸出は二〇年の三二〇、三二七疋及び二一年の二三四、五八九疋に

對して一二四、五八九疋に上り二一年以來の減退を繼續した。仕向先は主として伊太利及び英領印度であつた。和蘭は二一年の一四八、二五四疋に對して二三、一一五疋を引取つた。爪哇でクルウドウム工場を設立する計畫は其後斷念された。

九、鞣皮業

土人の鞣皮業を改善せんとする政府の試は二〇年末から初まり當時本業に關する専門家の任命を見た。問題の性質上—スラバヤの大鞣皮工場は専門家の歐人技師を使つてゐる—技術的な啓發は土人の鞣皮業者に對して行はれ後者の規模及び意義は斷言出來ないが少く共其使用勞働者數と使用鞣桶數は合つてゐる。即ち爪哇には全體で廿工場があり百廿五の鞣桶と約百名の勞働者がある。主たる中心地は昔からソロ、グリセ及びレムバンである。加工される皮革は主として牛及び水牛皮並に羊皮である。土人工場では今でも、尙鞣樹皮に依る桶鞣皮が行はれ、主として平均十五バーセントの單寧を有するピラン樹皮と平均十二バーセントの單寧あるトゥレングリー樹皮が用ひら

れる。皮革は生の儘では減多に加工されない。上記の工場數に關連して若し此等の工場が全能力を發揮すれば、一ヶ月當り八千枚の靴底皮革と約七千五百枚の羊皮が加工され、その鞣皮に必要なピラン及びトゥレングリー樹皮は一ヶ月當り約六千ピクルの見積である。此の産額は戰時中には疑も無く達せられたが本年度は甚だ少なかつた。頗る安價ではあるが屢々品質劣等な濠洲皮革の大輸入は爪哇産額の減退に導きグリセの鞣皮工場は極端な操業短縮を行つた。政府筋から與へられた啓蒙指導の結果として多くの土人工場ではクローム鞣皮法が應用さるゝに到り頗る良質な靴底革と羊皮が製造さるゝに至つた。之に必要な化學藥品は歐洲から輸入される。又一工場は歐洲から來る單寧精を用ひ今迄の小さく刻んだ樹皮を散布する方法よりも良好な成績を收めてゐる。歐人鞣皮工場に取つても二二年は同じく外國の競争激甚なりし爲め不景氣に終つた。然し原料の仕入は何等の困難をも醸さなかつた。二二年輸入は不明であるが二一年には主として濠洲から五八七噸の靴底皮が輸入された。此數量は前行年に比すれ

は頗る多い。和蘭は裏附皮二、七〇三疋及び革帶用革五、三七〇疋を供給した。レザーの革帶自身は主として和蘭から一一七噸の輸入を見た。

一〇、金屬工業

機械工場

二二年の營業成績は政府の事業中止又は注文減少並に栽培界の不景氣から來る經費節減に依り頗る悪かつた。其上又近年工場數の増加著しく爲めに相互の競争が激甚だつたのである。爪哇には現存の諸工場をして全能力を發揮せしめる程の仕事がない。従つて相場が低落したのは勿論で利益を擧げる事は殆んど不可能となつた。必要な半製品の輸入は障碍なく行はれた。値段は一般に低落傾向にあり棒鐵及び板鐵は年末に至つて戦前價格の二割高を唱ふるに過ぎなかつた。

外國工場の競争は頗る激甚で特に和蘭工場が低値で提供した爲め印度の諸工場は甚だ競争するに困難を感じ工場の閉鎖や操業短縮も屢々行はれた。

ポールト及び鋸

スラバヤの工場は年度の大半を通じて充分の注文を受取つた。然し鋸の大ストックが低値で投出され又獨逸の競争も甚だしかつた爲め營業成績は大して良好な數字を見せなかつた。

十一、脂肪性油

比麻子油

二二年に於ける本品の製造高は殆んど論ずるに足らない。

落花生油

二二年の輸出は二〇年の九〇六、〇〇〇立及び二一年の一、二二一、七〇五立に對して一四五、八〇四立に過ぎなかつた。本品は主として更紗業のアリザリン染工場に使はれる。二二年の輸出は二一年に於けると同じく主として和蘭に向つた。

椰子油

本年度の爪哇輸出は皆無であつた。一の除外例を除き爪哇及外領の大製油工場は全く閉鎖された。残つた一工場も小規模にローカルな市場を相手として作業するに過ぎぬ。現在では蘭領印度に取つて一度びしかく重大となつた本業の復活する可能性は頗る僅少である。

油 椰子 油

本品はスマトラ東海岸にのみ生産されるが其輸出は急増しつゝある。二〇年に於て二九八噸に過ぎなかつた輸出は二一年に至つて二、三五八噸となり二二年には二、五四四噸に達した。仕向先は和蘭を主とし、獨逸、白耳義及び英國が之に次ぐ。

油椰子油及び油椰子實の最大市場であるリバプールの相場は、清澄油椰子油三十一磅十志乃至卅四磅間を上下し年末には激騰した。油椰子實の市價は十六磅二志五片乃至十九磅臺にあつた。油椰子實はリバプール以外に猶アントワープへも船積されたが同地ではハンブルグ勘定での買付が多かつた。最高一二バーセントの脂酸率を有する

蘭領印度産出の油椰子油は亞弗利加物に比して頗る優良である。近々蘭領印度では所謂漂白油として知らるゝ油の製造に着手する計畫がある。

一、二、製 紙 業

バダランの製紙工場は年度末に至つて一部の作業を開始した。電氣分解、半製品及び製紙等の完全な作業は二三年初に着手の豫定で、良質の書寫及び印刷用紙が製造される筈である。

一、三、造 船 業

二二年の成績は失望を與へた。閉鎖さるゝに至つた造船所も少くない。二三年の期待も有望を欲ぐ。

一、四、酒精及アラク酒

酒 精

上半期には外國側からの需要少なかつたが年末近くに至つて多少需要の増大を見た

消費税引上の結果として爪哇の酒精消費は激減し、又メチール酒精の賣行にも改善を見なかつた。同業者相互の競争は頗る激甚で營業成績は一般に悪く一工場は閉鎖の悲運に立ち至つた。消費地として重大な和蘭への船積は一〇〇パーセントのヘクト立當り七盾の輸入税新設と和蘭に於ける蒸溜業者組合に依る蘭印酒精のボイコットに依り極く少量に過ぎなかつた。年末に至つて和蘭に船積された酒精も實際は獨逸への再輸出用であつた。海峽植民地は年初めアルコールの輸入税を引上たが其後再びその四割五分を引下た。又英領印度は消費アルコール輸入税を三月に至つて二割増に引上げベンゴールでは内地産アルコールと爪哇アルコールとの混交が禁止された。支那では臺灣及びマニラの競争が甚だしく、埃及、小亞細亞及び歐洲市場では米國のみならず又貨幣價值の下落した歐洲諸國の競争も可成り強い。

本年度の爪哇輸出は二〇年の一七、三八四、〇〇〇立及び二一年の八、〇三〇、〇〇〇立に對して九、二七九、〇〇〇立に上つた。特に香港への船積は増加した。

アラツク酒

二〇年及び二一年に於て各々、一、六四八、〇〇〇立及び一、三三七、〇〇〇立に上つた輸出は二二年に至り六四三、〇〇〇立に激減した。主要仕向地は相變らず和蘭である。酒類消費が絶へず減少する爲め將來は餘り有望でない。

一五、爆 發 物

不景氣の結果二二年のロマネート工場は不良な營業成績を見せた。外國の競争も甚だ激甚であつた。

一六、製 網 業

ラムボンに於ける製網工場の生産費は二一年に於て消却を含まぬ計算で百疋當り九十七盾だつたが、輸入品の相場は頗る低く大した値開があつた。製網用のマニラ麻は一部分比律賓から輸入され又一部分は白園で栽培される。

一七、塗 料 工 場

必要原料の輸入は絶へず行はれ其費用は一九一〇—一四年と比較して約二倍高にあり、ターペンタイン及びセルラツクの如きは、それ以上に高かつた。競争は主として輸入染料に依つて行はれた。現在でも未だ國內生産品に對する一種の偏見は止まない然しそれは間違ひであつて當領でも頗る優良な塗料(エナメル、ワニス、顔料、水顔料、等)が製造される。従つて當業者はあらゆる困難をもともせず其事業を擴大し將來を樂觀してゐる。本業にも勞働者に關する困難な問題は發生しなかつた。塗料の輸入は近年絶へず減退しつゝあり、爪哇に於ける二二年の輸入數字は二一年の一、三六九噸に對して九五二噸に過ぎぬ。主要な供給者は和蘭、英國及び獨逸である。

一八、糧 秣

ブンキル

爪哇の二二年輸出は二〇年の五三、二七九噸及び二一年の一〇、三八五噸に對して一四、六二三噸に上つた。二二年輸出の中六、六八八噸は和蘭、三、一九六噸は英國

二、七二六噸は佛蘭西及び一、七四一噸は獨逸へ向け船積された。二一年末に閑散を極めた爪哇のブンキル市場は二月中旬迄輸出向取引を見なかつたが運賃の引下が行はれると共に需要は活潑化し取引もビクル當り二盾五十仙乃至二盾八十仙臺で行はれ、スラバヤでは三—四月渡三盾の値さへ現出した。三月に至つて第二回の運賃引下が行はれた爲め市價は三盾五十仙に昂騰した。四月乃至六月の景氣は更に改善し五月には^{三〇}四盾の値を見せたが現物は殆んど賣盡されてゐた。月末には近物に對しノミナル^{三〇}四盾廿五仙の値さへ出し、九—十一月渡は^{三〇}四盾及び三盾七十六仙で取引された。六月末には百噸のブンキルが八—九月渡で四盾廿五仙で賣買された。此相場は七月迄續いたが其後市況は軟弱となり値段も三盾八十五仙臺にあつたが九月には更に低落して賣手側はスラバヤ渡三盾七十五仙及びパンジュワング渡三盾五十仙を唱へたが買手はなかつた。市況は十月に至つて改善し初め十一月には^{三〇}チラチャツア三盾七十五仙で多大の取引があり其後需要は三盾九十仙迄上つたが賣手は四盾を唱へ、十一月末

に至つて市況軟弱化し、十二月中旬は三盾七十五仙乃至三盾八十仙で若干の取引を見せた。其他の落花生及びカボック實、ブンキル等の相場は公表を見なかつた。

モラスキユイト

輸出は僅かに七九噸で買手は英國及び獨逸が主であつた。

一九、包装材料

製罐及び包装紙箱工場

二二年の成績は可成り良好で勞銀は低落し販路は擴大した。唯若干品に於ては歐洲の競争が甚だしいが將來は有望な期待に充ちてゐる。

ベニア箱

外國産のベネスタ箱は再輸出の際輸入税の拂戻を受けるから實際上には輸入税免除と等しく反對に蘭領印度の製造家は必要な乾酪素、補助器具等に對して輸入税の支拂を要するから競争困難で將來も多少悲觀されてゐる。

二〇、食料及贅澤品

製粉

本年度もバンドン高原では小麥栽培が續行され收穫の中數千盃は可成り原始的な方法で未篩麥粉とされ國內で賣捌かれ満足な成績を擧げた。

鑛泉水及ラムネ

製造家相互の競争も外國品の競争も激甚である。ラムネ精の如き若干原料はアルコール含有物の輸入税引上に依り値上りを見た。歐人使用者の給料は低落したが土人の勞銀は一般に低落しない。爪哇の二二年鑛泉水輸入は二一年の百萬瓶強に對して八三六、〇〇〇個に上つた。外領は二一年比に於て六〇〇、〇〇〇瓶強を輸入した。二二年數字は未だ不明である。

葉巻煙草

本年度の成績は紙卷煙草等と比較すれば、甚だ良好であつた。爪哇物は値段が低い

爲め外國品の競争は左程問題とならず又國産を壓ひ舶來品を歓迎する傾向も益々減少しつゝある。輸出は未だ大した數量に達しない。輸入税の新率採用に依り和蘭への輸出が激減すべき虞れもある。輸入は爪哇の製造高が増加した爲め消費の増大に拘らず減退した。増加したのは獨逸からの輸入のみである。爪哇は二一年の一四九、〇〇〇疋に對して一二〇、〇〇〇疋を輸入した。外領の二一年輸入は一四四、〇〇〇疋であるが二二年數字は未だ不明である。

紙 卷 煙 草

特に上等品に對する消費者の購買力減退は著しいもので又外國の競争から受ける惡影響も甚大である。

輸出は隣接諸國の關稅高率な爲め不可能であり、外領に對する賣込も運賃高に依つて妨げられ、若干州の如きは爪哇品よりも安く外國品を新嘉坡から引取得る。爪哇の二二年輸入は二〇年の一、二三〇、〇〇〇疋及び二一年の二、〇五四、〇〇〇疋に對して

二、一九五、六〇〇疋である。外領は二〇及び二一年に於て各々一、六九九、〇〇〇疋及び二、三五五、〇〇〇疋を輸入した。二二年數字は不明である。爪哇に於ける二二年輸入數量の中一、三二六、三〇〇疋は香港、四五八、〇〇〇疋は支那、二〇三、五〇〇疋は英國から供給された。

石 鹼

一般に歐人石鹼工場の成績は前行年よりも不良で、利益は相當だったが、取引高は減少傾向にあつた。之れは清算ストックや又大數量なインスリنده石鹼が投賣された結果である。蘭印産石鹼の中特に上等の洗濯石鹼は充分外國品と競争し得る程度に優良であるが輸出は未だ行はれない。スマトラ東海岸の一油椰子園では油椰子油を原料とする石鹼工場が設立される計畫である。爪哇の二二年化粧石鹼輸入は二〇年の二五六一、〇〇〇盾及び二一年の一、八六四、〇〇〇盾に對して一、一四一、九八四盾に上つた。主要な供給者は英國、和蘭、濠洲、獨逸及び佛蘭西で米國は益々市場から驅逐さ

れつゝある。外領は二〇年及び二一年に於て五九四、〇〇〇盾及び五六二、〇〇〇盾を輸入した。洗濯石鹼の爪哇輸入は二〇年一、五四一、〇〇〇盾、二一年一、五七三〇〇〇盾及び二二年一、七三〇、三三八盾である。二二年の主要供給者は英國で同國からは一、四五八、三七二盾の輸入があつた。

二一、織物業

更紗業に次いで重大な織物業に就ては政府は二〇年以來多大の興味を有し一官吏を任命して本業の啓發指導に當らしめた。同時に政府はバンドンに試験工場を設立し織物業の改善を計ると共に織物技術の教育を行つてゐる。改善の第一は手力織機の供給で之に依つて一日常り産額は古代から使用されてゐる織機に比し頗る増大される可能性があり又品質も優良化すべく期待されてゐる。第二には上等な織糸の廉賣である。蓋し下等品が頗る高値で小賣される爲め織物業の健全な發達は頗る妨げられる實情にあつたからである。上記の試験工場は二一年末に竣成し二二年には諸種のデモンスト

レーションが行はれた。其後年末の二ヶ月にはスマトラ西海岸でも此種の活動が初められるに至つた。

二二、硫酸

本年度の硫酸輸入は更に減退した。今や蘭領印度の産額は爪哇の需要を充すに充分である。東爪哇の硫酸工場は硫酸の儘では之を市場に出さず全て硫酸鐵及び硫酸銅に加工する。爪哇は二二年に於て二〇年の一、四九七、八六一噸及二一年の一、〇一〇、九八八噸に對する三三九、四五二噸を輸入した。仕出地は日本と和蘭である。歐洲品の粗硫酸は九十噸入の瓶詰に對し年度を通じ廿盾五十仙臺に在り日本硫酸の市價は初め數ヶ月に於て多少の動搖を見たが下半期は二百封度當り十四盾五十仙臺で押し通した。

第六章 農業

一、概観

二二年の天候状態は大した不規則さを見せなかつた。ウエストモンスーンは割合に雨少なく爪哇も外領も一月乃至三月は平均雨量以下にあつた。反對に四月は西瓜哇に雨多く東爪哇は普通で五月及び六月には中部及び東爪哇の雨量多大で西瓜哇は降雨少なかつた。外領は四月乃至六月に於て大體に普通の降雨量を示した。イーストモンスーンは可成り遅く初まり七月に至つて漸く爪哇全島に及んだ。八月及九月は普通よりも乾燥で特に八月の乾燥が甚だしかつた。十月には若干地方で既に降雨を見初めたが十一月及び十二月は一般に雨少なきに悩み、爲めに若干地方では頗る長期な乾燥が續いた。

二、病 蟲 害

氣候が比較的平順だつた爲め病蟲害も普通の程度であつた。唯若干の作物は四月乃至六月の雨續きから起る濕潤と八月及び九月の甚だしい乾燥に悩んだ。乾燥は時として十月乃至十二月迄も續いたのである。歐人栽培作物の中護謨は根細菌の中でボリア

細菌 *Fomes Pseudo Ferrous* が益々重大となつた事を特記せねばならぬ。ペスキでは稿カケルが可成蔓延しタミアン地方では鹿の害が相當多かつた。規那は相變らず根細菌、蛾類幼蟲、ヘロペルテイス(此はスマトラに於ても蔓延するとの報道があつた)苗木の壁蝨類等の病蟲害に悩んだ。珈琲園ではベツセンブクが更に蔓延しつゝある。既にペスキ、中部爪哇、バレムバン及びスマトラ東海岸は之に侵され、マラン及びブリタル地方並に中部爪哇の諸園に於ける損害は莫大だつた。然しその撲滅は東爪哇で試験場指導の下に行はれた實地試験に依れば絶望ではない。ペスキでは鼠害や技食蟲 *Xylochorus* の害が再び甚だしくなり長期の乾燥中はラムトロ蝨や白蝨が現はれた。砂糖の根枯病は二一年よりも少く、セレ病は特にD・I五二號の諸園に現れ、白虱は諸處に於て多大の損害を醸した。又イーストモンスーンの終り頃には野猪の害も相當あつた。デリー、土人王領地及びペスキの煙草園には特に云ふべき程の病蟲害も起らなかつた。茶園は二一年に於けるが如く手入不充分から起る結果に悩み特に赤錆 *Cepha-*

Jenroa の被害が多く東部及び中部爪哇では壁蝨類の害も可成り多大だつた。チーク其他の植林地ではチエマラ *Tanger* に於て諸幼蟲の被害多く又チーク幼蟲の害も甚だしかつた。マホガニーはバチンから驚く可き損害を蒙つた。

三、カカオ

植付面積 二一年十二月末爪哇の廿三園總植付面積は七、五八六バウで其中六、二一八バウは生産面積であつた。外領にはスマトラ西海岸には總面積八バウ、生産面積四バウの一園あるのみである。

産額 前收獲の數量は豫想以上なりしに反し後收獲は著しい不作であつた。蛾の被害は二一年よりも少なく、ヘロペルテイ又は若干州に於て甚だしく蔓延し又ポールデルやカンケルも多大の損害を與へた。金花蟲に襲はれたカ、オ園もある。

豫想 二二―二三年ウエストモンスーンの平順な氣候は二三年の收獲を多大ならしむべく期待されてゐる。

四、護護及びグタベルチャ

植付面積 爪哇の四六三ヘベア護護園の二一年末植付面積は二二八、一六四バウで中一四一、六三四バウは生産中であつた。外領の四五三園の總植付及生産面積は各々二八四、八四六バウ及び一七七、九五三バウに達した。蘭領印度の總植付及生産面積は二〇年末の各四八〇、三二八バウ及び三一四、一二五バウに對し五一三、〇一〇バウ及び三一九、五八七バウに達した。生産面積は即ち五、四六二バウの増加である。ファイカス及び其他の護護種の總植付面積は二〇年の六、〇五七バウに對し、二一年末に於ては四、六四九バウだつたに過ぎぬ。蘭領印度で唯一のグタベルチャを生産する官營グタベルチャ園は一、八七六バウの植付面積を有し、二二年に於ては二一年の三、四六六噸に對し四、〇四五噸のグタ葉を産出した。

製造 本年度も主要な商品はスモークドシートとファーストレテックスクレープであつた。昨年度クレープに對して支拂はれたプレミアムは値段が續落して買手の興

味が減退すると共に消滅しシートとクレープは年度を通じて略同様の相場を示した。之れは歐洲市場に關しては高運賃に依りクレープ生産者の損失を意味するが、然し其後運賃が低落した爲め此要素は前行諸年に於けるが如く重大ではない。東洋市場の値段は多くの場合同臺にあり時にはシートが若干高値を唱へる事もあつた。製造法の變化は若干園に行はれたに過ぎぬ。然し若いシート園の産額増大に依り兩者の關係はシートを若干優勢ならしめた。特に前行二ヶ年に於て甚だしかつたシートの徴に關する苦情は、本年度に至つて激減した。以前の苦情は疑もなく戦争の結果として普通以上に永く貯藏されたシートに關連する場合が多かつた。それでもシートの徴とクレープの濕り汚點は尙多くの場合に護謨の圓滑な取引を妨げ普通以上に見本の検査を屢々ならしむる。諸農園は經費節減から來る人員の減少に拘らず其他に於てはよく市場の需要に適應するに成功した。護謨の外観を一定ならしむることは特に爪哇に於て益々希望せられつつある。市場は爪哇シートの雜種雜様に對して別に大した苦情を起さない

がそれでも外観のより一定したスマトラ品が買手工場主に喜ばるゝ事實は充分の考慮を價するのである。包裝方法には變化がなかつた。尤も大數量の護謨が莖包で仕送られた事もあるがその成功如何は未だ斷言出來ない。特別な形狀を有する護謨としては菓子型(スラブ護謨)のみならずオブクレープ後のライブ護謨が最も注意を惹いた。特に年度の中半及び終り頃には米國から絶へず需要があり餘りに大數量でない限り喜んで引取られた。機械の破損に依つてそのクレープ工場を一時閉鎖した一園は一ヶ月半に亘つてスラブを作り良好な成績を擧げた。生産を開始した斗りの農園又は小護謨園は今迄以上にスラブ型の利益を享受し得るであらう。然し蘭印の護謨栽培者連は完全な組織がない爲め斯の如き特別な形狀に對する需要を隣接諸生産地に奪はれ勝である事は否定出來ない。ブラジル法に依る玉護謨の製造は全然停止された。蓋し販路が不規則で従つて取引が困難な爲めで、機械を要しない形狀としてはスラブ護謨がより満足な成績を擧げる様である。新型として特記すべき生液である。船積は二一年にも既

に行はれたが其數量は本年度に至つて初めて多大となつた。此等の船積は主として一大米國會社に向けられるが今の處絶えずレーテックスを買付けるのは同社のみである。其他の仕送は全て大小の試験用の爲で護謨製造家及び製紙業者等が規則的な買付を初むるや否やは二三年に待たねばならぬ。レーテックスを約三〇乃至四〇パーセントの護謨含有率及六〇パーセント乃至七〇パーセントの無價値な乳汁として送る事は消費者に取り一見頗る不利益な様だが些細に研究するとそうでない。諸種の粉末法の應用に依り生液から頗る優良な性質を有する護謨を作る事に成功した。之は製造家に取つて高い輸送費用を償つて餘りある程の利益を提供すべく期待される。尙米國では既にレーテックスをタイヤ製造に於けるカンバス及びコードの注入に使用する事が大規模に行はれてゐる。又最近二ケ年の中にレーテックスは、製紙業にも少なからず使用さるゝに至つた。防腐劑としては概ね安母尼亞が用ひられ、取引は護謨含有率で行はれる。中央護謨試験場は護謨含有率及びアルカリ性監督の爲め假規定を作成した。

隔日採液の方法に依り四〇パーセント集中度が達せられ、レーテックス輸送に纏綿する苦情は減少した。又蘭米栽培會社はクロウゼ法に依るスプレー護謨を作り初めた。此製法は下の如く行はれる。レーテックスはベトン塔の中に塔外の發動機と連接する頗る高速度で回轉する圓盤に落ち爲めに塔の内壁には頗る微細に分離されたレーテックスの露が出来之に熱氣を送つて水分を蒸發せしめ残つた護謨は雪の如くなつて床に落ちる。此製法の費用はクレープやシートの製造品に比較して格安と云ふ譯には行かないが然し製造の大集中が行はれ得て多數の小工場を廢止して一大中央工場を以て全ての産額を取扱ひ得る可能性とその利益は頗る多大である。問題はレーテックスの中央工場に至る迄の輸送費用にあるが鐵道の沿線にある農園ではその解決も困難ではあるまい。蘭米栽培會社は目下スプレー護謨約五噸の一日當り生産能力を有する。クレープとシートは可成り硬い爲め硫黄や其他の藥品と混合した上熱氣ある輪轉機で柔軟化せねばならぬから其費用も可成多大であるがスプレー護謨は頗る軟かいから著しい

經費の減少が見られる事と思ふ。

護謨製造に必要な醋酸及二硫酸曹達等の藥品は本年度も可成な面倒と困難を醸した値段が絶へず動搖した反面に品質劣等な品物が多く若干月は含有率の頗る少ない褐色の醋酸しか入手出来ない程であつた。然し年末に至つて此等の點は著しい改善を來した。護謨製造機械には大した變化がない。値段は低落したが、財政状態の苦しい護謨園が多かつた爲め機械の買入は頗る僅少だつた。

五、コカ

古加は他の作物と混植され又路傍に植付られる事が多いから完全な資料を蒐集するは困難である。十六園の報告に依れば二二年末の植付面積は一、七一三バウに上り又廿九園は路傍植付の古加を有する旨報道した。一般に二二年は高値だつた爲め植付面積は増大した。外領には未だ古加の栽培を見ない。

六、土人農業

穀價 下表は内務省の毎月報に依る爪哇全體の平均穀價である。

一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
一九一八	一九一九	一九二〇	一九二一	一九二二	一九二三	一九二四	一九二五	一九二六	一九二七	一九二八	一九二九
盾仙	盾仙	盾仙	盾仙	盾仙	盾仙	盾仙	盾仙	盾仙	盾仙	盾仙	盾仙
四・七六	五・二六	五・〇二	四・六九	四・五五	四・五三	四・五三	四・六〇	四・八〇	五・〇八	五・五〇	五・九九
一九一九	一九二〇	一九二一	一九二二	一九二三	一九二四	一九二五	一九二六	一九二七	一九二八	一九二九	一九三〇
六・六三	六・五二	五・九九	五・二七	四・七五	四・六三	四・九〇	五・二四	五・二七	五・六三	六・四〇	六・七四
七・五五	七・〇五	六・九八	六・七四	六・七五	六・六八	六・九〇	七・〇五	七・〇五	七・四三	七・六五	七・六七
七・五四	七・三六	六・九八	六・三三	五・九二	五・九六	六・三三	六・七五	六・九七	六・九五	六・八六	六・九〇
一九三〇	一九三一	一九三二	一九三三	一九三四	一九三五	一九三六	一九三七	一九三八	一九三九	一九四〇	一九四一
六・六七	六・五五	五・五五	四・八六	四・三二	四・三三	四・四〇	四・五八	四・七五	四・七四	四・七六	四・七六

一ケ年の平均穀價及び其百分率は下の如くである。但し穀の大部分は安値の時に取引されるから此の一ケ年當り平均價格は餘り大した價值を有しない。

盾仙	百分率	盾仙	百分率
一九一八	四・九三	一九二一	六・一四
一九一九	五・六六	一九二二	四・九七
一九二〇	七・〇九	一九二三	一〇〇同
	一四三同		八
	八		九
	一〇〇パーセント		一二四パーセント五

即ち二二年の平均穀價は、一八年のそれと殆んど同様である。尤も一八年の市價は其前行諸年に比較すれば頗る高臺にあつた。白米の値段は地方に依つて頗る相違するかから明瞭な概観は與へ難いが二二年のそれは一般に戦前の數字には達しないが然し二一

年よりも頗る安値だつた。

其他の農産物のバツサル値段は二一年と比較して大した相違がない。

植付及び收穫 下表は過去五ヶ年に於ける主要食料作物の收穫面積である。

種類	一九一八	一九一九	一九二〇	一九二一	一九二二(假數字)
水 稻	四、一六六、〇〇〇	四、二九八、〇〇〇	三、八九七、〇〇〇	三、六九〇、〇〇〇	四、二〇六、〇〇〇
陸 稻	五七三、〇〇〇	五九〇、〇〇〇	六四四、〇〇〇	四二八、〇〇〇	四九〇、〇〇〇
玉 蜀 黍	二、二七〇、〇〇〇	二、七八〇、〇〇〇	二、七八五、〇〇〇	二、一〇四、〇〇〇	二、二二三、〇〇〇
カ サ バ	一、〇七六、〇〇〇	一、〇三三、〇〇〇	一、一四四、〇〇〇	一、一〇七、〇〇〇	一、〇一三、〇〇〇
甘 藷	四八八、〇〇〇	四〇八、〇〇〇	三七八、〇〇〇	二七五、〇〇〇	二二九、〇〇〇
大 豆	二二七、〇〇〇	二二三、〇〇〇	二二九、〇〇〇	二二六、〇〇〇	二二二、〇〇〇
落 花 生	三三二、〇〇〇	二四四、〇〇〇	二八五、〇〇〇	二七九、〇〇〇	二六四、〇〇〇
其他の豆科作物	四〇八、〇〇〇	三六二、〇〇〇	三三四、〇〇〇	三〇三、〇〇〇	二六九、〇〇〇
計	九、三六六、〇〇〇	九、八三四、〇〇〇	九、六八六、〇〇〇	八、四二二、〇〇〇	八、九六六、〇〇〇

即ち二二年は二一年よりも五一四、〇〇〇バウの増大を見た譯である。

水稻 二〇及び二一年と反對に二二年は平順な年で、前行二ヶ年の三、八九七、〇〇

〇バウ及び三、六九〇、〇〇〇バウに對し四、二〇六、〇〇〇バウから收穫を見た。統計

課の第一豫想に依れば二二年の水稻粗産額合計は一八一二〇年平均一〇〇、四五二、六六七ビクル及び二一年の八二、六〇五、八六五ビクルに對し一〇〇、八九四、九七九ビクル(六二、三一四、〇五三)に達した。二二年の爪哇に於ける凶作面積は二一年の五七九、〇〇〇バウ又は一三パーセント四一に對し二〇四、〇〇〇バウ又は收穫面積と凶作面積を合した總面積の四パーセント六三に上つた。凶作の最も多かつたのはスラバヤ、レムバン及びバンタムの諸州である。

陸稻 二二年の收穫面積は四九〇、〇〇〇バウで二〇年よりも一五四、〇〇〇バウ少く二一年よりも六三、〇〇〇バウ多かつた。凶作面積は二一年の三、二〇〇バウに對し一、四〇〇バウに上つた。

玉蜀黍 二二年には二〇年の二、七八五、〇〇〇バウ及び二一年の二、一〇四、〇〇〇バウに對し二、二二三、〇〇〇バウから收穫があつた。即ち二一年よりも收穫は増大した譯であるが一九年及び二〇年と比較すれば頗る少なかつた。

カサバ 收穫面積は二〇年の一、〇二三、〇〇〇バウ及び二一年の一、一〇七、〇〇〇バウに對し、一、〇二三、〇〇〇バウで二〇年と殆んど同面積である。

甘藷 收穫面積は一八年の四四八、〇〇〇バウから二二年の二三九、〇〇〇バウ迄漸減した。此作物は米の不足時及び米價昂騰の場合にのみ土人の食料として重大な意義を有する。營養價も頗る少なくそれに土人は甘藷よりもカサバを好む傾向がある。

落花生 二〇年の二八五、〇〇〇バウ及び二一年の二七九、〇〇〇バウに對し本年度は二六四、〇〇〇バウの收穫があつた。

大豆 此作物の收穫面積は可成り安定して居る。即ち二〇年二二九、〇〇〇バウ二一年二二六、〇〇〇バウ及び二二年二三二、〇〇〇バウである。

其他の荳科作物 本年度は二〇年の三〇四、〇〇〇バウ及び二一年の三〇三、〇〇〇バウに對し二六九、〇〇〇バウの收穫面積で前行諸年に比し多大の減少を示した。

商業作物 問題の性質上商業作物の植付は尙不景氣に悩んでゐる。藍は人造染料の

競争に依り更に衰退した。下表は主要商業作物の收穫面積である。(單位バウ)

種類	一九一八	一九一九	一九二〇	一九二一	一九二二
煙草	一四三,〇〇〇	一四〇,〇〇〇	一三七,〇〇〇	一三九,〇〇〇	一五一,〇〇〇
藍	六,六〇〇	六,六〇〇	一七,三〇〇	一七,〇〇〇	一五,〇〇〇
棉	一六,〇〇〇	一五,〇〇〇	一七,〇〇〇	九,〇〇〇	六,〇〇〇

土人の茶栽培は下半期の市況が活潑となりカムボン茶の買付値が昂騰した爲め相當の利益を擧げた。

五、規 那

爪哇の一二三園は二一年末に於て二一、九一七バウの總面積を有した。其中生産面積は一六、八五〇バウである。二〇年には一四、八九二バウの生産面積であつた。外領の一〇園は一、三九八バウ(二〇年は一、二二二バウ)及び五七二バウの總植付及び生産面積を有した。二〇年の資料に依れば同年の生産面積は九五六バウであつた。

六、珈 琲

爪哇の二一年末總植付面積は二〇年の一四九、二〇九バウに對して一四七、七六六バウに上り其中生産面積は二〇年の一二二、五五六バウに對し一一五、七七二バウに上つた。農園數は二九四である。外領からの報道に依ればその總植付面積は四〇、三二一三バウで其中生産面積は二〇年の二五、二四五バウに對し二四、六二九バウに上つた。従つて蘭印全體の總植付面積は二〇年の一九三、二六四バウに對し一八八、五八九バウである。爪哇植付面積の中一二八、六六五バウはロブスタ、六、五九一バウは爪哇五、七四八バウはリベリア及び八、五九七バウは雜種珈琲であつた。ベスキ及びバスルアンは總植付面積の各々三割及び二割六分を占めてゐる。二二年の爪哇珈琲收穫は頗る豊作でロブスタ收穫も可成りな成績であつた。

七、油椰子

五一園の二一年末植付面積は一八、二三三バウ、其中生産面積四、七二七バウで二、一四九噸の油及び一五三噸の油椰子實産額があつた。二〇年の總植付及び生産面積

は一三、五二四バウ及び五、〇六七バウと報道された。スマトラ東海岸は二〇年と比較すれば五、〇〇〇バウ強の植付増加を示した。アツチエ及屬領の植付は一見減退したが之れは一油椰子園が資料の供給を拒絶した爲めである。

爪哇の植付面積は全體で四二七バウに過ぎぬ。

八、砂糖

植付面積と産額 一九二二年收穫年の運轉工場數は一八三に上つた。ラヌバキスはヂャテイロトに合併され、セダユの甘蔗は姉妹工場で壓搾され、又センダンビトウ園は初めて自園の甘蔗から製糖した。バンジユマスのマゼナン工場及びプロボリンゴのセボロ工場は、製糖期の終了後閉鎖された。セボロの閉鎖が一時的なるか否かは不明である。州別の産額數字は下の如くである。

州	二二年 運轉工場數	二一年收穫砂糖産額 ピクル	二二年收穫砂糖産額見積 ピクル	増減
ベ ス キ	九	一、二五、四五〇	一、〇三、五、三三	減 一%九

關領東印度貿易大觀

三六四

州	二二年	二二年收穫の植付面積	二三年收穫の植付面積	増減
パスルアン	二八	三、六六〇、三四五	三、六六〇、三四五	増 七%四
スラバヤ	三六	四、六〇八、八〇〇	四、八〇六、三〇九	増 四%一
ケデイリ	二二	四、〇九九、三四	四、〇四七、六五〇	減 一%三
マヂウシ	六	一、一〇三、〇六九	一、二八〇、六九四	増 二%三
スマラン	二二	一、七五七、七〇六	一、八九二、〇三一	増 七%一
ソロ	一五	三、四四二、〇八三	二、五七一、九五〇	増 七%一
ジヨクヂヤ	一七	二、六八四、八九四	三、二二一、九九一	増 五%一
ケドウ及バンジユマス	八	一、三四二、〇七一	一、五八八、二〇六	増 一四%
ベカロンガン	一八	二、八六六、五二九	一、五八八、二〇六	増 一五%
チエリボン	一三	一、五八四、九二四	三、一三八、四五〇	増 八%七
東部爪哇	一〇〇	一四、六〇七、三七八	一五、一八二、二六四	増 五%五
中部爪哇	五三	八、三六、七五四	五〇八、〇九五	増 三%八
西部爪哇	三二	四、四五、四四三	二七四、九二七	増 二%〇
計	一八三	二七、二八五、五七五	二九、一七二、〇〇六	増 六%五

二二年の收穫面積は二二二七、〇一六バウに達した。新植付面積は二二一九、九四一バウである。植付面積の明細は下表に明かである。

州	二二年	二二年收穫の植付面積	二三年收穫の植付面積	増減
パスルアン	二八	三三、八六六	二四、〇三一	増 〇%六
スラバヤ	三六	三八、二八五	二七、一六七	増 一%六
ケデイリ	二二	三三、四一三	三三、三〇九	増 二%八
マヂウシ	六	九、三六二	六、六四三	増 四%六
スマラン	二二	二二、七五〇	九、七五七	増 〇%五
ソロ	一五	一九、三七〇	一三、七四五	増 四%六
ジヨクヂヤ	一七	三三、三三五	一五、七七八	減 〇%六
ケドウ及バンジユマス	八	一一、九〇九	八、四五二	増 〇%五
ベカロンガン	一八	二四、一四二	一七、一三二	増 一%一
チエリボン	一三	一三、五一〇	九、五八七	増 四%二
東部爪哇	一〇〇	一三三、一〇〇	八六、六四三	増 一%四
中部爪哇	五三	六七、二四六	四七、七三一	増 一%二
西部爪哇	三二	三七、六五二	二六、七二八	増 〇%九
計	一八三	三三、〇一六	二九、九四一	増 一%三

前行諸年の爪哇糖收穫は下記に達した。

一九一七	二九、五〇二、六三六ヒクタル
一九一八	二八、七九一、六四五
一九一九	二一、六三三、五二四

一九二〇

二四、九九八、二六三

従つて二二年は爪哇糖業に取り頗る豊年で一七年のレコードに接近した。二二年收穫に對する甘蔗は手早く植付られたが東爪哇では二一年の十一月及び十二月は頗る乾燥してゐた。二二年の一月も尙乾燥が強く二月及び三月は充分の雨量だったが然し東爪哇では三月末に至つて再び降雨の僅少に悩んだ。四月、五月及び六月上半は各地とも頗る濕潤で、六月の雨續きは本收穫年に於て特記すべき事實であつた。爲めに抵抗力の弱い甘蔗も充分生育し得た。雨期の遅かつた爲めに起つた不利益は輸送の困難と一時的な歩留り減少で、運轉中止を見た地方もあつた。然し大局から論ずれば本年度の雨期は悪影響よりも寧ろ好影響を與へた方が多かつた。パウ當り平均産額も一二八ビクル五〇の見積である。收穫、植付及び製造には別に困難な問題も發生せず、各地とも勞力は充分で砂糖輸送も規則的に行はれ得た。唯二三年收穫に對する新植付は雨期が遅れた爲め若干の困難を醸した。當時植付られた地面は未だ充分に風化されず水

氣多き爲め屢々苗腐れを生じた。又山嶽地方から供給された苗もロードスノット及びアナナス病に悩んだ。特に東爪哇に於ては水田の借入が遅れ、又雨遅れの爲め、植付を妨げられたが、勞働者の供給が充分だつた御蔭で、殆んど適時に植付を終つた。新收穫に對するモンスーンの経過は餘り良好でなく、一般に雨遅で、テガル、ペカロンガン、モジョケルト、シドアルジョ及び、バスルアン等の若干地方では十一月及び十二月の雨不足は頗る甚だしかつた。

生産費 砂糖シンジャーットの年報に依れば前行諸年の生産費、販賣値及び利益は下記に上つた。

	生産費 盾仙	販賣價格 盾仙	利益 盾仙
一九〇七	五・九四	六・五〇	〇・五六
一九〇八	五・七五	六・八二	一・〇七
一九〇九	五・八五	六・九五	一・一〇
一九一〇	六・二〇	七・九四	一・七四
一九一一	六・二七	七・七四	一・四七

一九一二年	六・四四	八・二六	一・八二
一九一三年	六・四四	七・五〇	一・〇六
一九一四年	五・八五	八・五〇	二・六五
一九一五年	六・三八	九・九一	三・五三
一九一六年	七・一七	一一・四九	四・三二
一九一七年	六・三八	一〇・三八	四・一
一九一八年	七・五〇	八・六〇	一・二〇
一九一九年	八・三九	一七・六六	九・二七
一九二〇年	一九・七八	三三・六五	一三・八七
一九二一年	—	一五・〇五	—

二〇年の生産費は全ての税金を含んでゐる。二一年の生産費は税金額の未定に依り未だ確定され得ない。二二年には機械耕作に關する重大な試験が行はれた。其結果レイン溝を機械掘する可能性が明瞭となつた。然し勞力の供給が充分である限り糖業に於ける機械の應用は之に伴ふ使用の多大なる爲め頗る限局された範圍に止るであらう。

九、煙草

王領地煙草 二二年收穫は不成績に終つた。耕作時には六月迄續いた雨も其後生育期間中特に十月及び十一月に少なかつた爲め頗る失望的な一番植付の收穫を與へ品質も悪化した。十二月には雨多く爲めに良好な成績を期待された二番植付も一部分は生育を妨げられ産額も僅少だつた。従つて一般に收穫數量は減退しパウ當り一、八〇〇封度の産額は頗る上等な方であつた。本年度はフアイトトラ菌に依る被害は割合に少なく又スレイム病は落花生の隣作が行はれた土地にのみ甚大の打撃を與へた。苗圃の幼蟲被害は毒藥の撒布に依つて相當退治され其他ローズフラートの如きも殆んど發生しなかつた。

ベスキ煙草 前收穫に就いて述べれば煙草市場の軟弱と買付値段の續落に依り土人は大して新植付を行はず従つて收穫も一般に僅少だつたが品質に至つては歐洲向も内地向も可成り優良であつた。本年度は後收穫に對する植付も土人の煙草畑及び歐人の煙草園に於て前行諸年よりも少なく土人王領地の植付面積は減少の一方でベスキの植

付も減退傾向にある。二三の除外例を除き品質も一般に悪かつた。

デリー煙草 天候状態は大體に頗る良好で、植付年度初めは乾燥が続いたが其後降雨も充分となり米國市場に適した多量の優良煙草收穫があつた。勞銀のみならず諸種の作業上に行はれた經費節減の結果二二年收穫の生産費は頗る低められたから本年は各園共充分の利益を擧ぐべく期待される。各社協定の上本年度のデリー煙草賣出數量は最高一九五、〇〇〇梱と確定された。之れはセコンドハンドの煙草ストックが莫大で又獨逸の國境が原料煙草の輸入に對し閉鎖された事實に關連してゐる。二三年に對しても同様の手段が採られる筈である。爲めに煙草園の大部分は其植付面積を縮少し又成績不良な若干園は閉鎖さるゝに至つた。

一〇、茶

二一年末の茶植付面積は一二八、八九二バウで其中一一六、九七五バウは生産面積で、乾燥葉二八、八七一噸の産額があつた。二〇年の當該數字は各々一二五、三三四

バウ、一一一、七三四バウ及び四〇、五一六噸である。即ち二一年は面積に於て五、〇〇〇バウを増大したに拘らず産額は六、〇〇〇噸の減少を來した。之れは主として若干工場の閉鎖と若葉摘みの適用に依る結果である。爪哇ではブリアングルが最も重大な茶産地であるが生産面積は七七、五七一バウでその産額は一八、四九二噸即ちバウ當り二三九噸に達した。二〇年のバウ當り平均産額は三五九噸である。外領では殆んど茶園のあるのはスマトラ東海岸のみで其バウ當り産額は二〇年の六〇八噸に對し四五一噸に上つた。

産額 下表は統計課の毎月統計にその資料を提供する農園の收穫數字である。此等の諸園は二〇年に於て三四、七四三、一二六噸を生産したが二一年には減少を來し二二、一七三、五七三噸となつた。即ち前行年の六三パーセント八である。然し二二年には再び三〇、〇六七、一六八噸に増加し二〇年の八六パーセント五となつた。外領の諸茶園は二〇年の四、五四四、一〇二噸及び二一年の三、六三九、四七〇噸に對し

本年度は四、〇〇一、二〇〇疋の産出を見た。一般に爪哇外領を通じ最も産額の激減したのは二一二年上半期で其後は漸増傾向を辿つてゐる。(單位疋)

爪哇	農園數	産額	採集中止園數	對二〇年百分率
バタビヤ	三、四、五六八、九六三	三、二九七、二六八	—	七三・二
チエリボン	四、四九七、〇九八	二、六九、四一九	—	五四・二
プリアンゲル	二、六二七、六四六、一三五	二、六、九八、四三九	五	六二・三
ムカロンガン	二	三、五三、五九二	—	八六・九
スマラン	二	二、八三、九四三	—	八六・五
バンジュマス	二	二、八三、〇三八	—	七四・七
ケドゥ	四	三、五三、二一八	—	八〇・九
ソロ	三	一、九八、二五五	—	一〇〇・八
クダイリ	四	二、八五、九八八	—	七三・八
パスルアン	五	二、七四、〇五七	—	七五・八
計	一、八三、三四、七四三、八二六	一、七三、五七三、三〇、〇六七、一六八	五(註一) 二(註二)	六三・八
外領	農園數 一九〇〇	産額 一九三三	採集中止園數 一九三三	對二〇年百分率 一九三三
スマトラ東海岸	一〇、四、四四三、四五九	三、五九五、九三三	—	八〇・九

スマトラ西海岸 一 一〇一、六四三 四三、五四七 一七、八八八 四二・八 一七・六
 計 二 四、五四四、一〇一 三、六三九、四七〇 四、〇〇一、二〇〇 二(註三) 一(註四) 八〇・一 八八・一

註一、二〇年の産額は湯葉七、八九三疋及び乾葉一八九、二七七疋に達した。
 註二、二〇年の産額は湯葉三三五、三八二疋及び乾葉三三二、九一六疋に達した。
 註三、二〇年の産額は乾葉二、九四疋に達した。
 註四、二〇年産額乾葉二、九四疋に達した。

第七章 海運業

一、海運界

本年度の成績は一般に良好だとは云へないが唯海運界に於ける經濟關係が回復と安定の傾向を見せた事は確かである。即ち積極的には輸送貨物の増加と營業及び港灣經費の減少があり消極的には資力薄弱な船會社や採算不引合な航路に於ける船舶の減退である。唯勞銀の高さと從業者が諸問題を惹起する事多い爲め急速な回復は未だ望まれない。又諸國相互の競争も猛烈に續行されてゐる。米國船舶局に依つて管理される船舶は米國政府の援助に依り頗る低値で就航して居り、日本及び獨逸船舶から受ける

競争も可成り強い。然し獨逸海運界の再興と發展は自然的な限界線に妨げられる。獨逸が更に貧窮化してその輸入が續減すれば輸出も衰退を免れざる可く獨逸海運は悲況に立至る外あるまい。世界の船舶噸數は一九一四年に於て四二、五一四、〇〇〇噸に過ぎなかつたが、ロイド原簿に依れば二二年六月現在高は鐵及鋼船だけで五六、八〇二、〇〇〇噸に達した。即ち八ヶ年間に一四、二八八、〇〇〇噸の増加を來した譯である。然し船舶の年齢を調べれば噸數の多大は餘り恐るゝに足らない。ロイド原簿に依れば五年未滿の船舶は四七パーセントで、一七パーセントは五年乃至十年、一二パーセントは十年乃至十五年及び十五年乃至二十年で、残り一一パーセントは二十年以上である。船の年齢を二十年とすれば世界船舶の二割即ち千二百五十萬噸は老朽船で實際の使用に適しない譯である。實際又此等の船舶は大部分繫留されて居り將來も到底再び就航しないであらう。世界の造船高はロイドの資料に依れば二二年に於て進水八八五二隻、二、四六七、〇八四噸に上つた。主要諸國の分前は下の如くである。

英 國	獨 逸	佛 蘭 西	和 蘭	米 國	伊 太 利	日 本
一、〇三一、〇八一噸	五七五、二六四	一八四、五〇九	一六三、一三二	一一九、一三八	一〇一、一七七	八三、四一九

二一年と比較すれば一、八七四、〇〇〇噸の減少で列國の中増加を示したのは獨逸のみである。又一九一九年のレコードと比較すれば四、六七七、〇〇〇噸の減少である。英國と愛蘭は外國の爲めに三六八、〇〇〇噸を造船したが其中和蘭勘定は九七、六〇〇噸であつた。二二年初めには獨逸を除き建造中の船舶は四、四五七、〇〇〇噸に達した。二二年末の建造中船舶噸數は二、九五四、〇〇〇噸であつた。然し此中には獨逸の四六四、〇〇〇噸も含まれてゐるから他諸國に對する減少は約二、〇〇〇、〇〇〇噸である。又上記の數字二、九五四、〇〇〇噸の中五六四、〇〇〇噸に達する船腹は諸種の理由に依り建造を中止された。本年度の世界貿易は確かに増大したが運賃は一般に低落傾向にあり、年初めの諸月は手堅かつたが四月に初まつた低落は九月

迄續いて最低點に達し其後は若干改善した。世界海運界に於て特記すべき事實は米國の石炭罷業、北米、南米、印度及び濠洲に於ける大收穫並に智利硝石の取引復活であつた。米國西海岸から英國、大陸又は地中海行穀物二十〇〇千當り運賃は年末に至つて卅七志六毛を唱へた。最高最低は二一年の八十志及び五十五志に對して四十四志九片及び卅一志三片であつた。ヴェノスアイレスから英國又は大陸諸港行噸當り穀物運賃は二十六志六片の年末相場で最高最低は二一年の各五十二志六片及び十五志三片に對して卅六志三片及び十八志に達した。爪哇から米國又は歐洲行廿〇〇千當り砂糖運賃は一九一四年末の廿九志六片に對して卅五志の年末相場であつた。二一年の最高最低は七十二志六片及び卅五志に達した。

和蘭籍船の海運

イ、内海航路 一般に内海航路は前行年よりも減退した。貨物輸送は一部分中繼輸送の増加で補はれたが、旅客輸送が頗る衰退した爲め經費節減は益々續行されねばな

らなかつた。物産輸送はコブラを除き他は全て前年度よりも少なかつた。コブラに於ても規則的な積荷需要があつた譯ではなかつた。三月に至つて突然歐洲行の輸送に、特にコブラに對して異常な活氣を呈し、年度を通じて存続した。唯外國船の競争に依り、直接港の標準運賃が暴落した爲め、通し運賃も自動的に低落せねばならなかつた。九月末に至つて運賃は、相當な臺迄引上られたが、多大の船腹が舊運賃で先約された爲め、年度の營業成績には大した好影響も與へ得なかつた。又積替の費用は相變らず甚だしい高臺にあり勞銀も引下げられはしたが未だ平順臺には達しない。K・P・Mは旅客船タスマン號及び貨物船パロポ、ピントウハン、バレレ、パリギ、バシルの諸號を新たに就航せしめた。尙旅客船ボンテクウ、プランシウス及びスワテンホンドは建造中であつたが、貨物船バリマ及び、ランタウバンヂヤンは年度末に於て既に印度への航海中及び其準備中にあつた。又ドゥイマイルフアントウイストは廢船となつた。

ロ、遠洋航路 二二年は諸大汽船會社に取つて安定化の時期であつた。和蘭の諸大

會社は聯合和蘭汽船會社の下に結束し世界全體に亘るその活動を組織化し船腹の過剰を防ぎ得た。和蘭爪哇間の郵便航路は二二年に於ても亦規則的に行はれた。ネーザランド及びロッテルダムロイドが特別急速航路を作つた爲め旅客の大過剰は消滅し、従つて急速航路も間も無く廢止され得るに至つた。旅客數は漸減の傾向にあり、下半期にはその收容能力は豫猶を示すこと多く、爲めに貨物船の旅客收容は撤廢さるゝに至り又旅客運賃も著しい引下を見た。積荷の提供は年度を通じて頗る僅少だつた爲め蘭領印度から滿載で出帆すること困難な場合多く空腹の航海も少なくなかつた。然し歐洲に於ける積荷提供は更に一層悪い成績で航海數は減少され多數の船舶は繋留さるゝに至つた。又反面に於て積荷減少の爲め諸港に於ける停滯日數は前年度に比し激減した。印度諸港の荷役は諸種の設備が完成された爲め圓滑に進んだ。米國、英領印度、支那及び日本への諸航路は殆んど利益を擧げず、往航貨物は少なからずあつたが船腹の供給が過剰で特に米國、日本及び支那船の競争が甚だしかつた爲め思はしい成績は擧

らなかつた。爪哇紐育線は積荷不足の結果八月に至つて三週一回から毎月一回の出帆となつた。然し年末は多少景氣回復して若干特別船の配航を見た。爪支日線はその航海度數を變せず又本年度に至つて貨物船を定期に出帆せしむる事とした。

ネーザランド汽船會社は旅客船オレンヂ號を賣却し反對に貨物船スムピラン、マツラ、マスラン、マビア及びムナ號を進水せしめた。然し其中實際就航したのはスムピラン號のみで他は繋留中である。尙シンケツプ號及スムバ號は建造中である。會社は二二年に於て廿九隻の郵便船及び四十隻の貨物船を歐洲へ四隻の貨物船を米國へ及び八隻の貨物船をカルカッタへ就航せしめた。ロッテルダムロイドは和蘭へ郵船卅隻及び貨物船廿三隻、紐育へ貨物船六隻を殆んど滿載の状態に爪哇から、就航せしめた。又繋留船舶數は十隻乃至十三隻の間を往來し、チャーターされたのは九隻で七隻は聯合和蘭海運會社の蘭米航路に加はつた。爪支日線の二二年船舶數は十四隻で其中一隻即ちチサルマ號は建造中にあつた。チカンデー號は蘭濠航路に就きチレブット號は爪

哇バシフイック航路に就航した。爪哇バシフイック輸送は米國船舶の過剰と米國太平洋海岸の工業僅少並に米國の採つた鐵道運賃保護政策の結果年度を通じて續減した。

外國籍船の海運 獨船の活動は益々著しくなつた。獨濠會社は、多數の新式船を以て船隊を増大し、對蘭印航路では相當の成績を收めた。二二年中に殆んど船腹滿載で歐洲に出帆した同社の船舶は十八隻に達する。新式船には旅客輸送の設備もあり其中四隻は絶えずハンブルグ及び爪哇間の毎六週定期航路に従事してゐる。ロイドトリエステイノは、別に對蘭印航路を擴張せず、直接トリエスト行貨物を積込む爲め蘭領印度に寄港したのは二隻に過ぎぬ。其他の積荷は新嘉坡で中繼されるを常とした。

其他諸國の船舶に關する資料は未だ入手出來ない。

運賃 運賃市場は殆んど全線に亘つて低落を續け、引上を見たのは僅少に過ぎぬ。爪哇、バタン及びマカツサから歐洲への主要物産に對する運賃協議會の基礎運賃は下記に上つた。

物産種類	單位	二〇年未 盾仙	二一年未 盾仙	二二年未 盾仙	二四年未 盾仙
アルコール及びアラ ツク、レツヘル入	二一 ^二 ヘーレ ^二 及 レツヘル當リ	二六八・〇〇	二六二・〇〇	二二二・〇〇	二一七・五〇
落花生、脱穀	一八〇〇	一五〇・〇〇	九三・〇〇	八六・〇〇	六三・五〇
竹製帽子	立方米突	五五・〇〇	三八・〇〇	三六・〇〇	三三・〇〇
カカオ、袋入	一五〇〇	一七二・〇〇	一〇九・〇〇	一〇九・〇〇	一〇九・〇〇
コブラ、袋入	一〇〇〇	一七〇・〇〇	五四・〇〇	四九・〇〇	五八・〇〇
コ	立方米突	五七・〇〇	三五・〇〇	三五・〇〇	二八・〇〇
コバル及ダマル、箱入	同	五七・〇〇	三五・〇〇	三五・〇〇	三五・五〇
護謨及びグタルチャ	同	六〇・〇〇	二五・〇〇	三二・〇〇	四八・〇〇
同	上	一八〇・〇〇	七五・〇〇	九六・〇〇	—
木材、チーク、一立方 米突迄の角材	立方米突	五二・〇〇	四三・〇〇	三四・五〇	三三・〇〇
同上、三立方米突以上	同	五五・〇〇	四八・〇〇	三八・五〇	三六・〇〇
同上、三立方米突以上	同	六八・〇〇	五九・〇〇	四七・五〇	四四・〇〇
同上、サンダル及び根	同	八〇〇	一〇〇・〇〇	八五・〇〇	七〇・〇〇
皮革(牛及び水牛皮)包	一三〇〇	一五六・〇〇	一一一・〇〇	一〇〇・〇〇	—

關領東印度貿易大觀

同上、無包裝	同	一七〇・〇〇	—	三八二	—
カボック	立方米突	五〇〇・〇〇	三七〇・〇〇	一三三・〇〇	一三三・〇〇
規那皮	同	五五〇・〇〇	五四〇・〇〇	三七〇・〇〇	一三〇・〇〇
肉桂(カシアペラ等)	同	五三〇・〇〇	一九〇・〇〇	五四〇・〇〇	三三・五〇
珈琲、剥皮	一八〇〇疋	一八二・〇〇	一九〇・〇〇	二九〇・〇〇	一七〇・〇〇
丁香、箱入	立方米突	五三〇・〇〇	一〇二・〇〇	九〇・〇〇	八六・〇〇
肉荳蔻、同	同	五三〇・〇〇	三五〇・〇〇	三五〇・〇〇	三五〇・〇〇
油(椰子油、落花生油等) 樽又はドラム入	同	五九〇・〇〇	三七〇・〇〇	四九〇・〇〇	二二・五〇
パラフィン及び蠟燭	一七〇〇疋	二八〇・〇〇	五七〇・〇〇	五七〇・〇〇	七八〇・〇〇
胡椒、黒及白	一五〇〇同	一七三・〇〇	八七・〇〇	八七・〇〇	一〇〇・五〇
種子袋入	一三〇〇同	一八〇・〇〇	七九・〇〇	七九・〇〇	四七・〇〇
同上、箱入	立方米突	六七〇・〇〇	四二・〇〇	四二・〇〇	三三・〇〇
藤	七〇〇疋	一三〇・〇〇	八二・〇〇	七五・〇〇	六二・五〇
煙草、各種	八〇〇疋	△三九・一〇 ×一〇一・〇〇	六〇・〇〇	五五・〇〇	五七・〇〇
タバコカ粉	一〇〇〇同	一八〇・〇〇	五五・〇〇	四五・〇〇	五五・〇〇

タバコカ片	一〇〇〇同	一三九・〇〇	五五・〇〇	五四・〇〇	七八・〇〇
タバコカ粒	一八〇〇同	一三九・〇〇	五五・〇〇	五四・〇〇	七八・〇〇
茶	立方米突	四四〇・〇〇	三〇〇・〇〇	三〇〇・〇〇	三三・〇〇
錫	二〇〇〇疋	九六〇・〇〇	七〇〇・〇〇	七〇〇・〇〇	五六・五〇
織	立方米突	四二〇・〇〇	三八〇・〇〇	三〇〇・〇〇	三三・五〇

△爪哇、煙草、×其他の煙草

和蘭諸汽船會社は外國船の競争甚だしき爲め二一年十二月二十七日に至り其對米運賃率を一時撤廢するの止むなきに至つた。カボック運賃の如きは特に米國船舶院側の競争に依り一立方米突當り十七盾迄暴落したのである。

二三年一月に各船主間に運賃協定が出来た事は特記して置かねばならぬ。爲めに其後運賃市場は若干改善し、一立方米突當り廿盾に低落した護謨運賃は二三年一月に於て二十五盾となり、又十七盾だつたカボック二十五盾となり、胡椒は四十五盾から五十五盾へ茶は二十七盾五十仙から卅二盾五十仙に昂騰した。